青森県埋蔵文化財調査報告書　第443集

三内丸山遺跡31

平成18年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第443集

三内丸山遺跡31

－第18・21・24次調査報告書－

平成18年度

青森県教育委員会

第24次調査区全景（北から）

序

青森市に所在する三内丸山遺跡は縄文時代前期から中期にかけての大規模な集落跡です。

平成４年度から開始した発掘調査によって、円筒土器文化を代表する学術的に極めて重要な遺跡であることが判明し、青森県は三内丸山遺跡を貴重な文化遺産として保存し、広く活用をはかり、整備をすすめることを決定いたしました。その基礎資料を収集し、学術的解明を進めるため、発掘調査を継続的に実施しているところです。

平成９年３月には国史跡、そして平成12年11月には国特別史跡の指定を受けたところであります。

本書は、三内丸山遺跡の全体像を解明するため、平成12、13、14年度に実施した発掘調査の結果をまとめたものです。

調査の結果、盛土遺構や列状に並ぶ墓、道路跡の存在が確認されるなど、遺跡西側の集落構造が明らかになってきました。

調査の成果は、三内丸山遺跡の整備や学術研究に活用していく所存ですが、今後の埋蔵文化財の保護と研究に役立てれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施及び本書作成にご尽力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

青森県教育委員会

教育長　田村充治

例　　言

1　本報告書は平成12、13、14年度に国庫補助を受け実施した第18・21・24次調査の発掘調査報告書である。三内丸山遺跡においては、平成７年度の調査開始から第１次、第２次調査…と着手順に呼称している。

2　三内丸山遺跡の遺跡番号は01021番である。

3　報告書の執筆は、土器に関する記述を秦が、礫石器に関する記述を木村が、剥片石器に関する記述を浅田が、土製品・石製品に関する記述を水谷が、その他を秦、中村が担当した。

4　本遺跡の遺構番号は、種類毎に通し番号を付してある。

5　挿図の縮尺は、各図に示している。なお、写真の縮尺は統一していない。

6　遺構図面の記載にあたっては、土器－P、石器・石－S、柱穴－P_1、P_2、ローム・ブロック－L.B.の略号を用いた。

7　竪穴住居跡の床面積は、壁の下端で囲まれた範囲（掘り方面積）をプラニメーターによって計測し、３回の計測による平均値を用いた。

8　資料の鑑定及び同定、並びに分析については、次の方に依頼した（敬称略）。

石器・石製品の石材の種類鑑定　青森県立浪岡高校教諭　山口　義伸

9　本書に掲載した地形図（遺跡の位置）は、国土交通省地理院発行の２万５千分の１の地形図を複写したものである。

10　遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。

(1) 遺構番号は一部を除いて発掘調査時のものを用いている。

(2) 遺構内外の堆積土の注記は、「新版標準土色帖」（小山、竹原1990）を用いた。

(3) 原則として、遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

(4) 縄文原体は、山内清男「日本先史土器の縄紋」（先史考古学会　1979）を参考に分類し、記述はそれに従った。ただし、観察表では以下のように省略した。

結節回転文－結回、単軸絡条体○類－単絡○、結束第○種－結束○、多軸絡条体－多軸絡

また表中では、縄文原体の回転文の場合は種類のみ、押圧文（撚糸圧痕・側面圧痕）の場合は種類の後に「押」を付けている。馬蹄形の圧痕については「R馬蹄押」のように表記を分けている。隆帯・貼付帯上の施文文様は「貼」の直後に括弧書きした。

(5) 観察表中では、以下の略語で縄文原体以外の土器文様や付着物等を記載している。

竹管状工具による刺突－竹管刺突、半截竹管状工具による刺突－半竹刺突、ヘラ状工具による刺突－ヘラ刺突、折り返し口縁－折返。

炭化物付着（部位）－炭（部位）、漆塗布（部位）－漆（部位）、赤色顔料付着（部位）－赤色（部位）。

付着物等の部位については、外面全体－外、内面全体－内、口頸部外面－口外、口頸部内面－口内、胴部外面－胴外、胴部内面－胴内、胴部外面の上半部－胴外上、胴部外面の下半

部－胴外下、胴部内面の上半部－胴内上、胴部内面の下半部－胴内下、底部外面－底内、底部外面－底内と略記した。

11　引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。

12　発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室が保管している。

13　第18・21・24次調査に関しては、本報告書がこれに先立つ全ての資料・報文等に優先する。

14　図中に使用したスクリーントーンは以下のものを表す。

遺構・石器

地山

柱痕跡

焼土・石器磨面

石器光沢

粘土

炭化物

石器敲打痕

黒　曜　石

縁辺のつぶれ

表面変化
（摩耗・風化？）

ガラス光沢の
無い部分

目　　次

口　絵
序
例　言
目　次

第Ⅰ章　調査の概要
第1節　調査目的 ……1
第2節　調査要項 ……5
第3節　調査方法 ……7
第4節　調査経過 ……8
第5節　整理方法 ……9

第Ⅱ章　第18・21・24次調査
第1節　調査の概要 ……12
第2節　縄文時代の検出遺構と出土遺物 ……19
遺構図版 ……26
土器図版 ……29
石器図版 ……34
第3節　古代以降の検出遺構 ……39
第4節　検出遺構一覧 ……39
第5節　遺構外の出土遺物 ……43
(1) 第Ⅲ層の出土遺物 ……43
(2) 第Ⅱ層の出土遺物 ……59
(3) 第Ⅰ層の出土遺物 ……74
第6節　平成6年度の試掘調査 ……82
(1) 第Ⅲ層の出土遺物 ……83
(2) 第Ⅱ層の出土遺物 ……100
(3) 第Ⅰ層の出土遺物 ……114

第Ⅲ章　調査の成果と課題 ……126

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧 ……127
写真図版 ……128
報告書抄録 ……151

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査目的

三内丸山遺跡では、平成６年に保存が決定され、翌７年３月には今後の保存と活用のあり方を示した青森県総合運動公園遺跡ゾーン基本構想が策定された。この基本構想を受け、県教育委員会では遺跡の学術的解明のための発掘調査を継続して行っており、平成７年度から文化庁の補助金の交付を受け、国史跡指定に向けての範囲確認調査（第１～７次調査）を実施し、平成９年３月に国史跡、平成12年11月には国特別史跡に指定された。

しかしながら広大な遺跡全体については、これまでの発掘調査により各種遺構が存在することは判明しているものの、集落の全体構造とその変遷、あるいは各遺構群相互の関係等の解明にはなお多くの課題がある。これらの課題を解決するための必要な調査であるとともに、中・長期的な保存、活用、整備計画の策定や推進のためにも、必要箇所について発掘調査を継続して実施している。

調査目的及び調査地点の選定については平成10年に策定した発掘調査計画・平成16年度に策定した第２期発掘調査計画に基づき、さらに三内丸山遺跡発掘調査委員会の検討を受け、集落の全体像と当時の生活環境の解明を当面をめざして、発掘調査を実施している。

平成12年度の第18次調査は北地区の西側丘陵上で集落範囲と変遷の確認を目的に実施した。平成13年度の第21次調査では、第18次調査で確認した土坑墓の範囲確認を目的に、北西・北東方向に調査区を拡張した。平成14年度の第24次調査では墓域と道路の範囲確認を目的に、さらに南東・北西報告に調査区を拡張した。

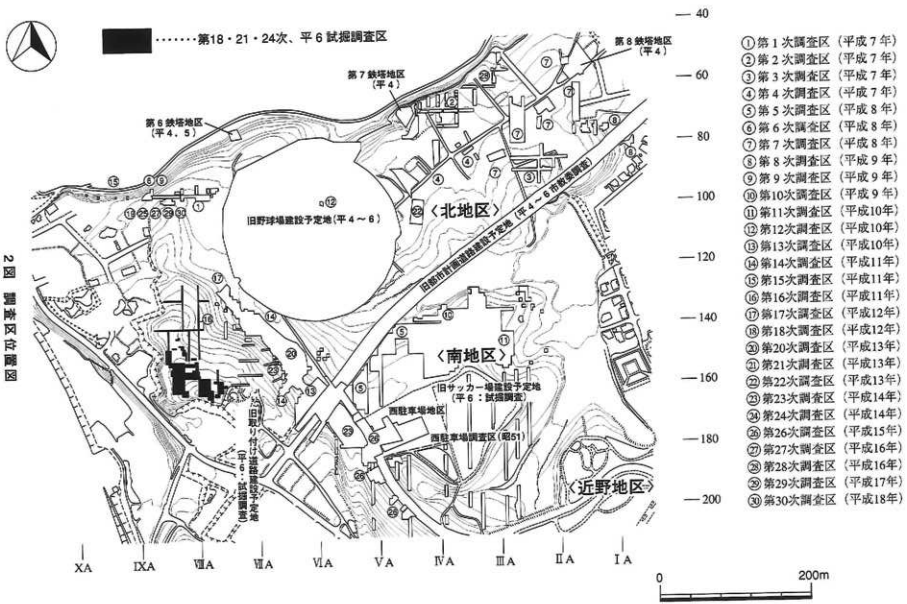
年　度	調査地点と調査目的	調　査　主　体
平成４年度	野球場建設予定地本調査	県埋蔵文化財調査センター
	第６鉄塔地区本調査	
	第７鉄塔地区本調査	
	第８鉄塔地区本調査	
平成５年度	野球場建設予定地本調査	
	第６鉄塔地区本調査	
平成６年度	野球場建設予定地本調査	
	野球場取り付け道路建設予定地試掘調査	
	サッカー場建設予定地試掘調査	
	テニスコート建設予定地試掘調査	
	近野地区試掘調査	
平成７年度	第１次調査（北地区、集落の範囲確認）	三内丸山遺跡対策室
	第２次調査（北地区、貯蔵穴の範囲確認）	
	第３次調査（北地区、貯蔵穴の範囲確認）	
	第４次調査（北地区、土坑墓の範囲確認）	

表１　発掘調査一覧（1）

年　度	調査地点と調査目的	調 査 上 体
平成８年度	第５次調査（南地区、集落の範囲確認）	
	第６次調査（北地区、低湿地の調査）	
	第７次調査（北地区、土坑墓の範囲確認）	
平成９年度	第８次調査（北地区、土坑墓と道路跡の範囲確認）	
	第９次調査（北地区、木柱周辺の遺構確認）	
	第10次調査（南地区、集落範囲と変遷の確認）	
平成10年度	第11次調査（南地区、集落範囲と変遷の確認）	
	第12次調査（北地区、有機質遺物と遺構の確認）	
	第13次調査（北地区、墓域の確認）	
平成11年度	第14次調査（北地区、環状配石墓の範囲確認）	
	第15次調査（北地区、遺物包含層の範囲確認）	
	第16次調査（北地区、竪穴住居跡の年代の確認）	
平成12年度	第17次調査（北地区、墓域の範囲確認）	
	第18次調査（北地区、集落範囲と変遷の確認）	
	第19次調査（北地区、木柱取り上げと周辺の遺構確認）	三内丸山遺跡対策室
平成13年度	第20次調査（北地区、遺跡整備に伴う環状配石墓と道路跡の範囲と年代の確認）	
	第21次調査（北地区、墓域の範囲と年代の確認）	
	第22次調査（北地区、竪穴住居跡及び粘土採掘穴などの範囲確認）	
平成14年度	第23次調査（北地区、墓域と道路跡の範囲確認）	
	第24次調査（北地区、墓域の範囲確認）	
	第25次調査（北地区、掘立柱建物跡の精査）	
平成15年度	第26次調査（北地区、墓域と道路跡の範囲確認）	
平成16年度	第27次調査（北地区、掘立柱建物跡の精査）	
	第28次調査（北地区、貯蔵穴の範囲確認）	
平成17年度	第29次調査（北地区、掘立柱建物跡・焼失住居・遺物包含層の精査）	
平成18年度	第30次調査（北地区、掘立柱建物跡の精査）	

表１　発掘調査一覧（２）

1図 遺跡位置図



①第1次調査区（平成7年）
②第2次調査区（平成7年）
③第3次調査区（平成7年）
④第4次調査区（平成7年）
⑤第5次調査区（平成8年）
⑥第6次調査区（平成8年）
⑦第7次調査区（平成8年）
⑧第8次調査区（平成9年）
⑨第9次調査区（平成9年）
⑩第10次調査区（平成9年）
⑪第11次調査区（平成10年）
⑫第12次調査区（平成10年）
⑬第13次調査区（平成10年）
⑭第14次調査区（平成11年）
⑮第15次調査区（平成11年）
⑯第16次調査区（平成11年）
⑰第17次調査区（平成12年）
⑱第18次調査区（平成12年）
⑳第20次調査区（平成13年）
㉑第21次調査区（平成13年）
㉒第22次調査区（平成13年）
㉓第23次調査区（平成14年）
㉔第24次調査区（平成14年）
㉖第26次調査区（平成15年）
㉗第27次調査区（平成16年）
㉘第28次調査区（平成16年）
㉙第29次調査区（平成17年）
㉚第30次調査区（平成18年）

2図　調査区位置図

第2節　調査要項

1　調査目的　　特別史跡三内丸山遺跡の発掘調査を行い、集落の全体像とその変遷の解明を目指し、今後の保存・活用に資する。

2　調査期間　　第18次調査　平成12年7月17日～平成12年10月19日
第21次調査　平成13年8月20日～平成13年11月20日
第24次調査　平成14年5月13日～平成14年10月30日

3　遺跡名及び所在地　三内丸山遺跡　　青森市三内字丸山306他

4　調査面積　　第18次調査　　1,253平方メートル
第21次調査　　1,181平方メートル
第24次調査　　2,091平方メートル

5　調査主体　　青森県教育委員会

6　調査担当機関　　青森県教育庁文化課（現、文化財保護課）三内丸山遺跡対策室

7　調査協力機関　　青森市教育委員会

8　調査員等

調査指導員	村越　潔	弘前大学名誉教授（考古学）
	市川　金丸	青森県考古学会前会長（考古学）
調査協力員	池田　敬	青森市教育委員会教育長（第18・21次調査時点）
	角田詮二郎	青森市教育委員会教育長（第24次調査時点）
調査員	高島　成侑	八戸工業大学教授（建築史）
	山口　義伸	青森県史編さん室（地質学）
	赤沼　英男	岩手県立博物館主任専門学芸調査員（保存科学）

9　調査担当者　　青森県教育庁文化課（現文化財保護課）三内丸山遺跡対策室

（第18次調査）

文化財保護主幹	岡田　康博
文化財保護総括主査	中村　美杉
文化財保護主査	斎藤　岳
文化財保護主事	小笠原　雅行、秦　光次郎、増木　智江

調査補助員　福田　優子、沼畑　伸一、市川　亜紀子

（第21次調査）

文化財保護主幹　岡田　康博
文化財保護総括主査　中村　美杉
文化財保護主査　齋藤　岳
文化財保護主事　秦　光次郎、佐々木　雅裕、増木　智江
調査補助員　福田　優子、沼畑　伸一、柴山　大樹

（第24次調査）

文化財保護総括主査　中村　美杉、齋藤　岳
文化財保護主事　秦　光次郎、佐々木　雅裕、大平　哲世、増木　智江
調査補助員　沼畑　伸一、津幡　圭介、荻坂　華恵

※所属・役職については、全て調査時点のものを記載している。

第３節　調査方法

座標の基準点には、日本測地系に基づいて設置された旧野球場建設予定地内の杭を使用した。杭№21（日本測地系第Ｘ系　Ｘ＝89,860.0000、Ｙ＝-11,160.0000）と杭№20（Ｘ＝89,860.0000、Ｙ＝-11,180.0000）を通る直線を東西の基線100（Ｘ＝89,860.0000）とし、これに直交し、かつ杭№21を通る直線を南北の基線ⅥＡ（Ｙ＝-11,160.0000）とした。杭№21の座標名はⅥＡ－100である。

この座標系に基づき、20×20mの大グリッド、４×４ｍの小グリッドを設定した。東から西にＡ・Ｂ・Ｃ･･･とアルファベットを、北から南へ１・２・３･･･と算用数字を付し、座標交点は東西のアルファベット－南北の算用数字の形で表記している。グリッドは座標点から南西４ｍ四方交点をもって呼称することとした。

なお、アルファベットが重複する場合には、最初にローマ数字を付して区別した。ベンチマークは県総合運動公園内の水準点（Ｈ＝16.071ｍ）から引用し、必要に応じて調査区内の適地に随時設定した。

基本層序は、平成４～６年度に行われた旧野球場建設予定地調査での設定を基に、各調査区で認定を行った。層名は、層序の上位から下位にローマ数字を付し、遺構内堆積土については算用数字を付して呼称している。細分される場合は小文字のアルファベットを、更に細分される場合はハイフンと算用数字を付して表した。土色は『新版標準土色帖』（小山、竹原1990）に沿い、マンセル記号を用い記録した。

土層の掘り下げにあたっては、面的に分層発掘を行うことを原則とした。遺構分布の確認を最優先としているため、検出遺構の分布状況によっては調査区の拡張も行った。

確認した遺構は種類毎に、平成４年度調査時からの連番で遺構番号を付している。遺構の精査にあたっては、調査目的に沿って遺構の選定を行った。

精査は原則として二分法・四分法で行い、堆積土観察用のベルトを設けて土層を観察しながら進めた。

遺物の取り上げは、遺構単位・グリッド単位・層序単位で行った。遺構内出土遺物のうち、時代決定のできる遺物については極力その出土位置の記録を行った。

遺構の実測は、簡易遣り方と光波測量器による測量を併用している。実測時の縮尺は1/20を基本としたが、種類や規模の大小により1/10、1/40、1/50その他とした。

写真記録は、主に35mmモノクロームとカラーリバーサルの２種を併用し、作業の進展に応じて行った。特に重要と判断したものについては、６×4.5mmのカラーリバーサルを用いた撮影も行った。

第４節　調査経過

第18次調査は平成12年７月17日、グリッドの設定、表土剥ぎから開始した。７月下旬に調査区東側でローム・ブロックが分布する面を確認した。８月上旬より調査区東側の遺構確認作業を開始し、竪穴住居跡の精査を行った。８月下旬からは調査区西側の遺構確認作業を開始した。９月上旬、南側に厚い遺物包含層を確認したため、トレンチを設定し断面観察を行ったところ、盛土遺構であることが判明した。さらにトレンチを伸ばしたところ、盛土遺構は調査区南西部に広がっていることが確認された。９月中旬より、調査区東側のローム・ブロック分布範囲内及びその周辺で遺構確認作業を行ったが、遺構は確認されなかった。10月上旬、調査区西側で土坑墓と思われる楕円形の落ち込みを確認した。中旬にはこれらが列状に延びていることが判明し、一部精査を行った。また、南西部には円形の土坑が密集していることが確認された。10月19日にはすべての作業を終え、調査を終了した。

第21次調査は平成13年８月20日から開始した。周辺の環境整備と並行して、昨年実施した第18次調査区の埋め戻し土を除去した。グリッドを設定したのち遺構確認を行ったところ、調査区北西の縁辺部にて掘立柱建物跡と思われる柱穴を確認した。また南西部斜面では、貯蔵穴と思われる土坑を多数検出した。９月中旬、第18次調査区の北西側に調査区を拡大するため、重機で表土を除去した。トレンチを設定して遺構確認をしたところ、第18調査区と同様のローム・ブロックが面的に分布する土層が確認され、道路跡であることが判明した。また、調査区北西端に埋設土器が隣接して確認された。10月上旬から第18次調査で把握された墓列の延びを確認するため、北西に調査区を広げ、遺構確認作業を行った。同じ頃、また先に確認されていた掘立柱建物跡の柱穴全体を検出し、精査を行った。11月20日には全ての作業を終え、調査を終了した。

第24次調査は平成14年５月13日から開始した。環境整備と併行して、隣接する第18次、第21次調査区の埋め戻し土を取り除いた。グリッドを設定した後、調査区東側より調査に着手した。南東側で基本層序第Ⅵ層由来と思われるロームブロックの広がりと竪穴住居跡１棟を検出したが、この地区は遺物や遺構の分布密度が低く、墓域も確認できなかった。６月中旬からは調査区北西部に着手した。これまで確認されていたロームブロック分布面の延長線上から連続して第Ⅵ層の露出する面が確認された。隣接する東側では多数の埋設土器がまとまって検出された。10月30日には全ての作業を終え、調査を終了した。

第5節　整理方法

室内整理は、平成12年10月から同19年１月までの期間に、青森県教育庁文化課（現、文化財保護課）三内丸山遺跡対策室松原分室および三内丸山遺跡分室で行った。以下に遺構と遺物について整理作業の手順を示す。

遺構

調査現場で記録した図面（原図）のグリッド・セクションポイント等の確認、位置と標高の割り出しを行った。平面図・断面図を鉛筆トレースし、２次原図を作成した。断面図は書式上、平面図の下側・右側に載せるため、必要に応じて裏トレースしたものもある。遺構の面積は、デジタル・プラニメーターで３回計測し、その平均値を使用した（小数点二位以下は四捨五入した）。

土層注記は、注記表に簡潔化して記載した。

掲載した図はページ上方が北方向になることを原則としている。ただし、大型の遺構についてはその限りではない。各遺構の掲載時のスケールは、1/50を基本にしている。しかし、微細図等場合によっては縮尺を変えているものもあるため、それぞれの図にはスケールを付けている。また、位置を確認するため、平面図ごとにグリッドを入れている。

遺物

遺物は水洗い、注記、復元作業などを行い、選別した後に実測または採拓を行った。遺物の重量は、復元作業に着手する以前に電子計量器を用いて計量した。

径の1/3以上を復元し得た土器はできるだけ実測図を作成した。また、それ以外の土器片は時期が明確なものを中心に採拓した。

石器・土製品・石製品のうち、主なものは図化・掲載した。剥片石器は委託実測を併用し、蔵磨器類は補助員、整理作業員が実測を行った。石器の実測図に使用したスクリーントーンは、例言を参照されたい。

これらの遺物は、掲載ページ下側に遺物観察表を付した。縮尺は、土器は1/2.5、土偶・土製品・石製品・軽石・軽石製品は1/2、礫石器は1/3、磨製石斧・剥片石器2/3である。

遺物掲載写真の撮影は、専門家に委託した。掲載時の縮尺は約1/3、2/3、その他である。

今回報告分の遺物原図及び遺物は、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室の三内丸山遺跡内収蔵庫で保管している。

遺物の分類

（１）土器

土器は時代ごとに次のように分類した。

第Ⅰ群　縄文時代草創期～早期

第Ⅱ群　縄文時代前期

1類　円筒下層ａ式より古く位置付けられる土器群

2類　円筒下層ａ式に位置づけられるもの

3類　円筒下層ｂ式に位置づけられるもの

4類　円筒下層ｃ式に位置づけられるもの

5類　円筒下層ｄ式に位置づけられるもの
さらに2つに細分する　1　ｄ1式
2　ｄ2式

6類　1～5類で時期を特定できないもの

第Ⅲ群　縄文時代中期

1類　円筒上層ａ式に位置づけられるもの

2類　円筒上層ｂ式に位置づけられるもの

3類　円筒上層ｃ式に位置づけられるもの

4類　円筒上層ｄ式に位置づけられるもの

5類　円筒上層ｅ式に位置づけられるもの

6類　1～5類で、時期を特定できないもの

7類　榎林式より古く位置づけられる大木式土器系のもの

8類　榎林式に位置づけられるもの

9類　最花式・中の平Ⅲ式に位置づけられるもの

10類　大木10式併行に位置づけられるもの

11類　8～10類で時期を特定できないもの

第Ⅳ群　縄文時代後期

1類　十腰内遺跡第Ⅰ群より古く位置づけられるもの

2類　十腰内遺跡第Ⅰ群に位置づけられるもの

第Ⅴ群　縄文時代晩期

第Ⅵ群　弥生時代

（2）石器

石器は形態・機能に応じて分類された以下の基準に従った。

A類　石鏃

a　有茎Ｔ基のもの

b　有茎Ｙ基　〃

c　尖基　〃

d　平基　〃

e　円基　〃

f　凹基　〃

B類　石槍

a　無茎のもの

b　有茎　〃

C類　石匙

a　縦型のもの（以下のｄ～ｅに該当するものを除く）

b　横型のもの　（　〃　）

c　斜型のもの　（　〃　）

d　両面加工で石槍状の尖端をもつもの

e　〃　石錐状の　〃

f　四角形の短辺部分に抉りをもち、長辺部分を刃部とするもの

g　細部加工がほとんど加えられないもの

D類　石錐

a　棒状のもの

b　つまみがあるもの（以下のｃに該当するものを除く）

c　尖端のみつくりだしたもの

d　石鏃を転用したもの

E類　石篦

a　短冊形のもの

b　撥形　〃

F類　ピエス・エスキーユ

G類　不定形石器

a　いわゆるスクレイパー類

b　いわゆるR．フレイク

c　いわゆるU．フレイク

H類　石斧
　a　磨製石斧
　b　打製石斧
I類　敲磨器類
　a　主に凹のあるもの
　b　〃 敲打痕　〃
　c　〃 磨痕　〃
J類　半円状扁平打製石器
K類　抉入扁平磨製石器
L類　石皿・台石
M類　石棒類
　a　石棒
　b　石刀
N類　石錘
O類　石冠
　a　北海道式石冠
　b　三角柱状もしくは斧状の突出部を持つ磨製石器
P類　石核類
　a　石核
　b　原石
　c　剥片・砕片（剥片石器の製作に関するもの）
　d　剥片・砕片（礫石器の製作・使用に関するもの）
Q類　その他
R類　異形石器
S類　砥石
　a　楕円礫を素材とし顕著な擦痕をもつもの
　b　扁平あるいは板状の礫を素材とするもの
　c　大型のもの（L類から分離されるもの）
T類　軽石・軽石製品
　a　使用痕・加工痕の認められないもの
　b　使用痕・加工痕の認められるもの
U類　角柱状の礫・礫石器
　a　使用痕・加工痕の認められないもの
　b　使用痕・加工痕の認められるもの
V類　擦切具
W類　礫

第Ⅱ章　第18・21・24次調査

第１節　調査の概要

第18次調査は、北地区の旧野球場予定地の南西側の段丘上で、遺構の種類と分布状況を把握することを目的に行った。この付近では、平成６年度に実施した試掘調査によって縄文時代中期の竪穴住居跡、土坑、盛土遺構（西盛土）、埋設土器、掘立柱建物跡などが検出されている。また調査区西側縁辺部の切土面では、フラスコ状土坑が確認されていた。第18次調査区は丘陵の頂部平坦面から西側斜面で、標高約28～32ｍに位置し、遺跡内では最も高い地点である。調査区の一部は平成６年度の試掘調査トレンチと重複している。

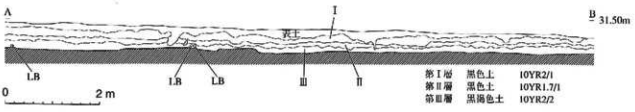
包含層の層序は、表土（第Ⅰ層）と第Ⅱ層、第Ⅲ層に分かれる。全体的に堆積が薄く、表土から地山まで15cmほどしかないところもある。地山は丘陵頂部平坦面のごく一部と西側斜面では第Ⅵ層が最上層となるが、その他の大部分は第Ⅶ層が露出し、人為的な削平によるものと見られる。

第18次調査で検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居跡３棟、土坑30基（土坑墓13基を含む）、埋設土器３基、盛土遺構１基である。土坑の多くは重複し、分布は調査区南西部に片寄る。平面形が楕円形・長楕円形のものは全て長軸方向が北東をとり、南東から北西方向へ約35ｍの列状配置をとることが確認された。その他の遺構としては、時期不明の溝跡１条が確認された。

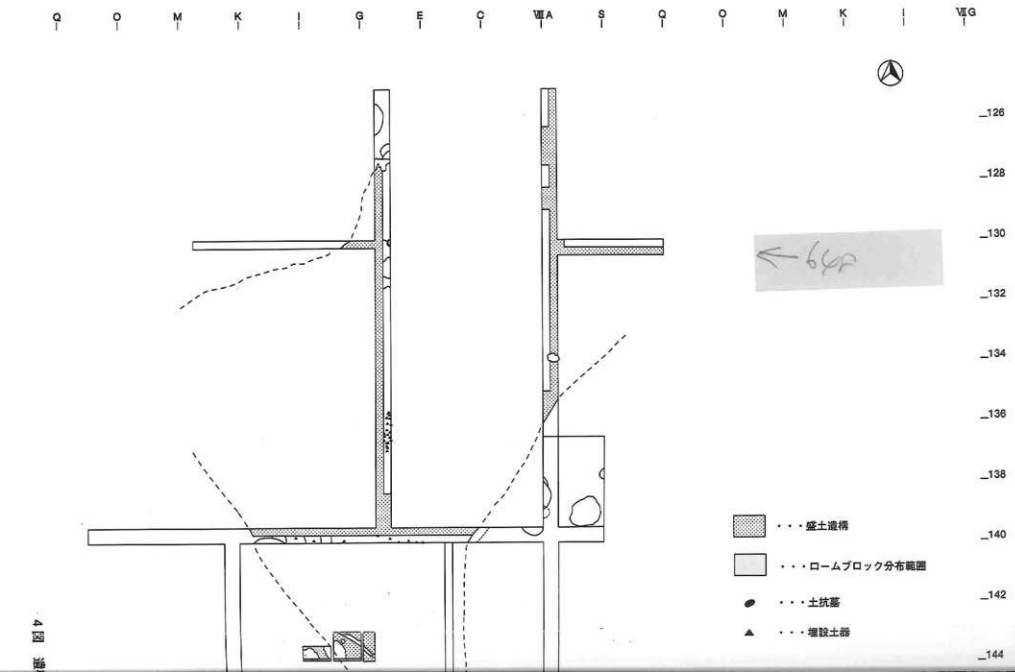
第21次調査は土坑墓列の範囲確認を目的に、第18次調査で確認した土坑墓列の延長が予想される北西方向に調査区を拡大し、また墓列が複数列存在する可能性を考慮して北東部にも調査区を設定した。調査区内で検出した縄文時代の遺構は第18次調査のものも含め、土坑81基（土坑墓15基含む）、埋設土器７基、掘立柱建物跡１棟、道路跡１条である。段丘の平坦面と斜面の境には土坑墓が列状に並び、その南西側斜面に貯蔵穴と思われる土坑群が数多く分布する。また、土坑墓列の北東側平坦面には、平行して道路跡と見られる痕跡が延びていた。その他の遺構としては、時期不明の溝跡４条を確認した。

第24次調査では、第18・21次調査で確認された土坑墓列と別の墓域の存在を確認するため、第18次調査区の東側に調査区を拡大した。また、道路跡の北側への道路の延びを確認するために第21次調査区の北側にも調査区を拡大した。この３次にわたる調査により、土坑89基（土坑墓19基含む）、埋設土器18基、竪穴住居跡９棟、掘立柱建物跡１棟、ピット５基、道路跡１条を検出した。この他、時期不明の遺構として溝跡が７条確認された。

遺物の出土量は第18次調査で、縄文時代の土器・石器を中心にダンボール箱40箱、第21次調査で21箱、第24次で20箱出土している。

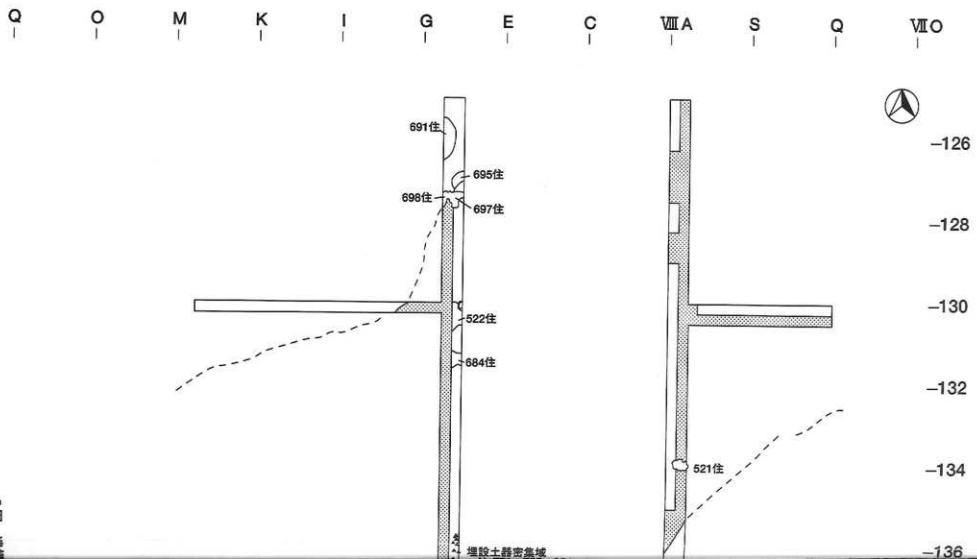


3図　基本層序


Q
O
M
K
I
G
E
C
ⅦA
S
Q
O
M
K
I
ⅦG
←665
126
128
130
132
134
136
138
140
142
144
・・・盛土遺構
・・・ロームブロック分布範囲
・・・土坑墓
・・・埋設土器

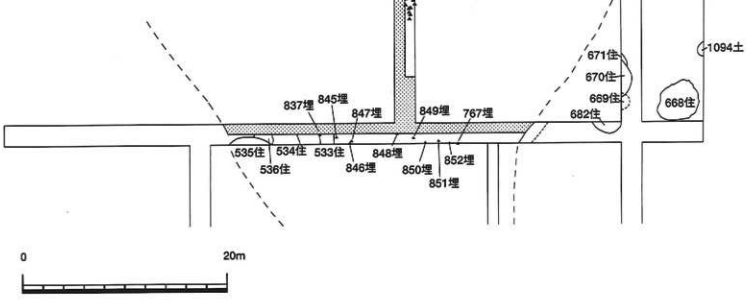
4図 遺構

遺構配置図


Q
O
M
K
I
G
E
C
ⅧA
S
Q
ⅦO
691住
695住
698住
697住
522住
684住
521住
埋設土器密集域
−126
−128
−130
−132
−134
−136

5図 遺構

遺構配置図（北側）



・・・盛土遺構

・・・ロームブロック分布範囲

・・・土抗墓

▲・埋・・・埋設土器

住・・・竪穴住居跡

土・・・土抗

溝・・・溝跡

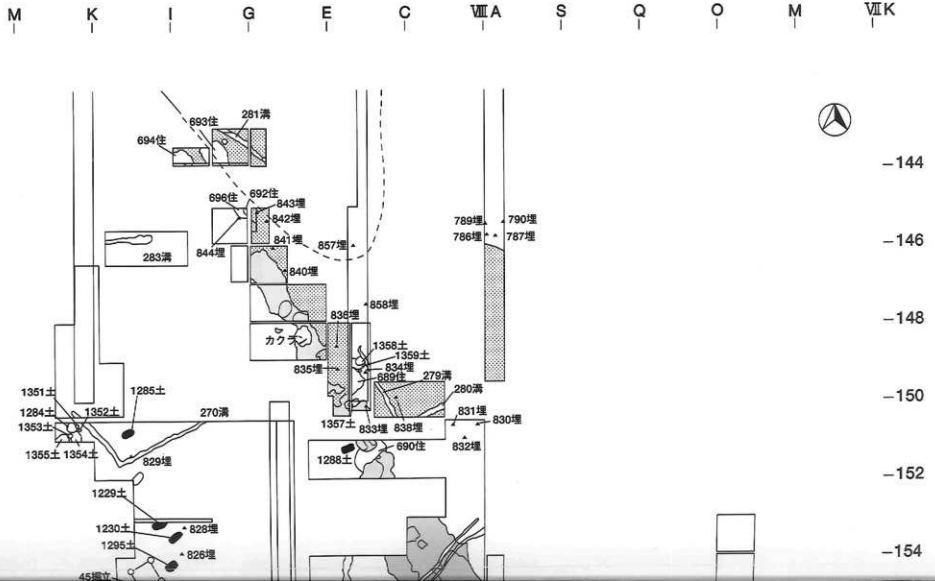
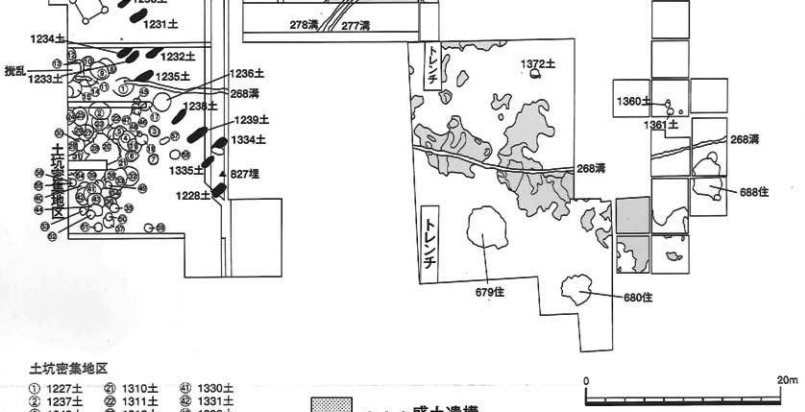

M
K
I
G
E
C
Ⅷ A
S
Q
O
M
Ⅶ K
693住
281溝
694住
696住
692住
843壙
842壙
841壙
844壙
857壙
283溝
840壙
858壙
836壙
カクラン
1358土
1359土
835壙
834壙
889住
279溝
280溝
789壙
790壙
786壙
787壙
1351土
1285土
1284土
1352土
270溝
1353土
1357土
833壙
838壙
831壙
830壙
1355土
1354土
829壙
690住
1288土
832壙
1229土
1230土
828壙
1295土
826壙
45掘立
−144
−146
−148
−150
−152
−154

図9

遺構配置図（北側）



土坑密集地区

① 1227土	⑳ 1310土	㊶ 1330土
② 1237土	㉑ 1311土	㊷ 1331土
③ 1242土	㉒ 1312土	㊸ 1332土
④ 1243土	㉓ 1313土	㊹ 1333土
⑤ 1244土	㉔ 1314土	㊺ 1336土
⑥ 1245土	㉕ 1315土	㊻ 1337土
⑦ 1246土	㉖ 1316土	㊼ 1338土
⑧ 1297土	㉗ 1317土	㊽ 1339土
⑨ 1298土	㉘ 1318土	㊾ 1340土
⑩ 1299土	㉙ 1319土	㊿ 1341土
⑪ 1300土	㉚ 1320土	(51) 1342土
⑫ 1301土	㉛ 1321土	(52) 1343土
⑬ 1302土	㉜ 1322土	(53) 1344土
⑭ 1303土	㉝ 1323土	(54) 1345土
⑮ 1304土	㉞ 1324土	(55) 1346土
⑯ 1305土	㉟ 1325土	(56) 1347土
⑰ 1306土	㊱ 1326土	(57) 1348土
⑱ 1307土	㊲ 1327土	(58) 1349土
⑲ 1308土	㊳ 1328土	(59) 1350土
⑳ 1309土	㊴ 1329土	

・・・盛土遺構

・・・ロームブロック分布範囲

・・・土坑墓

▲・埋・・・埋設土器

掘立・・・掘立柱建物跡

住・・・竪穴住居跡

土・・・土坑

溝・・・溝跡

第２節　縄文時代の検出遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

第18次調査で２棟、第24次調査で７棟の竪穴住居跡を確認し、うち２棟を精査した。また、平成６年度の試掘調査において16棟確認している。なお、第18次調査で確認し、『三内丸山遺跡Ⅹ』(青埋文報309集、平成13年刊行)の遺構配置図（15図）で示した第684号住居跡は、その後の調査で竪穴住居跡ではないことが判明したため、他の竪穴住居跡の番号として使用している。

第521号住居跡（４図）

〔位置と確認〕　ⅦT－133・134に位置する。平成６年度試掘調査において、トレンチ内の基本層序第Ⅱ層を精査中、硬化した貼床を確認した。

〔重複〕　なし。

〔平面形・規模〕　貼床が不整形に残存するのみで、本来の平面形状は不明である。貼床の残存範囲は、長軸1.76m、短軸1.06mである。

〔壁・床〕　壁は検出できなかった。床は基本層序第Ⅱ層中に作られていた。黄褐色浮石を多く混入する貼床で、やや起伏があるが硬く踏み締まる。

〔柱穴〕　検出されなかった。

〔炉〕　検出されなかった。

〔出土遺物〕　出土しなかった。

〔時期〕　床面の構築層位から、縄文時代中期末葉以降のものである。

第522号住居跡（４図・写真６）

〔位置と確認〕　ⅦF－129・130に位置する。平成６年度試掘調査において、トレンチ内の盛土十層を精査中に硬化面の一部と炉を確認した。

〔重複〕　盛土遺構と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕　床面が不整形に残存するのみで、本来の平面形状は不明である。残存範囲での長軸は2.86mである。

〔壁・床〕　壁は検出できなかった。床は西盛土の堆積層上位中に作られ、硬く踏み締まっていた。

〔炉〕　検出された硬化面の北東側で、石囲炉の西側半分を確認した。確認範囲では６～25cmの円礫９個が弧状に配置されており、直径80cm程の円形になると思われる。炉内には焼土が形成されていた。

〔出土遺物〕　出土しなかった。

〔時期〕　盛土遺構との層位関係及び炉の形態から、縄文時代中期後葉のものである。

第679号住居跡（７・10・15図・写真１）

〔位置と確認〕　ⅦR・S－160・161に位置する。第18次調査において第Ⅱ層除去後、黒色土の落ち込みとして確認し、十層観察用ベルトと炉を除き精査した。

〔重複〕　なし。

〔平面形・規模〕　平面形は直径約４ｍの円形で、南東部で壁が張り出す。張り出しを含めた開口部の平面規模は4.04×5.06m、床面積は12.12㎡である。

〔壁・床〕　壁は第Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ層を掘り込んで作られ、床面との境界は不明瞭である。壁高は東壁８㎝、南壁８㎝、北壁２㎝である。

床は第Ⅵ～Ⅶ層に作られており、若干の起伏が見られる。炉との関係から、この掘り込み底面の上に貼床がなされていた可能性も考えられたが、貼床・硬化面共に確認できなかった。

〔柱穴〕　検出されなかった。

〔炉〕　床面の中央から南東側、張り出し施設寄りに石囲炉が１基確認された。自然礫16点を円形に据え付けたもので、長軸80㎝、短軸65㎝の楕円形である。堆積土に焼土、炭化物の混入はわずかであった。

〔その他の施設〕　南東壁において、１ｍ20㎝×70㎝の付属施設を確認した。他の壁面同様、底面との境界が不明瞭となる。

〔堆積土〕　３層に分層した。黒色土主体の堆積で、全体的に締まりに欠ける。付属施設内では主に３層が堆積していた。

〔出土遺物〕　堆積土内からⅢ群８、９、11類の土器片が、確認面からⅢ群５、10、11類の土器片が少量出土した。石器は、床上および床直から礫２点、石鏃１点（15図２）、敲打痕のある礫１点（15図４）、R.フレイク１点、フレイク２点が出土している。フレイクのうち１点には被熱痕が認められる。堆積土からはR.フレイク５点、フレイク２点、スクレィパー類１点、石鏃１点（15図１）、礫６点が出土している。礫のうち１点には焼土の付着がみられる。付属施設部分の堆積土からは礫２点とフレイク３点が出土し、15図３のフレイクは、全面的に著しい摩滅の認められるものである。石囲炉の堆積土からは礫１点が出土している。

〔時期〕　遺構の確認層位、堆積土内出土遺物、炉の形態から縄文時代中期後葉の最花式期～末葉の大木10式併行期のものである。

第680号住居跡（７・10・16図・写真１）

〔位置と確認〕　ⅦP・Q－162に位置する。第18次調査において基本層序第Ⅲ層を精査したところ、石囲炉を確認し、炉石以外を精査した。

〔重複〕　なし。

〔平面形・規模〕　壁の大部分を失っているため不明であるが、貼床および硬化範囲の平面形状は不整な円形である。開口部の平面規模は3.25×2.52m、推定床面積は６㎡である。

〔壁・床〕　壁は南東側のみ残存する。第Ⅶ層を掘り込んで作られ、壁高は10㎝である。床は第Ⅶ層を掘り込んで作られ、平坦で踏み締まっている。硬化範囲の北半部および南東壁側では、炉を挟む形で貼床が確認された。貼床は第Ⅶ層土主体で、炭化物や暗褐色土の混入が若干見られた。

〔柱穴〕　検出されなかった。

〔炉〕　硬化範囲の中央から南東寄りに、石囲炉が１基確認された。長さ９～35㎝の自然礫７個を床面に埋め込んだもので、全体が62×54㎝の楕円形となる。石組みの内部には弱い焼土層が形成され、焼土粒・径２㎝までの焼土ブロックが散在していた。炭化物の混入はほとんど見られなかった。

〔堆積土〕　黒褐色土主体の堆積土で、3層に分層した。
〔出土遺物〕　堆積土からⅢ群11類の土器片、確認面からⅢ群5、11類の土器片が少量出土した。
石器は、床上および床直からの出土はなく、全て堆積土からである。R.フレイク1点、フレイク1点、石核1点（16図1）、石鏃1点（16図2）、ほぼ全面を磨き、両端に敲打痕のある棒状の礫1点（16図3）、敲打痕と磨痕がある礫1点、礫1点である。
〔時期〕　検出層位および炉の形態から、縄文時代中期後葉から末葉と考えられる。

(2) 土坑・土坑墓

第18次調査で18基、第21次調査で63基、第24次調査で9基の、計90基の土坑を検出した。内17基は楕円形の平面形であり、土坑墓と考えられる。土坑墓と考えられる土坑は、土坑調査区南西の標高30.5～32mに集中しており、丘陵の西側縁辺に沿って列状に分布している。全て北東に軸が向いており、確認総延長は約35mである。
精査は長楕円形の土坑5基、円形のフラスコ状土坑1基の計6基を選択し行った。

第1226号土坑（8・11・17・18図・写真2）

〔位置と確認〕　ⅧG－157に位置する。第18次調査において、基本層序第Ⅶ層上面で暗褐色土の円形プランとして確認した。第21次調査で南側半分を精査した。
〔重複〕　なし。
〔平面形・規模〕　壁の北半部が不明であるが、円形の平面形で、開口部の最大径は196cmである。
〔壁・底面〕　壁は第Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ層を掘り込んで作られる。断面形状はいわゆる袋状となり、壁高は東壁197cm、西壁170cmである。壁の上部は、斜面下方に滑っている。
底面は第Ⅷ層中につくられ、若干の起伏がある。
〔堆積土〕　3層に分層した。主に暗褐色土層の堆積である。人為堆積によるものと思われる。
〔出土遺物〕　堆積土内から、Ⅱ群5類2、Ⅲ群1～4・6類の土器片が少量出土した。石器は、全て堆積土からの出土である。石鏃1点（18図2）、磨痕のある大型礫1点（17図1）、敲打痕と磨痕のある大型礫1点（18図1）、敲打痕と磨痕のある角柱礫1点（17図3）、側縁に敲打による剥離が認められる角柱礫1点（17図2）、フレイク1点、礫4点が出土している。
〔時期〕　堆積土内出土土器から、縄文時代中期中葉の円筒上層d式期と考えられる。

第1228号土坑（9図・写真2）

〔位置と確認〕　ⅧE・F－159に位置する。平成6年度の試掘調査の際に、基本層序第Ⅵ層上面で確認した。第18次調査で半截し、南半分を精査した。
〔重複〕　なし。
〔平面形・規模〕　隅丸長方形の平面形である。平面規模は1.6m×0.8m、長軸の方向はN－45°－Eである。
〔壁・底面〕　壁は、基本層序第Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込んで作られる。壁の立ち上がりは、東壁が底面と約110°の傾きで接するが、他の壁面はほぼ垂直に掘り込まれる。各壁の残存高は、東壁

19.8cm、南壁20.6cm、西壁30cmである。

底面は第Ⅵ・Ⅶ層中につくられ、地形の傾斜方向である北西に約3°傾斜する。

〔堆積土〕　2層に分層した。暗褐色土主体の土層で、上層には第Ⅴ層由来と思われるブロックが多く見られる。

〔出土遺物〕　堆積土中から土器の細片が少量出土した。石器は出土しなかったが、小礫2点が堆積土より出土している。

〔時期〕　包含層との層位関係から、縄文時代中期初頭～後葉の時期と考えられる。

第1231号土坑（8図・写真2）

〔位置と確認〕　ⅧH－155に位置する。第18次調査にて遺構確認作業中、基本層序第Ⅶ層上面で確認した。精査は第24次調査で行い、南半分を半裁した。

〔重複〕　東壁が撹乱を受けている。

〔平面形・規模〕　1.02m×0.70mの楕円形で、長軸の方向はN－55°－Eである。

〔壁・底面〕　壁は第Ⅶ層を掘り込み、底面との角度はほぼ直角となる。各壁高は東壁23cm、南壁45cm、西壁43cmである。底面は第Ⅵ層中に平坦に作られる。

〔堆積土〕　褐色土主体の堆積で、5層に分層した。1～4層には基本層序第Ⅶ層のブロックが少量、5層にはⅥ層のブロックが多量混入し、人為的な堆積と考えられる。

〔出土遺物〕　出土しなかった。

〔時期〕　堆積土の状況から、縄文時代中期と考えられる。

第1235号土坑（8・18図・写真2）

〔位置と確認〕　ⅧG・H－156に位置する。第18次調査において基本層序第Ⅶ層上面で、遺構確認作業中、暗褐色土の楕円形プランとして確認し、精査も行った。

〔重複〕　なし。

〔平面形・規模〕　長楕円形の平面形である。平面規模は2.1m×0.7m、長軸の方向はN－73°－Eである。

〔壁・底面〕　壁は第Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層をほぼ垂直に掘り込んで作られる。壁底面との境界は明瞭である。各壁高は東壁28cm、西壁45cmである。

底面は第Ⅶ層中に作られ、平坦である。

〔堆積土〕　5層に分層した。上位と下位に第Ⅶ層由来の土粒を多く含む褐色土層が堆積する。人為堆積によるものと思われる。

〔出土遺物〕　堆積土中からⅢ群6類土器の細片が少量出土した。石器は、全て堆積土からの出土で、石鏃1点（18図3）、R.フレイク1点、礫2点が出土している。

〔時期〕　堆積土の状況から、後葉を除く縄文時代中期のいずれかの時期である。

第1285号土坑（8図・写真2）

〔位置と確認〕　ⅧI・J－150に位置する。第24次調査において、第Ⅵ層上面で黒褐色土の楕円形

プランとして確認し、南側半分を精査した。
〔重複〕　なし。
〔平面形・規模〕　楕円形である。平面規模は1.35m×0.65m、長軸の方向はN－63°－Eである。
〔壁・底面〕　壁は第Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み、東壁を除きほぼ垂直に作られる。
〔堆積土〕　5層に分層した。人為堆積と考えられる。
〔出土遺物〕　なし。
〔時期〕　堆積土の状況から、後葉を除く縄文時代中期のいずれかの時期である。

第1357号土坑（8図・写真3）
〔位置と確認〕　ⅦD－149・150に位置する。第24次調査で道路跡を精査中、ローム・ブロック再堆積層を掘り込む楕円形プランとして確認した。東側半分を精査をした。
〔重複〕　道路跡のローム・ブロック再堆積層を切り、本遺構が新しい。
〔平面形・規模〕　楕円形である。平面規模は1.25m×0.5m、長軸の方向はN－54°－Eである。
〔壁・底面〕　壁は第Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層を掘り込み、各壁高は東壁21cm、南壁30cm、北壁23cmである。
底面は第Ⅶ層を掘り込み、貼り上がなされる。断面では、貼り土上からの壁溝が認められるが、平面では確認できなかった。
〔堆積土〕　黒褐色土主体の堆積で、2層に分層した。1層は人為堆積、2層は貼り土と考えられる。
〔出土遺物〕　なし。
〔時期〕　堆積土の状況から、縄文時代中期のいずれかの時期である。

(3) 土器埋設遺構

埋設土器遺構は第18次調査で3基、第21次調査で4基、第24次調査で10基のあわせて17基確認し、うち1基を精査した。調査区西側に点在する。平成6年度の試掘調査でも多数確認され、ⅦF－136では4㎡中14基確認した。時期は縄文時代中期前半で、いずれも正立していた。

第767号埋設土器遺構（4図）
〔位置と確認〕　ⅦD－139に位置する。平成6年度試掘調査において盛土遺構上面で確認し、精査、土器の取り上げも行っている。
〔重複・新旧〕　西盛土の上位層（Ⅲ－4相当層）を掘り込んで構築され、本遺構が新しい。
〔土器埋設方法〕　正立状態で埋設されている。
〔掘り方形態・規模〕　略円形の掘り方で、平面規模は径0.68cmである。
〔堆積土〕　土器内2層、掘り方内2層に分層された。ともに暗褐色土が堆積する。
〔出土遺物〕　図示できなかったが、埋設された土器はⅢ群6類である。
〔時期〕　埋設された土器より縄文時代中期前半であり、円筒上層bまたはc式期と考えられる。

第827号土器埋設遺構（9図・写真3）
〔位置と確認〕　ⅦE・F－159に位置する。平成6年度試掘調査において第Ⅲ層を掘削中に確認した。

第18次調査で土器内の堆積土のみ半割し、精査を行った。
〔重複・新旧〕　なし。
〔土器埋設方法〕　口縁を欠損した土器が、正立で埋設されていた。
〔掘り方形態・規模〕　掘り方は未精査であるが、略円形の平面形である。平面規模は0.45m×0.41mである。
〔堆積土〕　4層に分層した。黒褐色土主体の土層である。堆積土3層は色調が明るく、締まりが無い。
〔出土遺物〕出土しなかった。
〔時期〕　埋設された土器の露出部分から、縄文時代中期初頭から前葉のいずれかの時期である。

(4) 掘立柱建物跡

第21次調査で掘立柱建物跡を1棟確認し、精査した。

第60号掘立柱建物跡（9図・写真4・5）
〔位置と確認〕ⅦⅠ・J－154・155に位置し、第Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にピット番号を付し、精査を行った。
〔重複〕　なし。
〔規模〕　桁行2間（総長5.4m）、梁行1間（総長2.8m）である。主軸方位はN－27°－Wである。
〔平面形式〕　梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。
〔柱穴・柱痕〕　掘り方は確認面で径56cm～69cm、深さは27cm～56cmである。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。いずれもほぼ円形を呈する。
〔柱穴寸法〕　桁方向・梁方向とも2.4mである。
〔出土遺物〕　堆積土内からⅢ群6類の土器片が少量出土した。石器は、13699号ピットからスクレイパー類1点（16図4）、フレイク1点、13703号ピットから小礫1点、13704号ピットから小礫2点が出土している。

(5) 道路跡（4・12・18図・写真5）

21次調査で、調査区の南西側に設定したトレンチによって確認した。今回確認できた範囲は東西約22m、南北約15mの210㎡である。第1228号土坑、第684号住居跡と重複し、第1228号土坑より新しく、第684号住居跡より古い。また、南西側に密集する土坑群とも重複するが、多くは本遺構より新しいものと思われる。

土層は大きく分けて2層に分層される。上層は、第Ⅵ層の浮石粒を多量に混入する暗褐色土である。比較的均質で、第17次調査で確認された西盛土の最上層に似る。厚さは最大で約20cmで、遺物の混入は極少量である。下層は黒褐色土を主体とする層である。遺物の混入は全体的に少ないが、トレンチ内の一部でまとまった土器片が出土している。また、基本層序第Ⅷ層の露出面は、本遺構堆積土の上層と面が連続する。

トレンチ内出土の土器から、遺構の所属時期は縄文時代中期中葉を含むと思われる。

〔出土遺物〕　第Ⅵ層土ブロック密集域の上面から、Ⅱ群５類２・６類、Ⅲ群１・５・６・10・11類の土器が少量出土した。

石器は、道路に貼付けられた上層内から石鏃が１点（18図４）出土している。

〔時期〕盛土遺構の包含層との層位関係、路面出土土器より、縄文時代中期中葉の円筒上層ｄ式期～中期末葉の大木10式並行期までは存続したものと考えられる。

(6) 盛土遺構（４・13・14・19図・写真５・６）

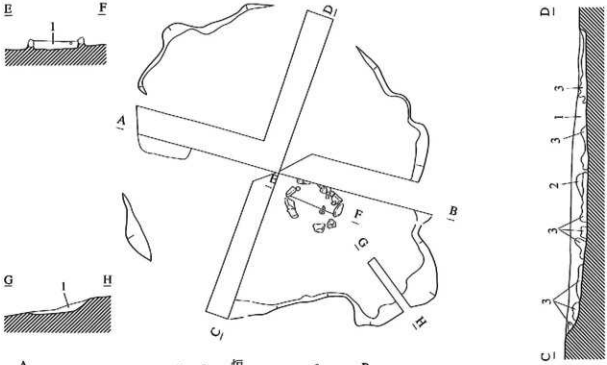
調査区の南西側に設定したトレンチによって確認した。今回確認した範囲は東西約22m、南北約15mの210㎡である。縁辺の堆積層は第1228号土坑、第684号住居跡と重複し、第1228号土坑より新しく、第684号住居跡より古い。また、南西側に密集する土坑群とも重複するが、多くは本遺構より新しいものと思われる。

〔出土遺物〕　調査時に盛土遺構の遺物としてとりあげられたものを図示した。13図１は、貼付隆帯の上部に横位の単軸絡条体５類、下部に複節斜縄文が施されたⅡ群３類の土器片である。２～５はⅡ群５類２に分類した。３は細いコイル状原体、単軸絡条体１類による側面圧痕が口縁部に施される。４は口縁から下垂する添付帯が施される破片、５は逆U字形の連続押圧が施される口縁部文様体の破片である。６～８、14図１は、Ⅲ群４類の破片である。６は胴部下半に添付帯が巡る小型土器である。７は縄文地文に、直線または緩い弧の貼付帯が認められるもので、貼付には撚糸圧痕による刻みが施される。14図１の貼付はボタン状の１個を除いては口唇に平行する１条のみで、以下に結束第１種が横走する。14図２はⅢ群５類の破片で、無文地に沈線が横走する胴部破片である。14図３は、Ⅲ群６類の破片で、８類に見られる凹状沈線が口唇に巡る。14図４はⅢ群８類の破片で、貼付による凹状の沈線が作出された口縁部破片である。14図５～７は、Ⅲ群10類の土器片で、LR又はRLの縦位縄文による地文に沈線文が施される。14図８はⅢ群11類に分類した土器片で、撚りの緩い縄が縦位に回転施文され、口縁部に無文帯ができている。

石器は６点を図示した。石鏃４点（19図１～４）、石核１点（19図５）、磨痕のある礫（19図６）である。

〔時期〕　埋設土器との重複関係及び確認面出土土器から、第18・21・24次調査区内では縄文時代中期中葉、ⅧG－143内のみ縄文時代中期後葉の包含層が最上層となっている。

VIS-160

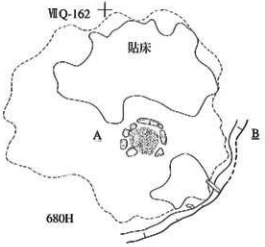


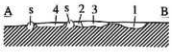
第679号住居跡 A—B
第1層 黒 色 土 10YR1.7/1
第2層 暗褐色土 10YR3/3
第3層 黒 色 土 10YR4/4 L.B.多量。

第679号住居跡 E—F
第1層 黒 色 土 10YR1.7/1 ローム粒微量、焼土粒炭化物微量。

第679号 G—H
第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量、焼土粒極微量。

VIQ-162

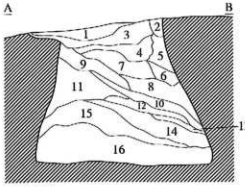




第680号住居跡 A—B
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、土器片少量。
第2層 黒褐色土 10YER3/2 浮石粒中量、炭化物微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/3 浮石粒微量。
第4層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒少量、浮石粒微量。

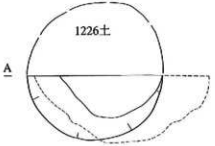
VIQ-163

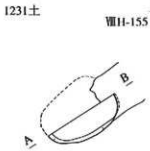
7図 竪穴住居跡



第1226号土坑

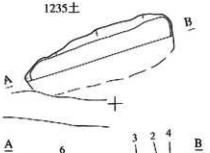
第1層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	褐 色 土	7.5YR4/4
第3層	暗褐色土	10YR3/3
第4層	暗褐色土	10YR3/3
第5層	褐 色 土	7.5YR4/4
第6層	暗褐色土	7.5YR3/4
第7層	褐 色 土	10YR4/6
第8層	褐 色 土	7.5YR4/4
第9層	黒褐色土	10YR2/3
第10層	褐 色 土	7.5YR4/3
第11層	黒褐色土	7.5YR3/2
第12層	褐 色 土	7.5YR4/4
第13層	褐 色 土	7.5YR4/4
第14層	暗褐色土	10YR3/4
第15層	褐 色 土	7.5YR4/4
第16層	褐 色 土	7.5YR4/4





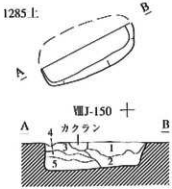
第1231号土坑

第1層	にぶい黄橙土	10YR4/3 炭化物・鉄斑特校・Ⅵ層土粒少量。
第2層	灰褐色土	10YR3/2 Ⅵ層土粒少量、炭化物微量。
第3層	褐 色 土	10YR4/4 Ⅵ層土粒少量、鉄斑若径微量。
第4層	褐 色 土	10YR4/4 Ⅵ層土粒少量、Ⅵ層土ブロック微量。
第5層	褐 色 土	10YR4/4 Ⅵ層土多量。



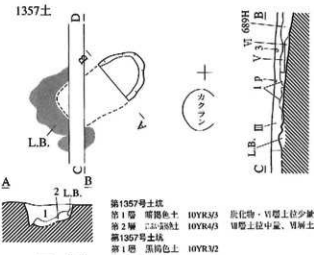
第1235号土坑

第1層	にぶい黄橙土	10YR4/3
第2層	暗褐色土	10YR3/4
第3層	褐 色 土	10YR4/4
第4層	褐 色 土	10YR4/4
第5層	暗褐色土	10YR3/4
第6層	褐 色 土	10YR4/4



第1285号土坑

第1層	7.5YR4/3
第2層	7.5YR4/4
第3層	10YR3/3
第4層	10YR3/4
第5層	10YR3/4



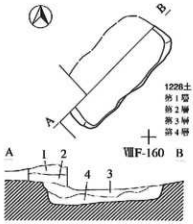
第1357号土坑

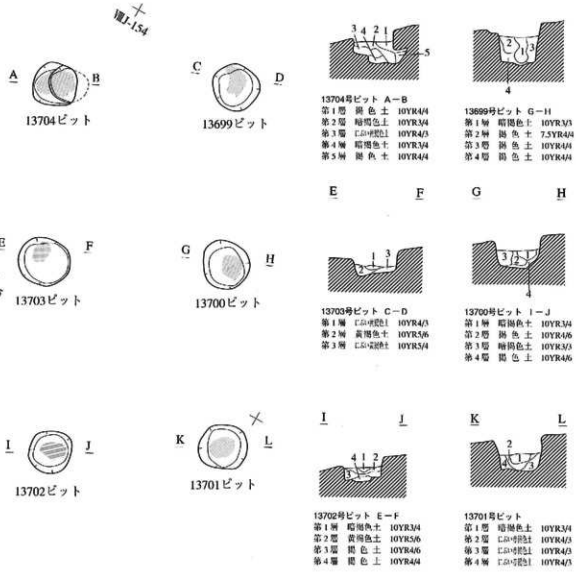
第1層	暗褐色土	10YR3/3 炭化物・Ⅵ層土粒少量。
第2層	にぶい黄橙土	10YR4/3 Ⅷ層土粒中量、Ⅵ層土粒少量。

第1357号土坑

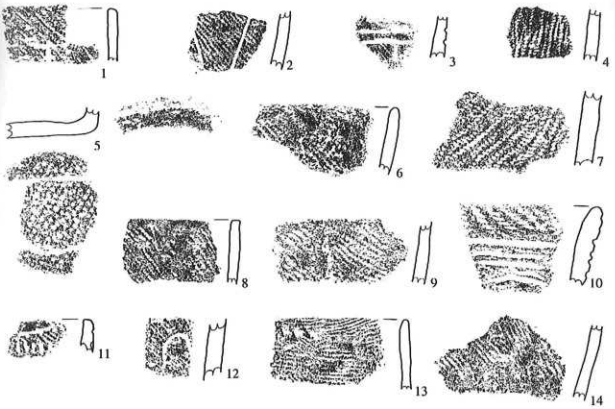
第1層	黒褐色土	10YR3/2

8図　土坑





9図　土器埋設遺構・掘立柱建物跡

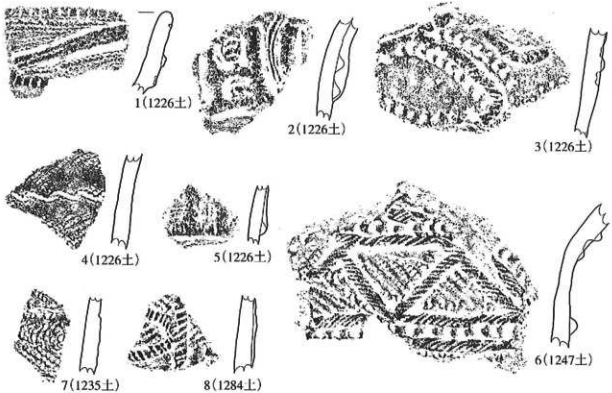


1～12：679住　13・14：680住

0　10cm

番号	遺構名	出土層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上半	外面文様 胴部下半	内面調整	底調	分類	備考	整理番号
10-1	679住	特殊施設		LR（異条）		ミガキ		Ⅲ-11	18次	18001
10-2	679住	床直			LR、沈線			Ⅲ-9	18次	18002
10-3	679住	埋積土		RL、沈線				Ⅲ-8	18次	18003
10-4	679住	床直			RRL	ミガキ		Ⅲ-11	18次	18004
10-5	679住	2					網代痕	Ⅲ-11	18次	18005
10-6	679住	1	無文	LR		ミガキ		Ⅲ-11	18次	18006
10-7	679住	1		RL		ミガキ		Ⅲ-11	18次	18008
10-8	679住	1	LR	LR		ミガキ		Ⅲ-11	18次	18007
10-9	679住	1			LR	ミガキ		Ⅲ-11	18次	18009
10-10	679住	埋積土	RL押	沈線		ミガキ		Ⅲ-5	18次	18011
10-11	679住	埋積土	LR、沈線、刺突					Ⅲ-10	18次	18012
10-12	679住	埋積土		LR、沈線		ミガキ		Ⅲ-10	18次	18013
10-13	680住	1	LR	LR				Ⅲ-11	18次	18016
10-14	680住	1			LR	ミガキ		Ⅲ-11	18次	18014

10図　第679号・680号住居跡出土土器

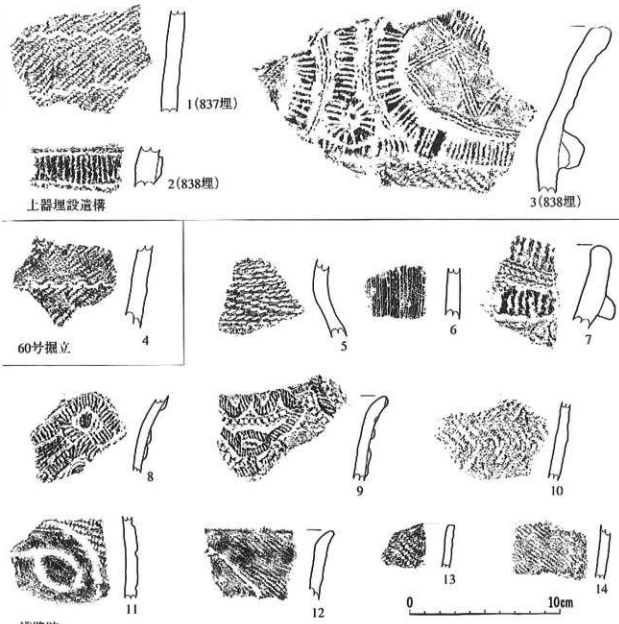


土坑

土器埋設遺構

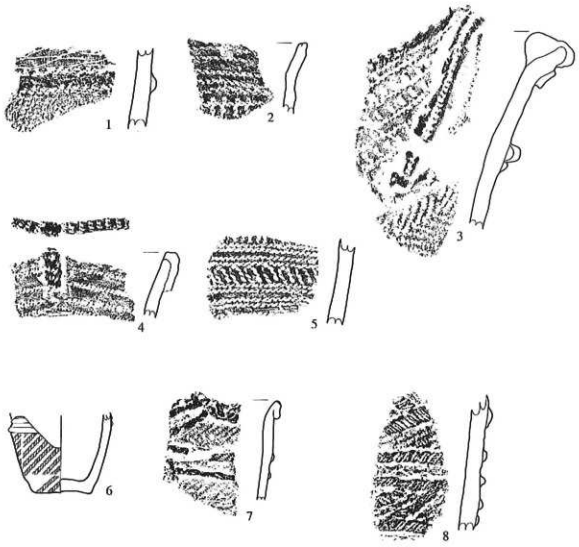
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
11-1	1226土	堆積土	斜矢、格（LR押）、LR押			ミガキ		5-2-3-1	18次	18019
11-2	1226土	堆積土	格（LR押）、LR、LR縄押			ミガキ		Ⅲ-2	21次	21002
11-3	1226土	堆積土		貼（LR押）、半竹管突		ミガキ		Ⅲ-3	21次	21003
11-4	1226土	堆積土		LR、RL結回		ミガキ		Ⅲ-6	21次	21004
11-5	1226土	堆積土	貼（RL押）、R・L押			ミガキ		Ⅲ-1	21次	21001
11-6	1247土	Ⅲ		押引（LR、RL）、[illegible]、格（LR）		ミガキ		Ⅲ-3	18次	18021
11-7	1235土	堆積土		格（RLR、LRL）、結（RL）		ミガキ		Ⅲ-6	18次	18020
11-8	1284土	Ⅲ		格（LRRL）、格（LR押）		ミガキ		Ⅲ-4	21次	21005
11-9	828埋	確認面		結束Ⅰ（LR、RL）		ミガキ		Ⅲ-6	18次	18022
11-10	828埋	確認面		結束（LR、RL）		ミガキ		Ⅲ-6	18次	18023
11-11	837埋	確認面		格（LR押）、[illegible]、格（LR）		ミガキ		Ⅲ-3	24次	24002

11図　土坑出土土器・土器埋設遺構出土土器（1）



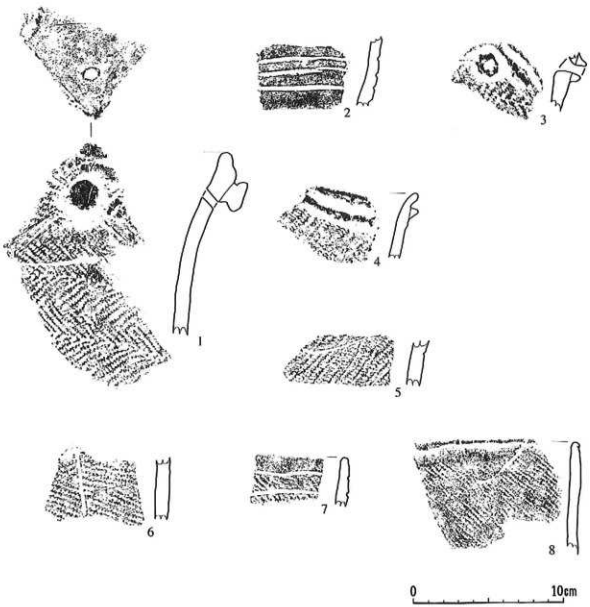
番号	遺構名	出土層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上下	外面文様 胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
12-1	837埋	確認面		RL、R施回		ミガキ		Ⅲ-6	24次	24003
12-2	838埋	確認面	R押			ミガキ		Ⅲ-6	24次	24004
12-3	838埋	確認面	貼（L押）、L・R押	RL		ミガキ		Ⅲ-1	24次、波状口縁	24001
12-4	4掘立（130ng6）	確認面		LR、R?施回		ミガキ		Ⅲ-6	21次	21006
12-5	道跡5 D5-145	路面	RL押、刺突			ミガキ		Ⅱ-5-2	24次	24008
12-6	道跡5 D8-145	路面		細沈線				Ⅱ-6・Ⅱ-1	24次	24009
12-7	道跡5 D10-145	路面	貼（LR押）、LR押			ミガキ		Ⅲ-1	24次	24010
12-8	道跡5 D8-145	路面	貼（L押）、L押			ミガキ		Ⅲ-2	24次	24011
12-9	道跡5 D9-145	路面	貼（L押）	貼（LRL）、LRL、RL		ミガキ		Ⅲ-3	24次、波状口縁	24012
12-10	道跡5 D9-145	路面		強いナデ（LR,RL・沈線）		ミガキ		Ⅲ-6	24次	24013
12-11	道跡5 G4-154	上面（Ⅱ）		磨消（LR、沈線）		ミガキ		Ⅲ-10	21次	21049
12-12	道跡5 I15-159	路面	LR			ミガキ		Ⅲ-11	18次	18024
12-13	道跡5 I19-158	路面	LR			ミガキ		Ⅲ-11	18次	18026
12-14	道跡5 I19-157	路面			LR	ミガキ		Ⅲ-11	18次	18025

12図　土器埋設遺構・掘立柱建物跡・道路跡上面出土土器



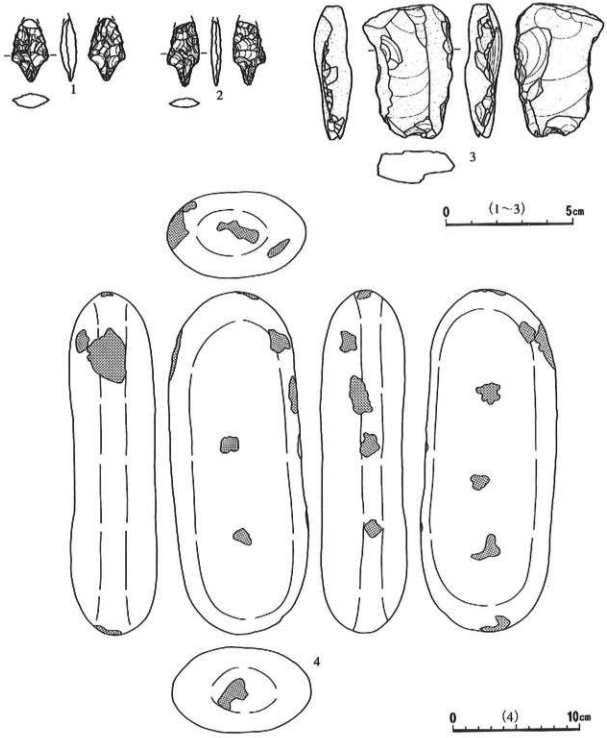
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			LR地部	胴部上半	胴部下半					
13-1	VIIE-160	III	R単節S、其、RLR押	RLR		ミガキ		II -3	21次、西盛土、羽根混入	21007
13-2	VIIE-160	III	LR押			ミガキ		II -5-2	21次、西盛土、羽根混入	21008
13-3	VIIF-159	III	其（単節RL押）、R単節RL押	結束I（LR・RL）		ミガキ		II -5-2	21次、西盛土、羽根混入	21010
13-4	VIIE-160	III	其（単節RL押）、R単節RL押			ミガキ		II -5-2	21次、西盛土、羽根混入	21009
13-5	VIIF-160	III	R押			ミガキ		II -5-2	21次、西盛土	21011
13-6	VIIG-143	III		LR、貼付	LR、貼付	ナデ？	ナデ？	III -4	24次、西盛土サブトレ	6838
13-7	VIIG-143	III	貼付	結束I（LR・RL）、原押		ミガキ		III -4	24次、西盛土トレンチ	24005
13-8	VIIB-143	III上		結束I（LR,RL）、其（LR押				III -4	24次、西盛土	24014

13図　盛土遺構出土土器（1）



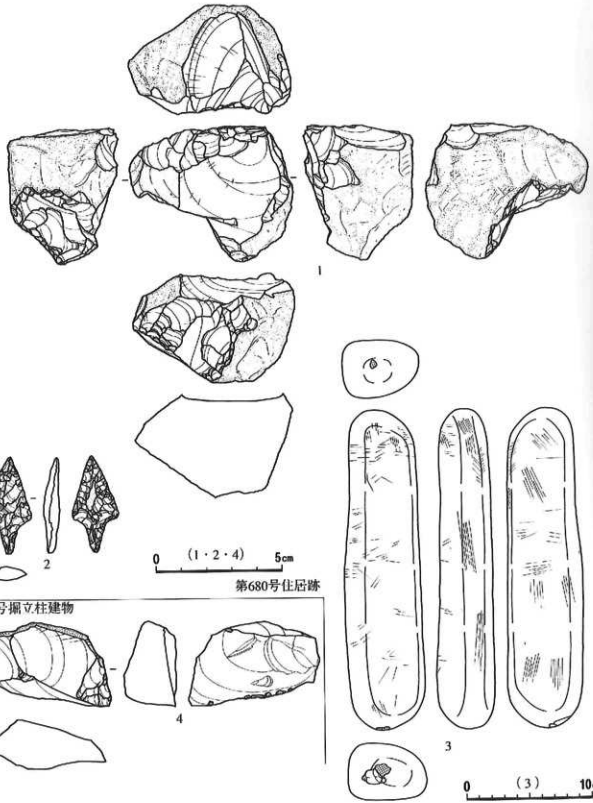
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
14-1	SIB-143	III上	貫通孔、突起貼付、RL押	結束1（LR・RL）		ミガキ		III-4	24次、法区D区 西盛土	24015
14-2	SIP-158	III		沈線		ミガキ		III-5	18次、盛土トレンチ	18027
14-3	SIG-143	III上	沈線、R沈線、RL(R)押			ミガキ		III-6	24次、法区D区 西盛土	24016
14-4	SIG-143	II	円状沈線	RL		ミガキ		II-8	24次、西盛土	24007
14-5	SID-161	III			RL、沈線	ミガキ		II-10	21次、西盛土	21012
14-6	SIE-160	III		LR、沈線		ミガキ		II-10	21次、西盛土	21013
14-7	SIE-160	III	LR、沈線			ミガキ		II-10	21次、西盛土	21015
14-8	SIF-160	II	無文	LR		ミガキ		II-11	21次、西盛土	21014

14図　盛土遺構出土土器（2）



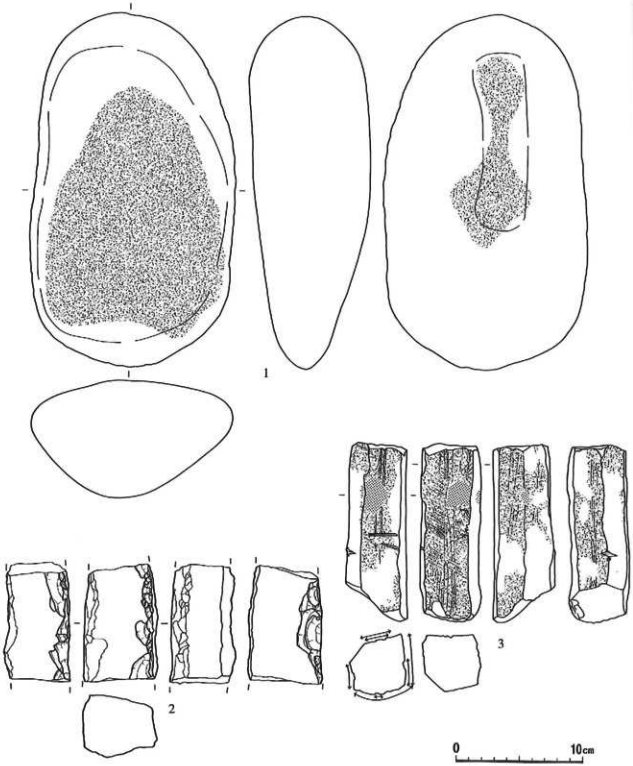
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
15-1	MR-160	準拠土	(25)	15	6	(1.6)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0001
15-2	MR-160	床直	(26)	18	4	(1.1)	玉髄質頁岩	A b		18-ハク-0002
15-3	MR-161	準積土	52	36	14	30.9	珪質頁岩	P c	付属施設	18-ハク-0008
15-4	MS-160	床上	271	110	68	2834.2	流紋岩	I b		18-レキ-0262

15図　第679号住居跡出土石器



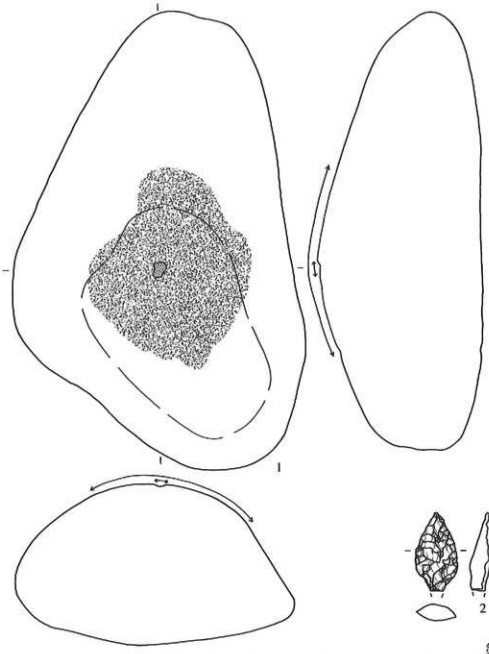
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
16-1	VIIP-162	堆積土	54	64	43	146.2	緑質頁岩	P a		18-ハタ-0003
16-2	VIIK-162	堆積土	38	19	6	2.6	珪質頁岩	A b		18-ハタ-0004
16-3	VIIP-162	堆積土	253	62	45	1096.8	流紋岩	I b		18-レキ-0261
16-4	VIIJ-154	堆積土	33	52	21	34.2	珪質頁岩	G a	13699ピット出土	21-ハタ-0027

16図　第680号・第60号掘立柱建物跡出土石器



番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
17-1	調G-157	堆積土	283	153	97	6000.0	安山岩	L		21-レキ-0416
17-2	調G-157	堆積土	(94)	59	52	(421.6)	流紋岩	U b		21-レキ-0448
17-3	調G-157	堆積土	(140)	48	49	(472.5)	流紋岩	U b		21-レキ-0418

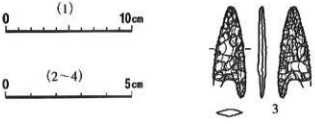
17図　第1226号土坑出土石器（1）



第1226号土坑

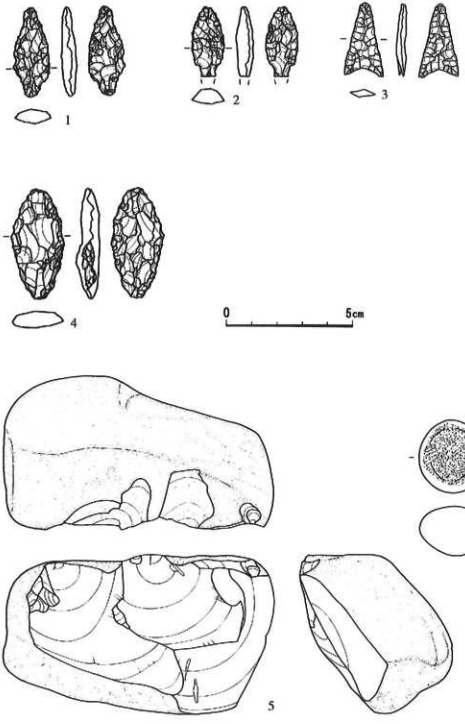
道路跡

第1235号土坑



番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	G質	分項	備　考	整理番号
18-1	VIIG-157	堆積土	363	232	131	12000.0	安山岩	L		21-レキ-0417
18-2	VIIG-157	堆積土	(31)	17	(8)	(3.1)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0006
18-3	VIIG-156	堆積土	36	(13)	3	(1.0)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0007
18-4	VIIS-158	L.B.内	34	16	6	2.0	珪質頁岩	A b		18-ハク-0010

18図　第1226号土坑出土石器（2）・第1235号土坑・道路跡出土石器



番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
19-1	VIIG-143	III	36	14	6	2.9	珪質頁岩	A b	盛土遺構	24-ハク-0040
19-2	VIIG-143	III	(28)	13	7	(2.2)	珪質頁岩	A b	盛土遺構	24-ハク-0003
19-3	VIIF-161	III	29	16	4	1.1	珪質細質頁岩	A f	盛土遺構	21-ハク-0004
19-4	VIIG-143	III	44	21	10	7.3	珪質頁岩	B a	盛土遺構	24-ハク-0041
19-5	VIIF-159	III	(63)	(108)	(61)	(339.8)	頁　岩	P a	盛土遺構	21-レキ-0444
19-6	VIIF-159	III	58	53	39	117.8	頁　岩	I c	盛土遺構	21-レキ-0432

19図　盛土遺構出土石器

第３節　古代以降の検出遺構

(1) 溝跡（４図）

時期不明の溝を８条検出した。いずれも南東から北西方向に伸びる。平成４年からの調査所見から中～近世のものと考えられる。

第４節　検出遺構一覧

住居跡

遺構名	位　置	確認	精査	重複・新旧	平面形	間口部規模（長×短：m）	深さ（m）	炉	時期	備　考
521住	Ⅶ T-133・134	H6試	未							
522住	Ⅶ F-130	H6試	未					石囲炉	中期後葉	
533住	Ⅶ H-139	H6試	未			(1.80×?)				
534住	Ⅶ H・I-139	H6試	未			(2.90)				
535住	Ⅶ H・I-139	H6試	未	>536H		(4.10)				
536住	Ⅶ I-139	H6試	未	<535H						
668住	Ⅶ S・T-138・139	H6試	16次		円形	4.55×3.05	0.25	地床炉	前期末	
669住	Ⅶ T-138・139	H6試	未	<670H		(1.47)			中期前半	
670住	Ⅶ T-138	H6試	未	>671H・669H		(3.53)				
671住	Ⅶ T-137・138	H6試	未	<670H		(1.46)				
679住	Ⅶ R・S-160・161	18次	18次					石囲炉	中期後～末	
680住	Ⅶ P・Q-162	18次	18次			3.25×2.52	10	〃	中期後～末	
682住	Ⅶ A-139	H6試	未			(2.92)				
684住	Ⅶ F-131	H6試	未			(1.9)				
688住	Ⅶ M-159・160	24次	未							
689住	Ⅶ D-148・149	24次	未							
690住	Ⅶ C・D-150・151	24次	未	<遺路跡						
691住	Ⅶ F-125・126	H6試	未			(4.10)				
692住	Ⅶ G-144	24次	未							
693住	Ⅶ G・H-143	24次	未							
694住	Ⅶ H-143	24次	未							
695住	Ⅶ F-126・127	H6試	未	<697H		(1.90)				
696住	Ⅶ G-144・145	24次	未	？844埋						
697住	Ⅶ F-127	H6試	未	<698H・695H		(1.40)				
698住	Ⅶ F-127	H6試	未	>697H		(2.40)				
699住	Ⅶ F	H6試	未	>698H		(4.0)				

土坑

遺構名	位　置	確認	検出	重複・新旧	平面形	開口部規模（長×短：m）	深さ（m）	時期	備　考
1094土	ⅦS・T-137	H6試	未						
1226土	ⅦG-157	18次	18・21次		円形	1.85×1.62	1.96	上層d	フラスコ
1227土	ⅦH-156・157	18次	未	<268溝		2.0×1.80			
1228土	ⅦF-159	18次	18次		楕円形	1.60×0.80	0.3	中期	土坑墓
1229土	ⅦI-152・153	18次	未		楕円形	(1.60×0.70)			土坑墓
1230土	ⅦH・I-153	18次	未		楕円形	(1.60×0.60)			土坑墓
1231土	ⅦH-154	18次	24次	<攪乱	楕円形	1.02×0.70	0.48		平哉、土坑墓
1232土	ⅦH-155	18次	未		楕円形	(2.0×0.6)			土坑墓
1233土	ⅦH-155・156	18次	未		楕円形	1.70×0.60			土坑墓
1234土	ⅦH-155・156	18次	未		楕円形	(1.70×0.60)			土坑墓
1235土	ⅦH-156	18次	18次		楕円形	2.10×0.70	0.5	中期	土坑墓
1237土	ⅦI-157	18次	未			(2.20×1.70)			
1238土	ⅦG-157	18次	未		楕円形	(1.95×0.55)			土坑墓
1239土	ⅦF・G-157・158	18次	未		楕円形	(2.35×0.60)			土坑墓
1242土	ⅦG・H-157・158	18次	未			(1.15×0.95)			
1243土	ⅦH-158	18次	未	>1244土		(2.0×1.60)			
1244土	ⅦH-158	18次	未	<1243土					
1245土	ⅦH-158・159	18次	未			(1.30×1.10)			
1246土	ⅦG・H-158	18次	未			(1.00×0.95)			
1284土	ⅦK-150	21次	未						
1285土	ⅦI・J-150	21次	21次		楕円形	1.35×0.65	0.38	中期	土坑墓
1288土	ⅦD-150・151	24次	未						
1295土	ⅦH-153・154	21次	未		楕円形	(1.40×0.55)			土坑墓
1296土	ⅦH-154	21次	未		楕円形	(1.45×0.53)			土坑墓
1297土	ⅦH・I-156	21次	未			(1.85×?)			
1298土	ⅦH・I-156	21次	未			(2.0×1.65)			
1299土	ⅦI-156	21次	未			(1.50×1.15)			
1300土	ⅦI-156・157	21次	未						
1301土	ⅦI・J-155・156	21次	未			(1.55×0.90)	0.11		
1302土	ⅦI-156	21次	未			(1.35×?)			
1303土	ⅦI-156	21次	未						
1304土	ⅦI・J-156・157	21次	未						
1305土	ⅦJ-156・157	21次	未						
1306土	ⅦJ-159	21次	未			(1.15×0.65)			
1307土	ⅦH-158	21次	未			(1.25×1.0)			
1308土	ⅦH-158	21次	未			(1.50×1.30)			
1309土	ⅦH・I-157・158	21次	未						
1310土	ⅦH-158	21次	未			(1.50×1.30)			
1311土	ⅦH・I-158	21次	未						
1312土	ⅦI-157	21次	未			(1.70×?)			
1313土	ⅦI・J-157	21次	未						
1314土	ⅦI・J-157	21次	未			(1.90×1.20)			
1315土	ⅦH-158	21次	未						
1316土	ⅦH-158	21次	未			(1.60×?)			
1317土	ⅦI-158	21次	未						
1318土	ⅦI-158	21次	未			(1.85×?)			
1319土	ⅦH-158	21次	未						
1320土	ⅦH-158	21次	未						
1321土	ⅦH-158・159	21次	未						
1322土	ⅦH・I-158・159	21次	未			(?×2.30)			
1323土	ⅦH・I-159	21次	未						
1324土	ⅦH・I-159・160	21次	未			(0.90×0.70)			
1325土	ⅦH・I-159	21次	未			(1.45×1.0)			
1326土	ⅦI-160	21次	未			(1.20×1.05)			
1327土	ⅦI-159	21次	未						
1328土	ⅦH-159	21次	未						
1329土	ⅦI-159	21次	未						
1330土	ⅦI-159	21次	未			(1.95×1.40)			
1331土	ⅦI-159	21次	未			(1.70×?)			
1332土	ⅦH-159	21次	未			(1.75×1.45)			
1333土	ⅦH-159・160	21次	未			(1.45×1.05)			
1334土	ⅦF-158	21次	未		楕円形	(1.80×0.70)			土坑墓
1335土	ⅦF-158	21次	未		楕円形	(1.50×0.6)			土坑墓
1336土	ⅦH-157	21次	未						

遺構名	位　置	確認	精査	重複・新旧	平面形	開口部規模（長×短；m）	深さ（m）	時期	備　考
1337土	ⅧH-157	21次	未			(0.70×0.60)			
1338土	ⅧH-157	21次	未			(1.0×0.70)			
1339土	ⅧH-158	21次	未			(0.50×0.40)			
1341土	ⅧI-160	21次	未			(2.75×0.70)			
1342土	ⅧI-160	21次	未			(0.90×0.75)			
1343土	ⅧI-160	21次	未			(0.85×0.75)			
1344土	ⅧI-159・160	21次	未			(0.80×0.70)			
1345土	ⅧI・J-159	21次	未						
1346土	ⅧI・J-159	21次	未			(0.80×0.70)			
1347土	ⅧJ-159	21次	未						
1348土	ⅧG-158	21次	未			(1.05×0.50)			
1349土	ⅧG-158	21次	未			0.35×0.3			
1351土	ⅧK-150	21次	未						
1352土	ⅧK-150	21次	未			(0.35×0.28)			
1353土	ⅧK-150	21次	未			(0.45×0.40)			
1354土	ⅧK-150	21次	未			(?×1.1)			
1355土	ⅧK-150	21次	未						
1357土	ⅧD-149・150	24次	24	3311→3310	楕円形	1.25×0.50	0.3	中期	
1358土	ⅧD-148	24次	未	d311→d310		(?×0.90)			
1359土	ⅧD-148	24次	未	<1358土					
1360土	ⅧN-157	24次	未	<13707P		(0.60×0.50)			
1361土	ⅧN-157	24次	未			(0.80×0.65)			
1364土	ⅧG-142・143	24次	未			(0.55×0.45)			
1372土	ⅧR-156	24次	未			(0.95×0.90)			

土器埋設遺構

遺構名	位　置	確認	精査	重複・新旧	平面形	開口部規模（長×短；m）	深さ（m）	時期	備　考
767埋	ⅧD-139	H6試	H6試	>盛土	円	径0.68		上層b～c	
771埋	ⅧF-136	H6試	未						
772埋	ⅧF-136	H6試	未						
773埋	ⅧF-136	H6試	未						
774埋	ⅧF-136	H6試	未						
775埋	ⅧF-136	H6試	未						
776埋	ⅧF-136	H6試	未						
777埋	ⅧE-136	H6試	未						
778埋	ⅧF-136	H6試	未						
779埋	ⅧF-136	H6試	未						
780埋	ⅧF-136	H6試	未						
781埋	ⅧF-136	H6試	未						
782埋	ⅧF-136	H6試	未						
783埋	ⅧF-136	H6試	未						
784埋	ⅧF-136	H6試	未						
785埋	ⅧF-136	H6試	未						
786埋	ⅦT-145	H6試	未					上層a?	
787埋	ⅦT-145	H6試	未					上層a?	
788埋	ⅦT-145	H6試	未						
789埋	ⅦT-145	H6試	未					上層a	
790埋	ⅦT-145	H6試	未						
826埋	ⅧH-153	18次	未					中期前葉	
827埋	ⅧF-159	18次	18次					中期前葉	
828埋	ⅧH-153	18次	未						
829埋	ⅧI・J-151	21次	未						
830埋	ⅧA-150	21次	未					上層e	
831埋	ⅧB-150	21次	未						
832埋	ⅧA-150	21次	未						
833埋	ⅧC・D-150	24次	未						
834埋	ⅧD-149	24次	未						
835埋	ⅧD-148	24次	未						
836埋	ⅧD-148	24次	未						
837埋	ⅧI-139	H6試	未						
838埋	ⅧC-149	24次	未						
840埋	ⅧF-146	24次	未						
841埋	ⅧF-145	24次	未						
842埋	ⅧF-145	24次	未						

遺構名	位　置	確認	精査	重複・新旧	平面形	開口部規模(長×短；m)	深さ	時期	備　考
843埋	ⅧF-144	24次	未						
844埋	ⅧF-144	24次	未	7696H					
845埋	ⅧH-139	H6試	未						
846埋	ⅧG-139	H6試	未						
847埋	ⅧG-139	H6試	未						
848埋	ⅧF-139	H6試	未						
851埋	ⅧE-139	H6試	未						
852埋	ⅧE-139	H6試	未						
853埋	ⅧF-135	H6試	未						
854埋	ⅧF-135	H6試	未						
855埋	ⅧF-135	H6試	未						
856埋	ⅧF-135	H6試	未						
857埋	ⅧF-135	H6試	未						
857-2埋	ⅧD-145	H6試	未						
858埋	ⅧD-147	H6試	未						

ピット

遺構名	位　置	確認	精査	重複・新旧	平面形	開口部規模(長×短；m)	深さ	時期	備　考
13693P	ⅧF-131	H6試	未						
13705P	ⅦM-158	24次	未						
13706P	ⅦN-157	24次	未						
13707P	ⅦN-157	24次	未	>1360土					
13708P	ⅧD-149	24次	未						
13709P	ⅧC・D-149	24次	未						
13721P	ⅧF-126	H6試	未						
13722P	ⅧF-127	H6試	未						
13723P	ⅧF-127	H6試	未						
13724P	ⅧF-131	H6試	未						
13725P	ⅧF-131	H6試	未						
13726P	ⅧH-139	H6試	未						
13727P	ⅧI-139	H6試	未						

溝

遺構名	位　置	確認	精査	重複・新旧	平面形	開口部規模(長×短；m)	深さ	時期	備　考
268溝	ⅦM～ⅧI-156～159	18次	18次						
270溝	ⅧH～K-150・151	18次	18次						
277溝	ⅧA～C-153～155	21次	未						
278溝	ⅧA～C-152～155	21次	未						
279溝	ⅦC～ⅧD-148～150	24次	未						
280溝	ⅧB-149・150	24次	未						
281溝	ⅧF・G-142・143	24次	未						
283溝	ⅧI・J-145	24次	未						

第５節　遺構外の出土遺物

(1) 第Ⅲ層の出土遺物

①土器

第Ⅱ群土器（20図１～21図１）

20図１は５類１の破片で、胴部に縦走するＲＬ、横位の結束１種が施文され、口縁にかけて細い単軸絡条体１類によって幾何学文が押圧されている。

２～10は、５類２に分類した円筒下層d2式土器の破片である。３・６・８・10は、口縁部に１～２段の縄の側面圧痕による主文様が施される破片である。２・４・７は細いコイル状原体、単軸絡条体１類による側面圧痕が口縁部に施される。６～９は、貼付帯が施される破片である。貼付帯は口縁から垂下する例（８）と斜めに施される例（７）、区画陥帯に用いられる例（６）が認められ、口縁部主文様と同種の原体が直交（９）して押圧される。他にヘラ状・棒状工具による刺突列が施される貼付（６・８）がみとめられる。

11・21図１は６類に分類した土器片である。器表面にヘラナデ様の擦痕が走る胴部破片で、胎土内への繊維混入が認められる。

第Ⅲ群土器（21図２～23図12）

21図２～４は、１類に分類した円筒上層ａ式の破片である。

口縁部区画、口唇に施された貼付帯上には、１段または２段の縄の撚糸圧痕が施される。区画内には平行文様の他、撚糸圧痕による鋸歯文（３）、連続短線文（４）が認められる。

21図５～８は、２類に分類した円筒上層ｂ式土器の口縁部破片である。

５・６・８は、２mm未満の撚糸で刻まれた貼付帯によって、曲線に富んだ区画がなされている。区画内には、コイル状の原体による連続馬蹄形圧痕が施される。７は、貼付帯上に連続馬蹄形圧痕が施される破片である。

21図９は、３類に分類した円筒上層ｃ式土器の破片で、２類同様の貼付帯で区画された内部に、半裁竹管状の工具による連続刺突が施される。

21図10～22図３は、４類に分類した円筒上層ｄ式土器の破片である。

縄文地文に、直線または緩い弧の貼付帯が認められるもので、貼付には無文のもの（22図２・３）も存在する。21図10は貼付の施された橋状把手である。

22図４・５は、５類に分類した円筒上層ｅ式土器の破片である。

４は、左右非対称の山形突起をもつ口縁部破片で、突起の表裏にも貼付がなされる。胴部上半の沈線文様は、８類に見られるＹ字形・弧状の組み合わせである。

22図６・７は、６類に分類した土器の破片である。22図７は無文の小型浅鉢土器の口縁部破片である。22図６は結束第１種が横位施文された胴部上半の破片で、１類または２類の胴部である可能性が高い。

22図８は、８類に分類した榎林式土器の破片で、凹状の沈線による文様が認められる橋状把手である。

22図９は９類土器の胴部破片である。

22図10・23図１・３～６は、10類に分類された中期末葉の土器片である。

10・23図１は地文縄文に沈線文が施されるものである。LRまたはRLの縦位が地文となる。３～５は、沈線区画文内に縄文が充填された破片である。６は、縦位の縄文地文にボタン状の貼付、撚糸圧痕による区画文が施される。

23図２・７～12は11類に分類した上器片である。７～９は斜行縄文のみの口縁部破片である。７・９は８類に伴う可能性が高い。10は、底面に網代圧痕をもつ土器底部である。12は台付土器の台部破片で、複数の穿孔が認められる。

②石器

剥片石器（24～26図）

剥片石器の石質については、各層とも傾向は共通しており、珪質頁岩が最も多く、玉髄、玉髄質珪質頁岩、鉄石英、黒曜石が若干利用される状況である。磨製石斧では緑色片岩、青色片岩、黒色片岩、角閃岩、砂岩が用いられている。その他にチャート、石英安山岩が見られるが積極的な利用は見られない。

登録された279点の中から石鏃、石槍、石匙、石錐、石篦、不定形石器、異形石器、石核類を40点図示した。また図示は行っていないが、磨製石斧、剥片が出土している。石鏃は29点を図示した。平面形態での分類では有茎Ｙ基と凹基のものが目立つ。有茎Ｙ基では刃部が直線的で外側への膨らみを持たないもの（24図１～７、11）と、刃部が湾曲し、茎を作出する際の抉りより外側に膨らむもの（24図５、８～10、12・13）がある。尖基の２点（25図１、２）はいずれも粗い作りとなっている。凹基では大型で二等辺三角形を呈するもの（25図３）と、小型で正三角形に近いもの（25図４～13）がある。基部に矢柄へ装着するためにつけられたと考えられる、アスファルト状の黒色物質が付着しているものは３点（24図１、３、９）ある。黒曜石製の25図13は原材産地分析（蒜科2005）を行い、岩手県雫石産という結果を得た。石匙は１点（25図14）図示した。上部が欠失しているため摘み部は確認できないが、形態から判断し本分類とした。石錐は１点（26図１）図示した。剥片素材の鋭角な部分を利用したもので、摘み部には調整が少ない。石篦は１点（26図８）図示した。調整が粗く、粗雑な作りとなっている。不定形石器は３点図示した。内訳はスクレイパー類２点（26図３、４）、R.フレイク１点（26図７）である。異形石器は１点（26図６）図示した。平面形は三日月状に大きく湾曲する。外側縁中央が抉られるように窪み、突起が２箇所作出されたような効果を持つ。石核類は３点図示した。石核とした28図１は、片面にのみ剥離が見られる。このため剥片を得るための打撃ではなく、利器として使用した際の剥離である可能性がある。黒曜石製の剥片２点（26図２、５）は原材産地分析（杉原2006）を行い、両方とも青森県岩木山系という結果を得た。

礫石器（27～30図）

礫石器は53点図示した。図示資料の抽出については、第Ⅰ層からの資料を少数にとどめ、主に第Ⅱ層と第Ⅲ層の資料を中心とした。

第Ⅲ層の礫石器を量的にみると、Ⅰ類の敲磨器類が大半を占め、機能上、それらと近縁関係にあ

ったと思われるL類－石皿・台石類、S類－砥石が次いで多く、ごくわずかにO類－石冠、U類－角柱状の礫、Q類－その他が加わる。上層の第Ⅱ層でもⅠ類が大半を占め、第Ⅲ層と似た傾向を示すが、第Ⅱ層には第Ⅲ層にみられないJ類－半円状扁平打製石器とV類－擦切具が認められる。なお、各層位ごとの器種別の出現率についてであるが、ごく微妙な敲きや磨りの痕跡をもつもの等は、単なる礫である可能性も否定できず、また、機能面が割れて失われたものも少なくないようである。よって、器種別の出現率については今回の調査区は狭小でもあるこから、あえて算出を行っていない。

敲磨器類の多くは欠損しており、完形資料は磨痕のあるもの（Ⅰ類c）に顕著である。敲打痕のみられるもの（Ⅰ類b）は、敲打されるという機能的な性格上、欠損率が高いことは当然であるが、磨痕のみられるⅠ類cの完形率が高いということは、Ⅰ類cは壊れなくても新たな適材の入手により、早くに廃棄対象になりやすかったという可能性とⅠ類cの使用開始から廃棄までの期間はⅠ類aやⅠ類bよりは長期になることもあり得たという２つの可能性をうかがわせる。

こうした欠損の割合については、石材の硬度等にも関連することである。Ⅰ類の石材には安山岩、流紋岩、凝灰岩等が利用されており、a～cの間に石材の明瞭な使い分けは認められない。主体を占める石材は安山岩であり、この状況は第Ⅱ層にも言えることで、これまでに本遺跡から出土したⅠ類石器の全体をみても同様の傾向となっている。

Ⅰ類の敲磨器類を見渡すと、１個体の中に複数の分類属性を共存させるものが少なくない。特に、Ⅰ類bはⅠ類c「磨痕があるもの」の属性をもつ場合が多く、逆に言えばⅠ類cの属性を持たないⅠ類bは極めて少ないと言える。敲きや磨りの痕跡は、成形によるものと使用によるものとを明瞭に見極めた上で分類しなければならないが、その認定は極めて難しく、今回は敲きと磨りの痕跡の有無をもって分類している。

観察によれば、敲きが先で、磨りが後になっているものやその逆のものもみられる[注1]。これらは単純に、転用されたものとして捉えることも可能であるが、中には敲きと磨りの行為が同じ作業目的の中で共存する場合も考えられる。普段は磨りの道具として用いるものを時々、敲きの道具とする場合もあったなど様々な状況が想定されることから、敲きと磨りの前後関係は微妙であり、その認定は難しい。

28図６はO類－石冠としたが、半円状扁平打製石器や抉入扁平磨製石器との関連で考える必要があるものと言える。

30図－７の砥石は、縄文時代のものとしては実に形が整っており、古代のものに類似する。

ところで、Ⅰ類のa、b、cをめぐる分類上の問題点について今後の分類を進める上で留意する必要があるので、簡単ながら付記しておきたい。

Ⅰ類aは、「主に凹のあるもの」としているが、この凹は、敲打により形成されたものと、内部が何らかの回転軸の端部に接することにより、円錐状になったものとがあり、今回報告した凹は全て敲打により形成されたものであった。敲打によって形成された凹であれば当然、Ⅰ類b「主に敲打痕のあるもの」との関係を整理、区別する必要がある。その前に、凹そのものについて先ず考えてみたい。

敲打によって形成された凹は、その石器の特定の位置に長期的に敲打が加わる、あるいは、敲打

の対象となるものが小型で硬い、またあるいは、石器自体の石材が軟質である、といったような様々な状況下で形成されたことが考えられる。言い換えると、Ⅰ類ａとｂは、使用頻度や石材硬度等の相違によって生じた使用痕跡の程度の違いによることも考えられ、Ⅰ類ａはⅠ類ｂの系列下に位置すべきものも含まれる場合が考えあられる。

凹には、面積的に極めて小さいものや非常に浅いものなどもみられるが、これらは、Ⅰ類ｂがⅠ類ａになりかかっている途中過程を示し場合も考えられ、明快な分類は難しいことから、凹には、その面積や深さに一定の基準を設け、その区別や分類をより客観的に行う必要がある。

今回報告したⅠ類ａの多くは手持ちで使用したものが多いように見受けられ、地面に置いて使用したと思われるものは少ないと考えられる。

以上のことから、今回の報告では、「Ⅰ類ａ・Ⅰ類ｂ」、あるいは「Ⅰ類ａ・Ⅰ類ｂ・Ⅰ類ｃ」のように、複数の分類記号を併記するかたちを採っている。このように表記することで、１つの石器が再利用されている状況や２つ以上の機能を同時にもっていた石器の実態に近ずくものと考えられる。

（註１）ｂとｃの前後関係については、断面図の外側に、その使用痕跡の範囲を２本の線で示している。断面に近い方の線は、最初の使用痕跡の範囲を示し、その外側の線は、後の使用痕跡を示している。不明なものには線を書き込んでいない。

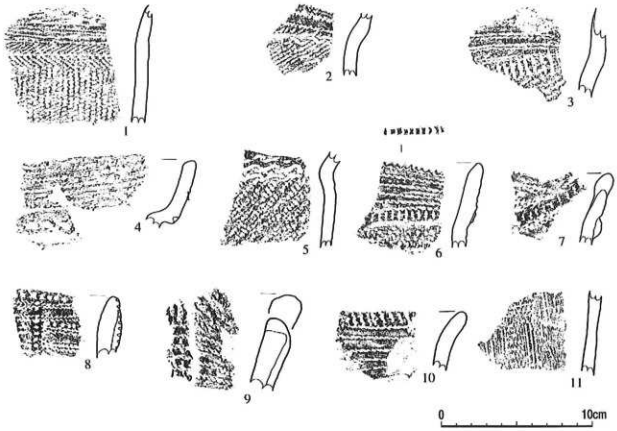
③土製品・石製品（31図１～５）

土偶２点とミニチュア土器１点、石製垂飾品１点、円盤状石製品１点が出土している。

１は頭部と左腕を欠損する土偶で、表裏面とも無文である。２は土偶の左腕部である。表面は無文、裏面には細かく浅い刺突が見られるが、これが施文された文様であるかは判然としない。

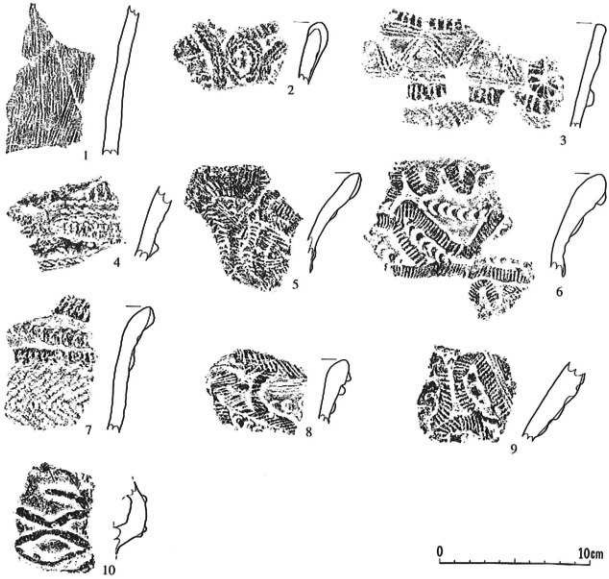
３は深鉢形のミニチュア土器である。無文の胴部には縦方向のナデが観察され、底辺部には成形時の指痕が残る。内面は黒色を呈する。胎土には繊維が混入する。

４は石製垂飾品である。長さ約４㎝の頁岩の自然礫に穿孔し、垂飾品としている。孔は両方向から穿たれているが、一方は水平方向に、もう一方は斜め上方向へ穿たれ、孔の横断面は一部食い違っている。５は円盤状を呈する石製品の破片である。残存部からは径14㎝の円盤状を呈していたと推測される。表裏面とも縁辺部は縁状を呈するが、中央から縁辺にかけての高まりは緩やかである。厚さは縁辺部で２㎝、中央部で1.4㎝を測る。側面には浅い溝が施され、滑車状となっている。器面全体に擦痕が見られ、特に表面は磨かれてなめらかである。



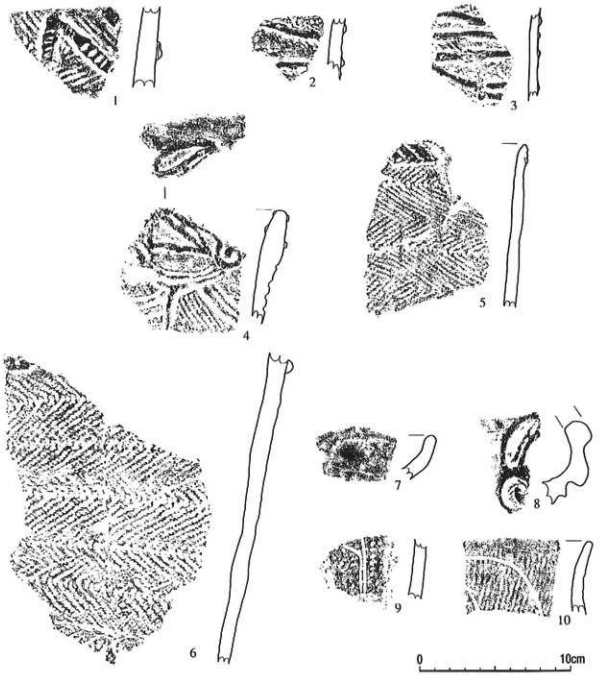
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
20-1	VIIJ-154	III	R押	RL、結束1（LR・RL）		ミガキ		II-5-1	21次、旗繊混入	21016
20-2	VIIJ-150	III	R単節1押	LR、R語回		ミガキ		II-5-2	3次、語回語、旗繊混入	21018
20-3	VIIF-158	III	L・R押、短沈線	LR		ミガキ		II-5-2	18次	18031
20-4	VIIE-160	III	口縁L、LR語押、付沈			ミガキ		II-5-2	3次、語回語、旗繊混入、語回1語	18047
20-5	VIIG-145	III		LR、L結押		ミガキ		II-5-2	24次	24017
20-6	VIIJ-151	III	LR押、口縁ヘラ語A、付沈	指（ヘラ語A）、多協語		ミガキ		II-5-2	21次、旗繊混入	21017
20-7	VIIJ-154	III	口縁R、口縁語、語押沈					II-5-2	21次、旗繊混入	21021
20-8	VIIF-146	III	R（語状）、L・R押、付沈			ミガキ		II-5-2	24次	24018
20-9	VIIG-159	III	語語 口沈、R語沈、LR押			ミガキ		II-5-2	21次	21019
20-10	VIIG-158	III	口押LR押、LR押			ミガキ		II-5-2	18次	18032
20-11	VIIJ-150	III			多協語、条痕	ミガキ		II-6	21次、旗繊混入	21020

20図　第Ⅲ層出土土器（1）



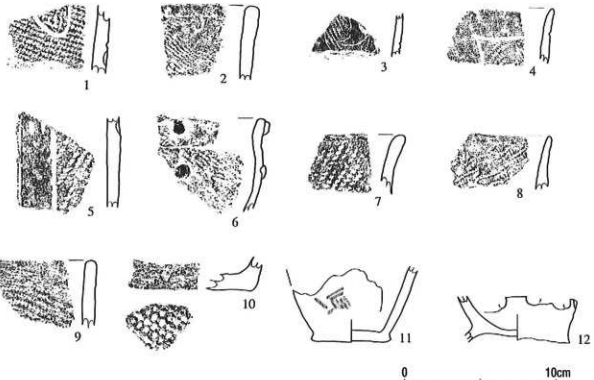
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
21-1	竪E-161	Ⅲ			条痕	ミガキ		Ⅱ-6	16次、トレンチ、掘削混入	18048
21-2	竪J-154	Ⅲ	貼（R押）、LR押			ミガキ		Ⅲ-1	21次	21023
21-3	竪G-145	Ⅲ	貼（LR押）、LR押	RL		ミガキ		Ⅲ-1	24次、波状口縁	24019
21-4	竪G-160	Ⅲ	貼（LR押）、LR押			ミガキ		Ⅲ-1	21次	21022
21-5	竪G-145	Ⅲ	貼（LR押）、LR押			ミガキ		Ⅲ-2	24次、波状口縁	24020
21-6	竪F-145	Ⅲ	貼（LR押）、LR押	RL、貼（LR押）		ミガキ		Ⅲ-2	24次、波状口縁	24021
21-7	竪G-159	Ⅲ	貼（LR押）、LR押			ミガキ		Ⅲ-2	21次、波状口縁	21024
21-8	竪F-146	Ⅲ	貼（LR押）、LR押			ミガキ		Ⅲ-2	24次、波状口縁	24022
21-9	竪H-160	Ⅲ		貼（LR押）、L・R押、半截竹管		ミガキ		Ⅲ-3	18次	18033
21-10	竪H-152	Ⅲ	指状把手（貼付）					Ⅲ-4	18次	18035

21図　第Ⅲ層出土土器（2）



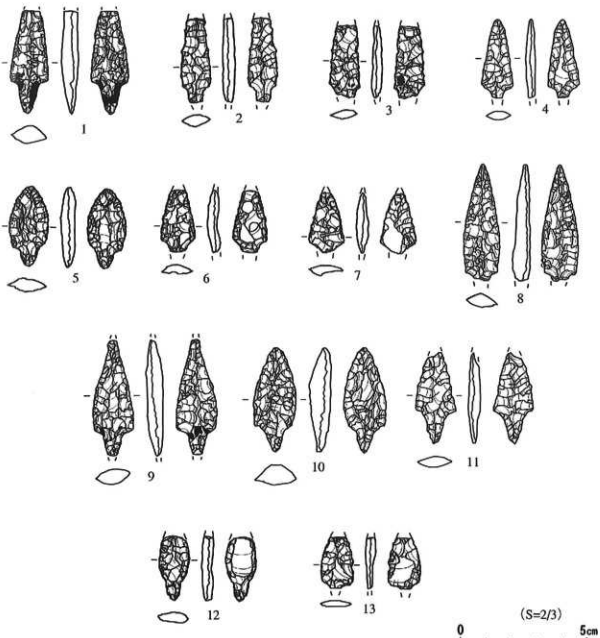
番号	遺構名	出土層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上半	外面文様 胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
22-1	SI-143	Ⅲ		撚糸1（LR・RL）、羽状		ミガキ		Ⅲ-4	24次	24023
22-2	SI-151	Ⅲ		撚糸1（LR・RL）、格子		ミガキ		Ⅲ-4	21次	21025
22-3	SI-160	Ⅲ		撚糸1（LR、RL）、格子		ミガキ		Ⅲ-4	18次	18034
22-4	SI-143	Ⅲ	口唇欠反（格子）、格子	RL、沈線		ミガキ		Ⅲ-5	24次、突起内面に施文	24024
22-5	SI-156	Ⅲ	結（RL押）	結束1（LR、RL）		ミガキ		Ⅲ-5	18次	18037
22-6	SI-161	Ⅲ		格子、撚糸1（LR、RL）		ミガキ		Ⅲ-6	18次、トレンチ	18036
22-7	SI-161	Ⅲ	無文	無文		ミガキ		Ⅲ-6	18次、小型鉢	18038
22-8	SI-158	Ⅲ	波状把手（四波式波頂）					Ⅲ-8	18次	18039
22-9	SI-153	Ⅲ		RL、沈線、刺突		ミガキ		Ⅲ-9	21次	21045
22-10	SI-160	Ⅲ	沈線、RL			ミガキ		Ⅲ-10	18次	18042

22図　第Ⅲ層出土土器（3）



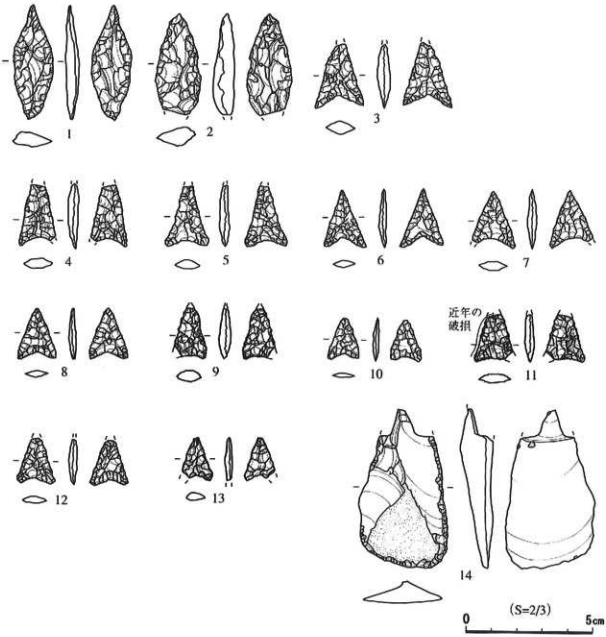
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底部	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
23-1	VIIJ-150	Ⅲ		LR、沈線、へう刺突		ミガキ		Ⅲ-10	21次	21027
23-2	VIIH-160	Ⅲ	LR、L押			ミガキ		Ⅲ-11	21次	21028
23-3	VIIE-160	Ⅲ		沈線、LR		ミガキ		Ⅲ-10	18次	18041
23-4	VIIN-161	Ⅲ	沈線、RL			ミガキ		Ⅲ-10	18次	18043
23-5	VIII-155	Ⅲ		沈線、RL、刺突		ミガキ		Ⅲ-10	18次	18040
23-6	VIIG-159	Ⅲ	LR、貼、LR押			ミガキ		Ⅲ-10	21次	21029
23-7	VIIJ-150	Ⅲ	RLR			ミガキ		Ⅲ-11	21次	21031
23-8	VIIH-159	Ⅲ	異条LR			ミガキ		Ⅲ-11	18次	18044
23-9	VIIB-151	Ⅲ	LR					Ⅲ-11	21次	21032
23-10	VIIG-159	Ⅲ					網代痕	Ⅲ-11	21次	21030
23-11	VIIG-159	Ⅲ				ミガキ	ミガキ	Ⅲ-11	21次	6837
23-12	VIIB-151	Ⅲ					台(ヨコ)	Ⅲ-11	21次	6836

23図　第Ⅲ層出土土器（4）



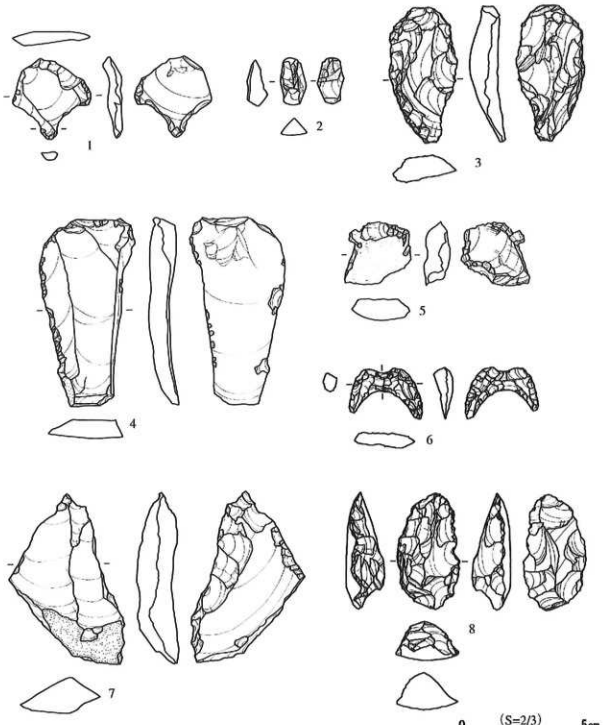
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
24-1	Ⅶ I-156	Ⅲ	(41)	15	(7)	(3.5)	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	18-ハク-0054
24-2	Ⅶ H-152	Ⅲ	(33)	12	5	(2.0)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0049
24-3	Ⅶ K-150	Ⅲ	(29)	13	4	(1.5)	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	21-ハク-0009
24-4	Ⅶ K-150	Ⅲ	(31)	12	4	(1.4)	珪質頁岩	A b		21-ハク-0007
24-5	Ⅶ F-145	Ⅲ	32	15	7	2.5	珪質頁岩	A b		24-ハク-0001
24-6	Ⅶ G-152	Ⅲ	(24)	13	5	(1.4)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0046
24-7	Ⅶ I-146	Ⅲ	(24)	14	5	(1.2)	珪質頁岩	A b		24-ハク-0007
24-8	Ⅶ P-162	Ⅲ	46	14	7	3.7	珪質頁岩	A b		18-ハク-0039
24-9	Ⅶ I-157	Ⅲ	46	16	7	4.2	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	18-ハク-0055
24-10	Ⅶ H-157	Ⅲ	41	17	9	5.4	珪質頁岩	A b		18-ハク-0050
24-11	Ⅶ J-149	Ⅲ	(36)	16	5	(2.0)	珪質頁岩	A b		21-ハク-0005
24-12	Ⅶ F-146	Ⅲ	(25)	12	5	(1.5)	珪質頁岩	A b		24-ハク-0002
24-13	Ⅶ G-150	Ⅲ	(20)	17	4	(1.0)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0043

24図　第Ⅲ層出土石器（1）



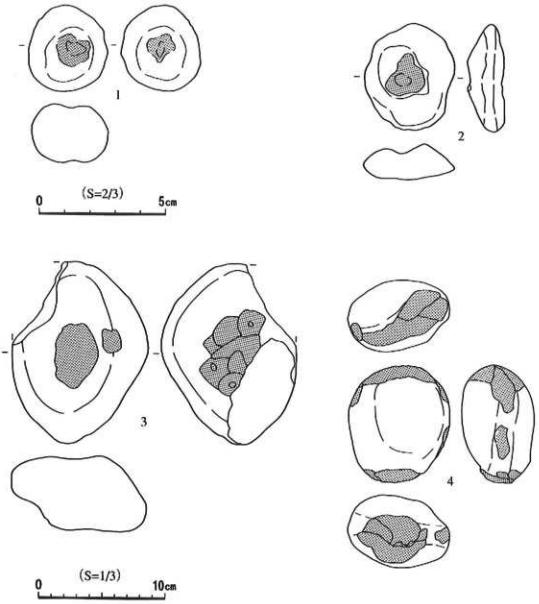
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備　考	整理番号
25-1	ⅧK-150	Ⅲ	45	16	5	2.8	珪質頁岩	A c		21-ハク-0008
25-2	ⅧF-160	Ⅲ	(40)	18	9	(5.3)	珪質頁岩	A c		18-ハク-0038
25-3	ⅧG-151	Ⅲ	(25)	20	5	(1.5)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0045
25-4	ⅧG-150	Ⅲ	(25)	(15)	4	(1.1)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0044
25-5	ⅧH-150	Ⅲ	(24)	17	4	(0.8)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0051
25-6	ⅧH-151	Ⅲ	23	17	3	0.6	珪質頁岩	A f		18-ハク-0053
25-7	ⅧH-151	Ⅲ	(23)	(17)	4	(0.8)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0052
25-8	ⅧR-157	Ⅲ	20	15	3	0.5	珪質頁岩	A f		18-ハク-0040
25-9	ⅧK-149	Ⅲ	(20)	(18)	5	(1.0)	珪質頁岩	A f		21-ハク-0006
25-10	ⅧG-154	Ⅲ	17	13	3	0.3	珪質頁岩	A f		18-ハク-0047
25-11	ⅧF-151	Ⅲ	(19)	(15)	4	(0.9)	珪質頁岩	A f	近年の破損あり	18-ハク-0041
25-12	ⅧH-150	Ⅲ	(18)	15	3	(0.6)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0048
25-13	ⅧL-150	Ⅲ	(17)	(12)	3	(0.4)	黒曜石	A f	分析番号8134 (618)	21-ハク-0010
25-14	ⅧF-160	Ⅲ	(63)	35	(13)	(17.5)	珪質頁岩	C a		18-ハク-0042

25図　第Ⅲ層出土石器 (2)



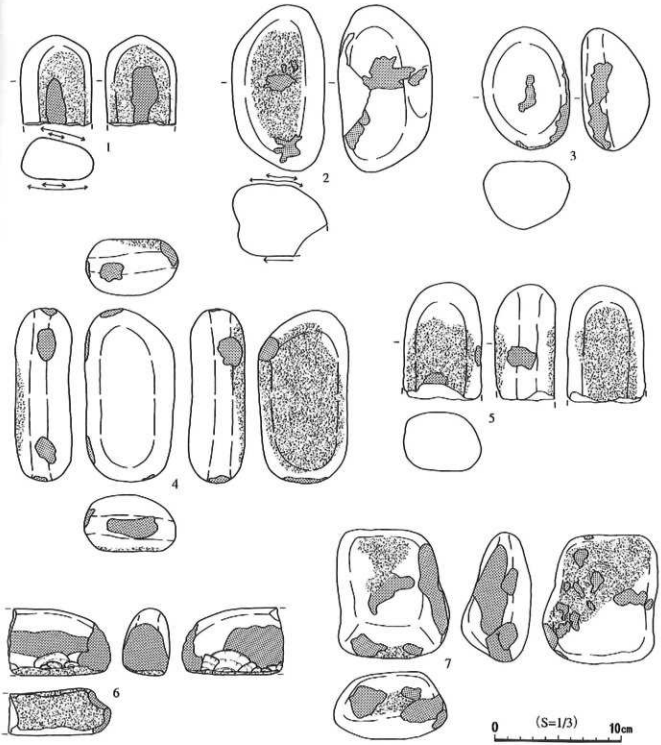
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
26-1	ⅦD-154	Ⅲ	33	31	8	4.1	珪質頁岩	D b		21-ハク-0003
26-2	ⅦH-143	Ⅲ	18	10	8	1.3	黒曜石	P c	分析番号SMA1485 389	24-ハク-0042
26-3	ⅦH-143	Ⅲ	54	28	14	15.5	珪質頁岩	G a		24-ハク-0006
26-4	ⅦD-154	Ⅲ	74	39	11	28.8	珪質頁岩	G a		21-ハク-0002
26-5	ⅦH-143	Ⅲ	24	27	10	7.1	黒曜石	P c	分析番号SMA1406 388	24-ハク-0043
26-6	ⅦG-145	Ⅲ	21	29	8	2.4	珪質頁岩	R		24-ハク-0005
26-7	ⅦF-159	Ⅲ	68	46	16	34.9	珪質頁岩	G b		21-ハク-0028
26-8	ⅦG-145	Ⅲ	46	25	15	14.1	珪質頁岩	E a		24-ハク-0004

26図　第Ⅲ層出土石器（3）



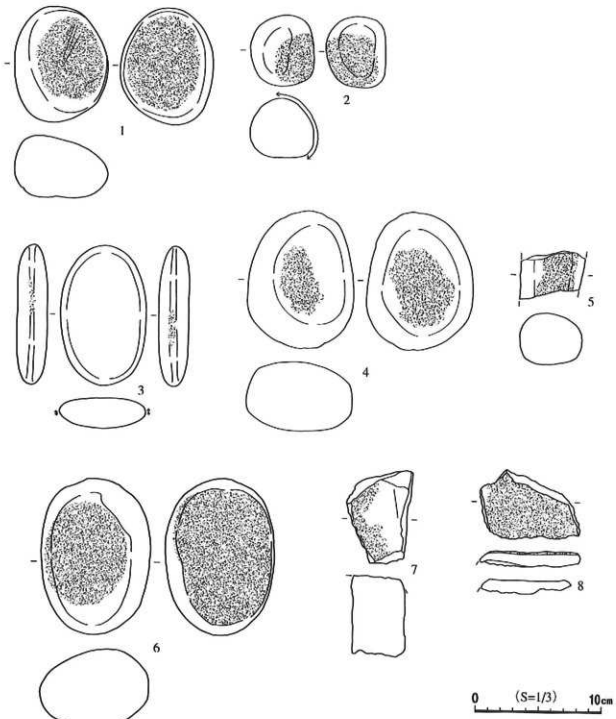
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
27-1	VIIH-152	Ⅲ	69	63	47	208.1	凝灰岩	I a		18-レキ-0288
27-2	VIII-152	Ⅲ	85	72	29	166.1	安山岩	I a		18-レキ-0289
27-3	VIIG-160	Ⅲ	143	107	66	(1068.9)	安山岩	I a		21-レキ-0134
27-4	VIIK-150	Ⅲ	94	80	56	536.1	安山岩	I b		21-レキ-0446

27図　第Ⅲ層出土石器（4）



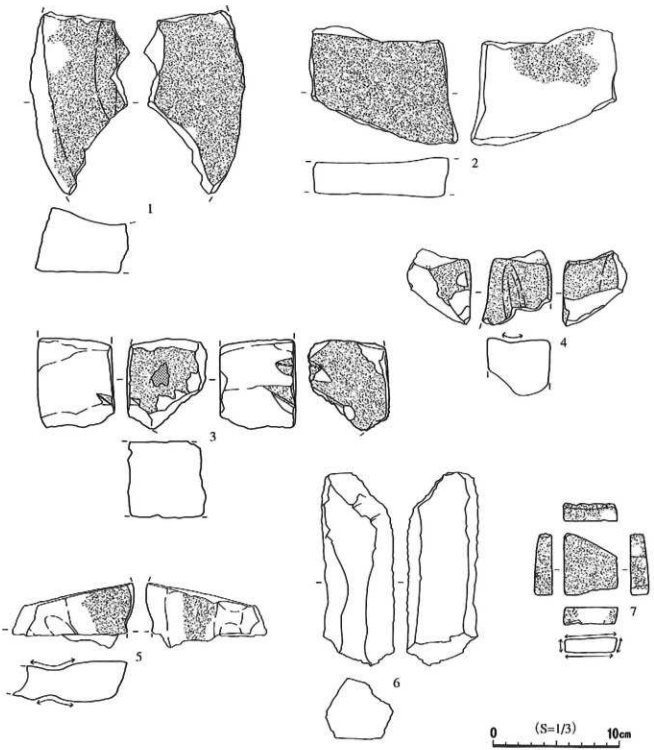
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
28-1	1区G-152	Ⅲ	(72)	57	35	(235.6)	安山岩	Ⅰb・Ⅰc		18-レキ-0285
28-2	1区H-152	Ⅲ	132	73	57	753.6	流紋岩	Ⅰb・Ⅰc		18-レキ-0287
28-3	1区G-160	Ⅲ	96	69	53	416.8	安山岩	Ⅰa・1b		21-レキ-0433
28-4	1区I-155	Ⅲ	137	73	45	685.1	流紋岩	Ⅰb・Ⅰc		18-レキ-0291
28-5	1区G-145	Ⅲ	(92)	62	47	(424.7)	流紋岩	Ⅰb・Ⅰc		24-レキ-0686
28-6	1区I-156	Ⅲ	53	(81)	37	(244.9)	安山岩	O		18-レキ-0298
28-7	1区I-159	Ⅲ	103	90	54	579.6	凝灰岩	Ⅰb・1c		18-レキ-0299

28図　第Ⅲ層出土石器（5）



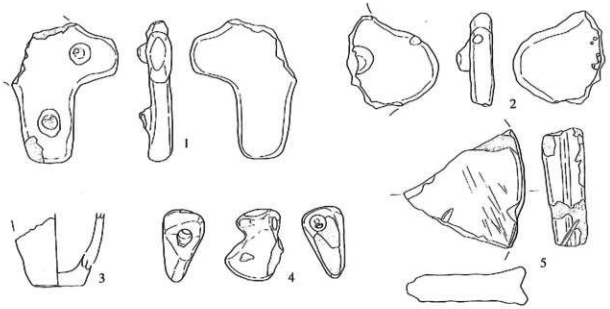
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
29-1	ⅦT-160	Ⅲ	92	74	50	429.5	安山岩	Ⅰc		18-レキ-0282
29-2	ⅦG-160	Ⅲ	56	50	47	182.4	安山岩	Ⅰc		18-レキ-0286
29-3	ⅦH-155	Ⅲ	111	68	24	268.3	安山岩	Ⅰc		18-レキ-0297
29-4	ⅦG-160	Ⅲ	110	84	55	690.1	流紋岩	Ⅰc		21-レキ-0445
29-5	ⅦI-146	Ⅲ	(39)	51	41	(115.4)	安山岩	Ⅰc		24-レキ-0687
29-6	ⅦI-154	Ⅲ	124	87	61	854.4	流紋岩	Ⅰc		18-レキ-0290
29-7	ⅦK-150	Ⅲ	(74)	(52)	(64)	(327.4)	安山岩	L		21-レキ-0447
29-8	ⅦG-150	Ⅲ	(54)	(19)	(12)	(65.7)	凝灰岩	L		18-レキ-0242

29図　第Ⅲ層出土石器（6）



番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
30-1	ⅧF-160	Ⅲ	(146)	(79)	55	(645.9)	安山岩	L		18-レキ-0283
30-2	ⅧG-143	Ⅲ	(94)	(117)	32	(428.9)	安山岩	L		24-レキ-0685
30-3	ⅧG-151	Ⅲ	(64)	(71)	60	(269.0)	安山岩	Q		18-レキ-0284
30-4	ⅧH-159	Ⅲ	(50)	(60)	54	(145.9)	砂　岩	S		18-レキ-0281
30-5	ⅧF-152	Ⅲ	(51)	(96)	33	(131.5)	凝灰岩	S		18-レキ-0296
30-6	ⅧE-161	Ⅲ	(153)	57	48	(528.2)	流紋岩	U R		18-レキ-0295
30-7	ⅧD-154	Ⅲ	(49)	(43)	14	(41.1)	珪質頁岩	S		21-レキ-0431

30図　第Ⅲ層出土石器（7）



番号	出土地点	層位	計測値（cm） 長さ	幅	厚さ	文様 表面	裏面	種別	備考	整理番号
31-1	VIIG-143	Ⅲ最上位	(75)	(57)	(18)	無文	無文	土偶	24次、胴部	10473
31-2	VIII-159	Ⅲ	(49)	(49)	(20)	無文	刺突	土偶	18次、脚部	10847

番号	出土地点	出土層位	外面文様 口縁部	胴部上半	胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
31-3	VIIIF-160	Ⅲ			無文		無文	ミニチュア	21次	8186

番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
31-4	VIIH-150	Ⅲ	39	31	23	16.5	頁岩	石製垂飾品	18次	7153
31-5	VIIH-143	Ⅲ	(63)	(64)	23	(64.8)	蛇灰質粘石	円盤状石製品	24次 トレンチ	8147

31図　第Ⅲ層出土土製品・石製品

(2) 第Ⅱ層の出土遺物

①土器

第Ⅱ層からは、Ⅱ群5類1～Ⅴ群までの縄文土器が出土している。主体はⅢ群である。このほか、須恵器が少量出土している。

第Ⅱ群土器（32図1～33図2）

32図1は、5類1に分類した口縁部破片である。32図3～11は5類2に分類される破片で、口縁部文様に2段の縄（3～5）、単軸絡条体1類としたコイル状原体（6・7）、一段の縄（8・9・11）が用いられる。8～11には刺突列が伴う。5には2段LRによる縄端圧痕が認められる。

32図12・33図1は縦位の単軸絡条体1a類が施文された胴部破片で、ともに6類である。

第Ⅲ群土器（33図3～34図5）

33図3は、RL縄端による刺突が施された3類の口縁破片である。33図6は4類、33図5は6類に分類される破片である。

33図7は8類に分類される土器の橋状把手で、四脚で器面に接していたと思われる。

33図8・9は9類に分類される破片で、ともに広口壺器形の破片である。8は斜方向の刺突列を境に上が無文となる破片で、底部側は縦位の回転縄文が施文される。

33図10～20は10類の破片である。

10～16はいわゆる磨消縄文の土器片で、11・16は、沈線施文後に縄文を充填している。10・13・15では、沈線が縄文を切っている。17～19は磨消を伴わない沈線文の破片で、縦位のＬＲが地文となる。20は、口縁の波頂部からヒレ状の隆帯が垂下する破片である。

34図1～5は11類の破片である。1は、頸部に二条の隆帯と橋状把手をもつ壺形土器の破片である。3～5は縄文地文のみの口縁部破片である。

第Ⅳ群土器（34図6～13）

34図6～10は1類に分類される土器片である。6に施された刺突は、間に粘土瘤が形成される特徴的なものである。9は刺突を伴う貼付区画内に、撚糸圧痕によって方形モチーフの文様が施される。8の貼付は、縦位の縄文施文後に施されている。

10は筋の細かい斜縄文の施文後に、口縁突起にかけて2条の沈線が八の字に施される。

34図11～13は2類に分類される十腰内Ⅰ群土器の胴部破片である。

第Ⅴ群土器

34図14～16は晩期中葉に属する破片である。16は浅鉢の口縁部破片で、内外面に赤色顔料の塗布が認められる。

須恵器（34図17～19）

17は壺胴部片、18・19は大甕胴部片である。

②石器

剥片石器（35図～39図３）

登録した368点の中から石鏃、石槍、石匙、石錐、不定形石器、石核類を52点図示した。また図示は行っていないが、磨製石斧、剥片が出土している。石鏃は36点図示した。第Ⅲ層同様、有茎Y基と凹基のものが目立つ。有茎T基は３点で、有茎Y基同様刃部が直線的で外側への膨らみを持たないもの（35図１、３）と、刃部が湾曲し、茎を作出する際の抉りより外側に膨らむもの（35図２）がある。有茎Y基で図示したのは膨らみを持たないもの（35図４～11）のみである。尖基は５点（35図12～16）で、柳葉形に丁寧に調整されているもの（35図13～15）と粗雑な作り（35図12、16）がある。平基は１点（36図１）、凹基は19点図示した。大型で二等辺三角形を呈するもの（36図２、５～７）と、小型で正三角形に近いもの（36図８～20）の他に、刃部も基部同様凹状に窪み、湾曲するもの（36図３、４）がある。また基部に矢柄へ装着するためにつけられたと考えられる、アスファルト状の黒色物質が付着しているものは11点（35図８、36図３～６、９～11、14、17、18）ある。凹基では刃部側縁以外の部分に両面確認できるものがあり、矢柄への装着方法を示唆している。石槍は３点（37図１～３）で、いずれも無茎である。37図１の基部には矢柄へ装着するためにつけられたと考えられるアスファルト状の黒色物質が付着している。石匙は４点図示した。縦型（37図４、５）と斜型（37図６、７）に分類できる。37図４は摘み部の形成は確認できるものの、刃部の調整が見られないことから未製品の可能性も考えられる。黒曜石製の37図５は原材産地分析（杉原2006）を行い、北海道豊浦系という結果を得た。石錐は１点（37図８）で、石鏃の再利用品である。尖端部に使用による光沢が確認できる。不定形石器はスクレイパー類５点（37図９、38図１～４）、R.フレイク２点（39図１、２）を図示した。38図４は主要剥離面の一側縁に、使用によって形成されたと思われる光沢が確認できた。石核類は１点図示した。黒曜石製の剥片１点（39図３）は原材産地分析（鑓科2005）を行い、青森県出来島・鶴ヶ坂産という結果を得た。

礫石器（39図４～42図）

Q類「その他」とした中の第Ⅱ層出土42図３は、扁平な礫の側縁を磨っているもので、半円状扁平打製石器と同じような機能を果たしたものかと推察されるが、一般的な半円状扁平打製石器にみられる特徴とはかけ離れている。これは今後の類例増加に期待したいものの１つである。また、42図６の半円状扁平打製石器は、表裏面を磨って成形していることから、抉入扁平磨製石器との関連を考えなければならないものと言える。

③土製品・石製品（43図１～５）

土偶２点とミニチュア土器１点、焼成粘土塊１点、軽石製垂飾品１点が出土している。

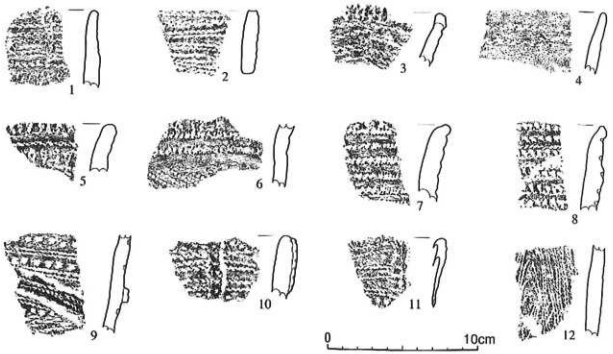
１・２は中期前葉とみられる土偶胴部破片である。厚さが約２cmあり、大型の土偶の破片と考えられる。１は同グリッド出土のものが接合している。裏面および側面には２条あるいは３条のRを押しつけて直線状あるいは円形の文様を施文している。表面にはさらに、長方形の刺突の組み合わせによるC字状の文様が連続して施文されている。また、破断面からは粘土を２枚折り重ねたような痕跡が観察される。７も原体の圧痕による文様が施文されており、LとRを２条あるいは３条組み合

わせた側面圧痕の上から、渦巻文様が施文される。胎土に砂粒の混入が目立つ。下部でやや厚みを増しているが、上下は判然としない。

3はミニチュア土器の底部である。外面には縦方向に幅0.5㎜程度の細かい条痕が施文される。内面は黒色を呈する。器壁および底部は厚く、胎土には繊維が混入する。

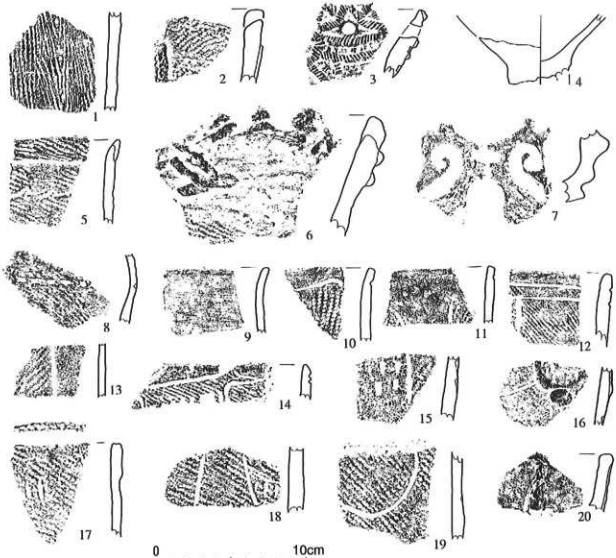
4は焼成粘土塊で、断面はやや算盤玉状を呈する。被部分を中心に、擦痕が観察できる。

5は軽石製垂飾品で、両面が磨かれている。



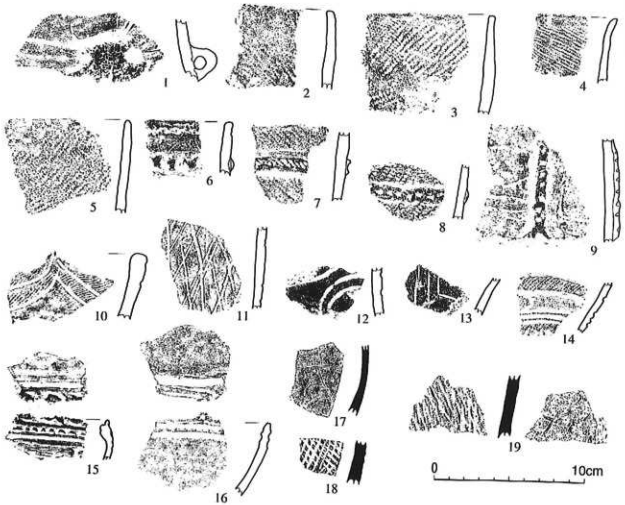
番号	遺構名	出土層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上半	外面文様 胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
32-1	ⅦA-162	Ⅱ	口唇ヘラ刻み、LR押	単節 l		ミガキ		Ⅱ-5-1	21次、磯雑混入	21033
32-2	ⅦA-152	Ⅱ	L・R押			ミガキ		Ⅱ-5-1	21次	21038
32-3	ⅦI-159	Ⅱ	口唇刻目（LR押）、LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2	18次	18050
32-4	ⅦS-156	Ⅱ	RL押			ミガキ		Ⅱ-5-2	18次	18049
32-5	ⅦE-161	Ⅱ	口唇LR押、LR・LR縄加押			ミガキ		Ⅱ-5-2	18次	18052
32-6	ⅦA-151	Ⅱ	R単節 l 押、L押	RL		ミガキ		Ⅱ-5-2	21次、磯雑混入	21036
32-7	ⅦA-151	Ⅱ	R単節 l 押			ミガキ		Ⅱ-5-2	21次	21034
32-8	ⅦA-151	Ⅱ	L押、ヘラ側突			ミガキ		Ⅱ-5-2	21次、磯雑混入	21035
32-9	ⅦA-152	Ⅱ	粘（L押）、L押、刺突			ミガキ		Ⅱ-5-2	21次	21041
32-10	ⅦJ-151	Ⅱ	粘（刺突）、LR押、羽状			ミガキ		Ⅱ-5-2	21次	21037
32-11	ⅦA-151	Ⅱ	口縁小突起、R単節 l 結節			ミガキ		Ⅱ-5-2	21次、磯雑混入	21039
32-12	ⅦA-151	Ⅱ			R単節 la	ミガキ		Ⅱ-6	21次、磯雑混入	21042

32図　第Ⅱ層出土土器（1）



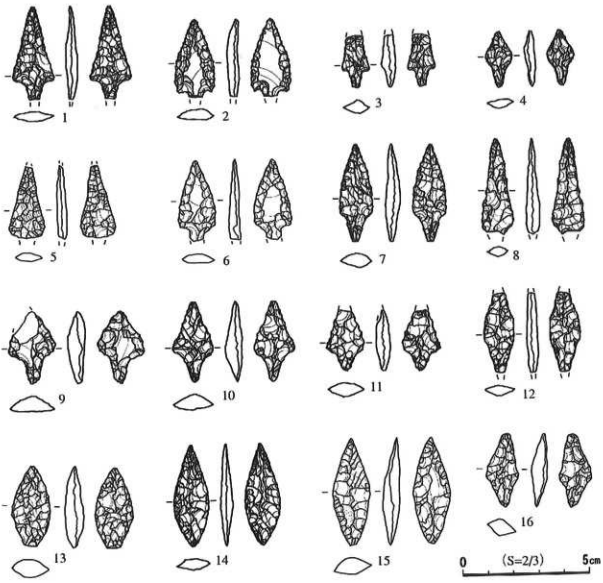
番号	遺構名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
33-1	WH-155	II			L・R単沿1a	ミガキ		II-6	18次	18051
33-2	WB-151	II	口唇LR、粗LR原体、LR			ミガキ		II-5-2	21次	21040
33-3	WT-158	II	粗LR原体、粗沿原体、粗施	肥厚 LR原体、粗沿原体		ミガキ		III-3	18次、波状口縁	18054
33-4	WI-146	II			結束I（LR・RL）	ミガキ	行付	III-6	24次	6840
33-5	WA-150	II	折返口縁（RL）	RL		ミガキ		III-6	21次	21044
33-6	WI-152	II	突起（貼付）、貼付	RL		ミガキ		III-4	18次	18055
33-7	WI-158	II	鉤状把手（凹状沈線）			ミガキ		III-8	18次	18056
33-8	WD-160	II	撚文	刺突、L		ミガキ		III-9	18次	18057
33-9	WH-145	II c	撚文			ミガキ		III-9	24次	24028
33-10	WH-146	II c	磨消（RL、沈線）			ミガキ		III-10	24次	24030
33-11	WD-160	II	無文	磨消（沈線、RL）		ミガキ		III-10	18次	18058
33-12	WS-160	II	沈線	LR、沈線		ミガキ		III-10	18次	18065
33-13	WH-151	II		磨消（LR、沈線）				III-10	18次	18061
33-14	WA-154	II	L、沈線、刺突			ミガキ		III-10	21次、WD-159II層と接合	21047
33-15	WI-146	II c		磨消（RL、沈線）、刺突		ミガキ		III-10	24次	24029
33-16	WE-161	II		貼付、沈線、LR、刺突		ミガキ		III-10	18次	18077
33-17	WT-154	II	LR、沈線、刺突			ミガキ		III-10	21次	21050
33-18	WS-156	II		LR、沈線、刺突		ミガキ		III-10	18次	18060
33-19	WA-154	II		LR、沈線		ミガキ		III-10	21次	21046
33-20	WG-157	II	貼付			ミガキ		III-10	18次、波状口縁	18059

33図　第II層出土土器（2）



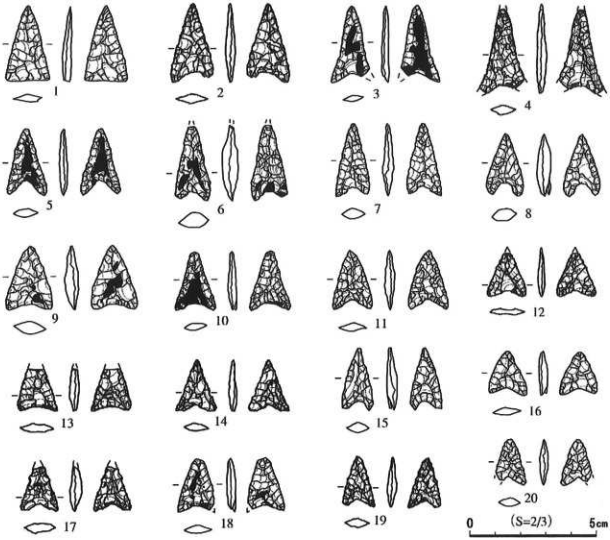
番号	遺構名	出土層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上半	外面文様 胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
34-1	WB-155	II		隆帯、橋状把手		ミガキ		III-11	24次	24032
34-2	WH-159	II	RL			ミガキ		III-11	18次	18045
34-3	WQ-156	II	LR			ミガキ		III-11	18次	18063
34-4	WH-153	II	LR			ミガキ		III-11	18次	18062
34-5	WH-155	II	LR	LR		ミガキ		III-11	18次	18070
34-6	WT-154	II	貼（刺突）、RL押			ミガキ		IV	21次	21052
34-7	WA-154	II		LR、貼（LR押）		ミガキ		IV	21次	21051
34-8	WG-155	II		RL、貼付（刺突）		ミガキ		IV	24次	24031
34-9	WT-156	II		貼（刺突）、L押		ミガキ		IV-1	18次	18029
34-10	WH-153	II	RL、沈線			ミガキ		IV	18次、波状口縁	18064
34-11	WB-152	II		刺目状沈線		ミガキ		IV	21次	21053
34-12	WH-155	II		沈線		ミガキ		IV	18次	18067
34-13	WG-156	II	沈線			ミガキ		IV-2	18次	18066
34-14	WE-160	II		沈線、LR		ミガキ		V	18次	18068
34-15	WD-160	II	口縁突起、沈線、刺突			ミガキ		V	18次、内面に沈線	18083
34-16	WD-161	II	口縁突起、沈線	羽文		ミガキ		V	8区、内面沈線、指頭押	18086
34-17	WH-154	II		(外) ヘラケズリ		ロクロ		須恵	18次、蓋、ヘラ記号?	18071
34-18	WG-154	II		(外) 押引、(内) ミガキ				須恵	18次、大甕	18072
34-19	WA-153	II		(外) 押引、(内) ミガキ				須恵	21次、大甕	21055

34図　第II層出土土器（3）



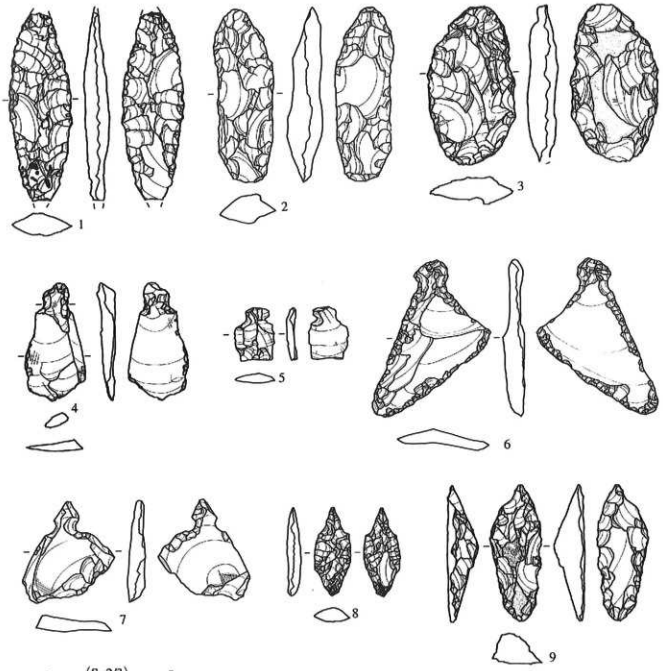
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	登録番号
35-1	ⅧI-145	Ⅱc	(33)	17	5	(1.8)	珪質頁岩	A a		24-ハク-0022
35-2	ⅧA-151	Ⅱ	(31)	16	5	(2.3)	珪質頁岩	A a		21-ハク-0014
35-3	ⅧE-161	Ⅱ	(21)	11	6	(0.9)	珪質頁岩	A a		18-ハク-0024
35-4	ⅧH-146	Ⅱc	22	11	5	0.6	珪質頁岩	A b		24-ハク-0021
35-5	ⅧG-154	Ⅱ	(29)	14	4	(1.1)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0025
35-6	ⅧJ-152	Ⅱ	(32)	15	5	(1.8)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0036
35-7	ⅧI-146	Ⅱc	39	13	6	2.0	珪質頁岩	A b		24-ハク-0024
35-8	ⅧG-157	Ⅱ	(38)	13	6	(1.8)	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	18-ハク-0028
35-9	ⅧG-157	Ⅱ	29	(19)	7	(2.3)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0027
35-10	ⅧO-157	Ⅱ	32	16	7	2.0	珪質頁岩	A b		24-ハク-0008
35-11	ⅧE-156	Ⅱ	(24)	15	5	(1.4)	珪質頁岩	A b		24-ハク-0010
35-12	ⅧH-146	Ⅱc	(31)	7	4	(1.6)	珪質頁岩	A c		24-ハク-0019
35-13	ⅧI-154	Ⅱ	32	15	8	3.2	珪質頁岩	A c		18-ハク-0032
35-14	ⅧI-146	Ⅱc	40	14	5	1.9	珪質頁岩	A c		24-ハク-0023
35-15	ⅧJ-151	Ⅱ	43	15	7	3.4	珪質頁岩	A c		21-ハク-0022
35-16	ⅧA-156	Ⅱ	29	13	6	1.3	珪質頁岩	A c		18-ハク-0023

35図　第Ⅱ層出土石器（1）



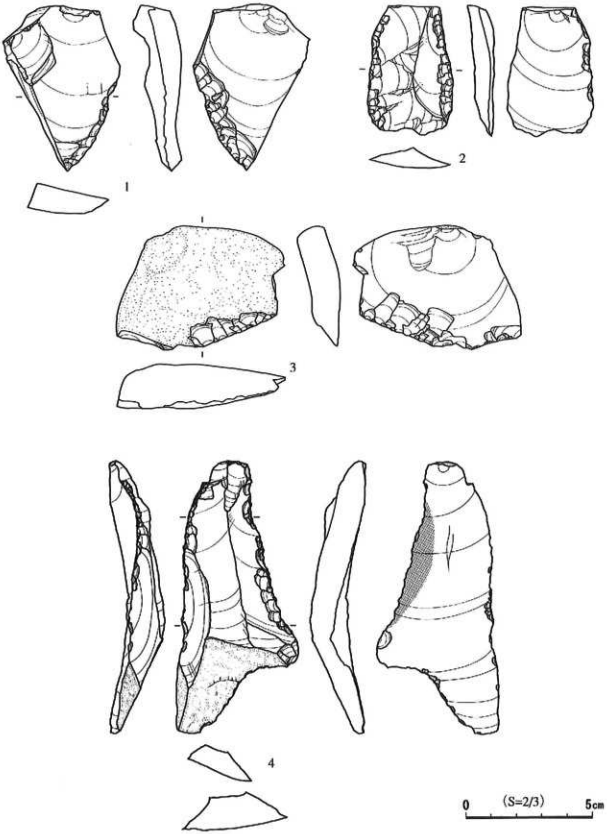
番号	出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	分類	備　考	整理番号
36-1	VIIA-152	II	30	18	4	1.3	珪質頁岩	A d		21-ハク-0015
36-2	VIIH-146	II	31	17	4	1.3	珪質頁岩	A f		24-ハク-0014
36-3	VIIC-152	II	31	(15)	3	(0.8)	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	21-ハク-0020
36-4	VIII-155	II	(33)	(19)	4	(1.4)	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	18-ハク-0033
36-5	VIIH-153	II	26	16	4	0.8	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	18-ハク-0029
36-6	VIII-153	II	(30)	15	6	(1.7)	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	18-ハク-0031
36-7	VIIG-154	II	29	13	5	1.1	珪質頁岩	A f		18-ハク-0026
36-8	VIIA-151	II	25	15	6	1.3	珪質頁岩	A f		21-ハク-0011
36-9	VIIB-151	II	25	19	6	1.7	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	21-ハク-0016
36-10	VIIT-156	II	23	16	4	0.7	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	18-ハク-0022
36-11	VIE-153	II	24	16	4	1.0	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	18-ハク-0030
36-12	VIIG-145	II	(18)	16	3	(0.5)	珪質頁岩	A f		24-ハク-0013
36-13	VIIF-148	II	(17)	16	4	(0.8)	珪質頁岩	A f		24-ハク-0011
36-14	VIIC-149	II	20	11	4	0.6	石英	A f	アスファルト付着	24-ハク-0009
36-15	VIID-152	II	24	13	4	1.0	珪質頁岩	A f		21-ハク-0021
36-16	VIEJ-151	II	18	15	3	0.7	珪質頁岩	A f		21-ハク-0023
36-17	VIII-145	II	(18)	15	5	(0.9)	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	24-ハク-0015
36-18	VIIA-151	II	(21)	(15)	3	(0.8)	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	21-ハク-0012
36-19	VIIH-146	II c	20	13	4	0.6	珪質頁岩	A f		24-ハク-0020
36-20	VIIJ-152	II	(18)	(12)	4	(0.5)	珪質頁岩	A f		18-ハク-0037

36図　第II層出土石器 (2)



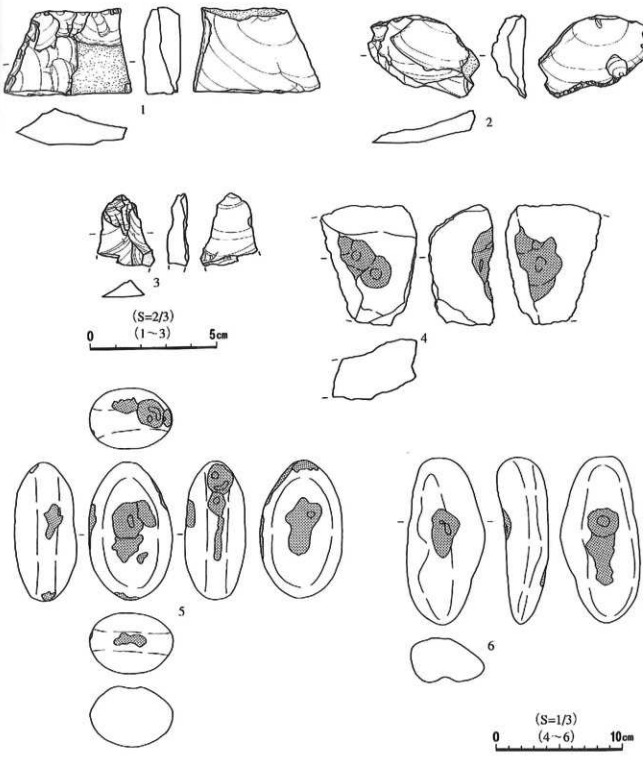
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
37-1	ⅦI-155	Ⅱ	(74)	25	10	(15.3)	珪質頁岩	Ba	アスファルト付着	18-ハク-0034
37-2	ⅦA-151	Ⅱ	69	23	14	20.8	珪質頁岩	Ba		21-ハク-0013
37-3	ⅦE-160	Ⅱ	63	35	13	23.8	珪質頁岩	Ba		18-ハク-0019
37-4	ⅦG-145	Ⅱ	47	24	7	4.8	珪質頁岩	Ca		24-ハク-0012
37-5	ⅦI-146	Ⅱa	(21)	16	4	(1.1)	黒曜石	Ca	分析番号SMAA-047（RHK）	24-ハク-0017
37-6	ⅦS-156	Ⅱ	62	48	9	9.5	珪質頁岩	Cc		18-ハク-0021
37-7	ⅦC-150	Ⅱ	39	37	7	6.2	珪質頁岩	Cc		21-ハク-0019
37-8	ⅦI-160	Ⅱ	35	15	5	2.3	珪質頁岩	Dd		18-ハク-0035
37-9	ⅦH-145	Ⅱa	54	21	13	9.7	珪質頁岩	Ga		24-ハク-0016

37図　第Ⅱ層出土石器（3）



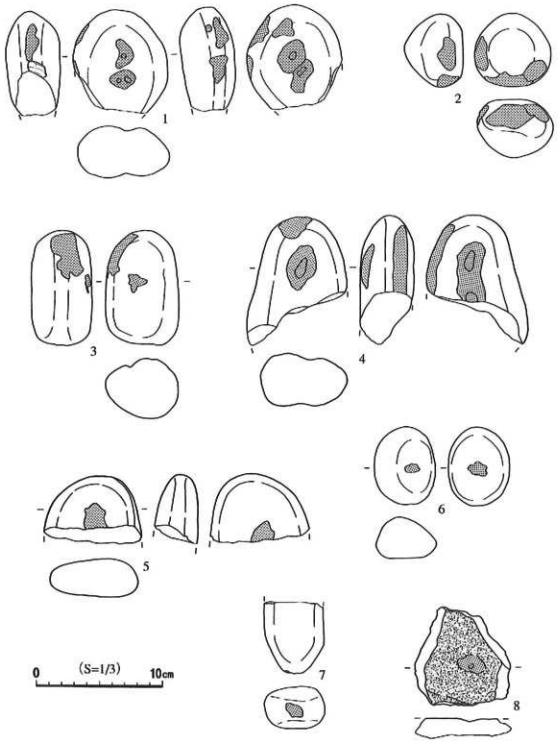
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
38-1	調A-154	Ⅱ	66	47	20	31.4	珪質頁岩	G a		21-ハタ-0030
38-2	調B-151	Ⅱ	52	34	11	17.1	珪質頁岩	G a		21-ハタ-0017
38-3	調B-152	Ⅱ	50	66	17	54.6	珪質頁岩	G a		21-ハタ-0018
38-4	調I-146	Ⅱb	108	49	23	52.6	珪質頁岩	G a		24-ハタ-0018

38図　第Ⅱ層出土石器（4）



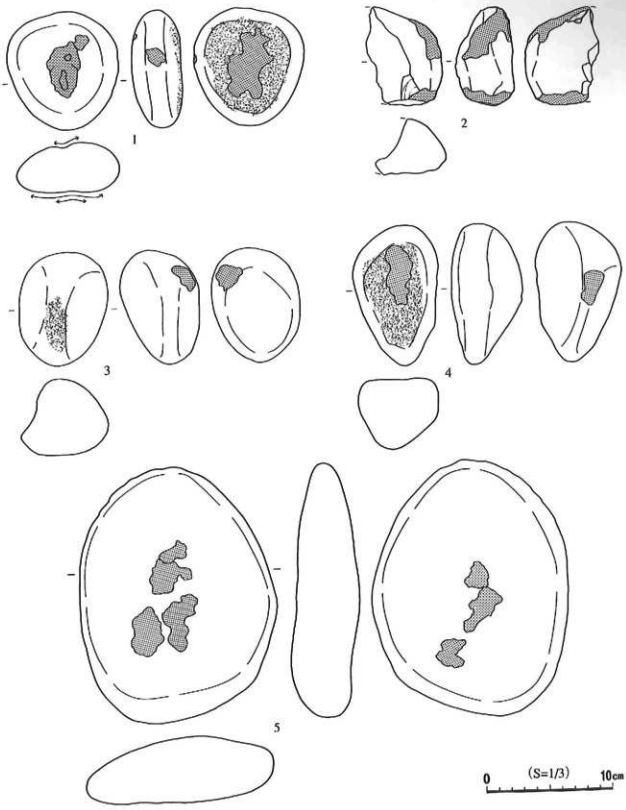
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
39-1	ⅧC-151	Ⅱ	34	50	15	27.7	珪質頁岩	Ｇｂ		21-ハク-0032
39-2	ⅧB-151	Ⅱ	33	44	4	10.9	珪質頁岩	Ｇｂ		21-ハク-0031
39-3	ⅧF-154	Ⅱ	(29)	23	8	(3.2)	黒曜石	Ｐｃ	分析番号81145（No.6）	18-レキ-0020
39-4	ⅧS-156	Ⅱ	(95)	(75)	51	(317.9)	凝灰岩	Ｉａ		18-レキ-0292
39-5	ⅧF-160	Ⅱ	109	66	48	471.0	安山岩	Ｉａ・Ｉｂ		18-レキ-0278
39-6	ⅧN-161	Ⅱ	132	63	40	383.6	安山岩	Ｉａ・Ｉｂ		18-レキ-0275

39図　第Ⅱ層出土石器（5）



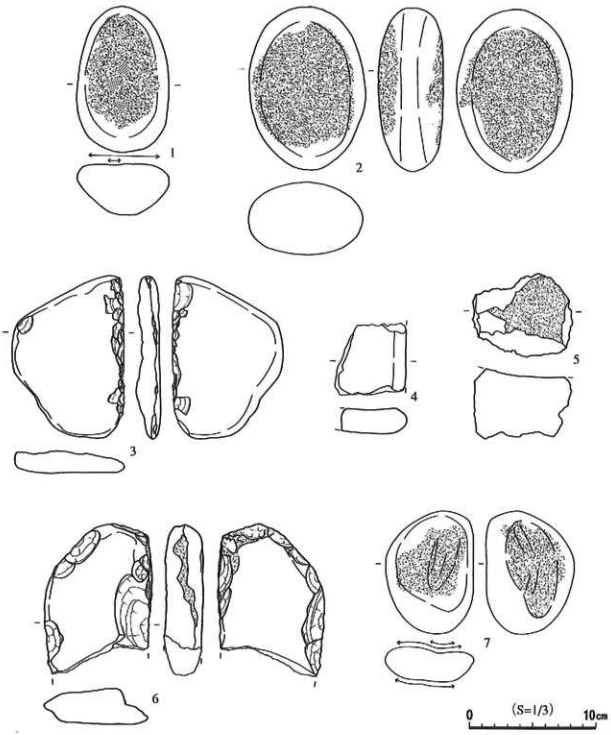
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	登理番号
40-1	調J-151	Ⅱ	(83)	75	43	(309.6)	安山岩	Ⅰa・Ⅰb		21-レキ-0430
40-2	調J-146	Ⅱb	58	60	46	218.3	安山岩	Ⅰb		24-レキ-0683
40-3	調A-150	Ⅱ	92	59	48	380.7	流紋岩	Ⅰa・Ⅰb		21-レキ-0436
40-4	調S-157	Ⅱc	(102)	(80)	(43)	(303.1)	安山岩	Ⅰa・Ⅰb		18-レキ-0280
40-5	調A-151	Ⅱ	(54)	(78)	(34)	(154.5)	安山岩	Ⅰb		21-レキ-0437
40-6	調C-151	Ⅱ	61	48	34	116.6	凝灰岩	Ⅰb		21-レキ-0439
40-7	調F-157	Ⅱ	(52)	48	33	(128.3)	凝灰岩	Ⅰb		18-レキ-0293
40-8	調D-152	Ⅱ	(78)	(76)	(18)	(83.7)	凝灰岩	Ⅰa・Ⅰc		21-レキ-0429

40図　第Ⅱ層出土石器（6）



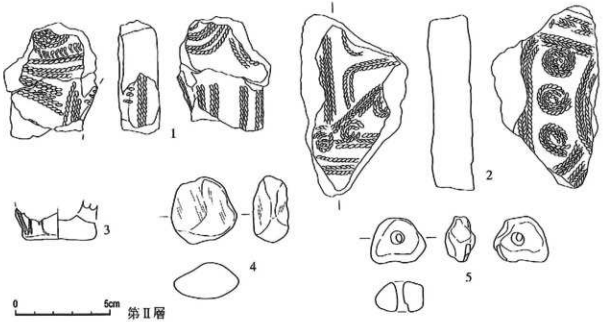
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
41-1	WN-157	Ⅱ	94	88	40	419.8	安山岩	Ⅰa・Ⅰb・Ⅰc		24-レキ-0682
41-2	WA-152	Ⅱ	(59)	(80)	(46)	(293.3)	凝灰岩	Ⅰb		21-レキ-0428
41-3	WJ-151	Ⅱ	91	70	63	519.5	安山岩	Ⅰb・Ⅰc		21-レキ-0440
41-4	WB-151	Ⅱ	111	68	57	510.7	安山岩	Ⅰb・Ⅰc		21-レキ-0438
41-5	WS-157	Ⅱ	202	155	54	1861.1	安山岩	Ⅰb・L		18-レキ-0277

41図　第Ⅱ層出土石器（7）



番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
42-1	調J-151	Ⅱ	115	74	44	456.4	流紋岩	Ⅰb・Ⅰc		21-レキ-0441
42-2	調R-156	Ⅱ	129	93	52	993.3	珪　岩	Ⅰc		18-レキ-0276
42-3	調A-150	Ⅱ	88	129	19	221.3	流紋岩	Q		21-レキ-0426
42-4	調I-152	Ⅱ	(57)	(57)	21	(76.0)	安山岩	L		18-レキ-0279
42-5	調I-146	Ⅱ	66	80	60	(282.3)	凝灰岩	L		24-レキ-0681
42-6	調A-150	Ⅱ	(120)	85	31	(426.1)	安山岩	Q		21-レキ-0425
42-7	調I-146	Ⅱc	93	70	28	171.0	凝灰質砂岩	S		24-レキ-0644

42図　第Ⅱ層出土石器（8）



番号	出土地点	層位	計測値（cm）			文様		種類	備考	整理番号
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面			
43-1	ⅦA-150	Ⅱ	(65)	(50)	(22)	R押、刺突	R押	土鈴	21次、胴部	10830・10832
43-2	ⅦA-150	Ⅱ	(97)	(57)	(23)	L・R押	L・R押	土鈴	21次、胴部	10831

番号	出土地点	出土層位	外面文様		内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
43-3	ⅦA-150	Ⅱ		条痕		無文	ミニチュア	21次、炭化物付着（内面）	8184

番号	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	表面	裏面	種別	備考	整理番号
43-4	ⅦH-146	Ⅱc	35	34	20	15.3	無文	無文	焼成粘土塊	24次、漆状	8294

番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
43-5	ⅦB-149	Ⅱ	25	29	16	2.0	軽石	石製垂飾品	24次、有孔	8201

43図　第Ⅱ層出土土製品・石製品

(3) 第Ⅰ層の出土遺物

①土器（44図）

1はⅢ群2類、2～4はⅢ群4類の破片である。5は、貼付帯による曲線モチーフ文様がみとめられるⅢ群10類の破片である。7もⅢ群10類に分類したもので、撚糸圧痕による区画内に縄文または刺突列が充填される。9は底面に網代痕が残るⅢ群11類である。

10・11は磨消縄文を文様とする破片である。沈線区画内に節の細かい斜縄文が充填されるもので、ともにⅣ群1類である。

14・15はⅤ群に分類した晩期中葉の口縁部破片である。

②石器（45～48図）

剥片石器は登録した205点の中から石鏃、石槍、石錐、不定形石器、石核類、磨製石斧を29点図示した。また図示は行っていないが、敲製石斧、ピエス・エスキーユ、剥片が出土している。石鏃は18点図示した。有茎T基は5点で、刃部が直線的で外側への膨らみを持たないもの（45図1～3、5）と、刃部が湾曲し、茎を作出する際の抉りより外側に膨らむもの（45図4）がある。45図3は平面形が正三角形に近く、抉りが大きい。45図4は他と比較して大型の部類に入る。有茎Y基で図示したのは膨らみを持たないもの（45図6～10、12、13、15）と抉りより外側に膨らむもの（45図11、14、46図1）である。凹基は小型で正三角形に近いもの（46図2）のみ図示した。46図3は基部が欠損しているため詳細は不明であるが、円基か有茎Y基の可能性が考えられる。石槍は1点（46図5）で無茎である。石錐は1点（46図4）で、摘みはわずかに作出されるが小型である。尖端部に使用による光沢が確認できる。不定形石器はスクレイパー類2点（46図8、9）、R.フレイク2点（46図10、11）を図示した。石核類は3点図示した。石核（47図1）は3方向からの打撃が行われている。その内1箇所は複数回垂直方向に振り下ろして叩かれた状況であるため、利器として使用された可能性がある。黒曜石製の剥片2点は原材産地分析（杉原2006）を行い、46図6が青森県西青森系鹿森山産、46図7が青森県岩木山系という結果を得た。磨製石斧は大型の破片1点（48図1）で、表面の剥離が著しい。

③土製品・石製品（49図）

第Ⅰ層及び風倒木から出土したものを一括した。土偶2点、石製垂飾品の未製品1点、不明石製品2点が出土している。

1は土偶胴部片である。表面は中心および外形を縁取るような縦位の沈線と、胴部と脚部を区分する弧状の沈線が施文される。裏面は脚部に横位の沈線が密に施される。胴部中心には縦位の貫通孔を有する。破断面からは、粘土を2枚折り重ねた痕跡が観察される。胎土には、赤褐色の粒を微量混入する。4は土偶右腕部とみられる。腕部は幅約10cmを測り、かなり大型の土偶であったと考えられる。表裏面と肩部に幅広の浅い沈線による文様が施文される。胎土に赤褐色粒の混入が目立つ。

2は長方体状のシルト岩の小礫である。やや摩滅気味である。両側縁が磨かれ、表裏面に穿孔しようとした窪みが認められる。石製垂飾の未製品とみられる。3は上方がやや狭い楕円形状の石製品である。表面は、側縁付近の擦りにより、全体的に丸みを帯びるように加工されている。裏面は平

坦であるが、下端付近と片側側縁付近で擦りによる丸みがある。厚さは上端が最も薄く、下部中央付近で最も厚みがある。下端および両側面には平坦面が見られ、器面全体に著しい擦痕がみられる。垂飾の未製品の可能性も考えられる。

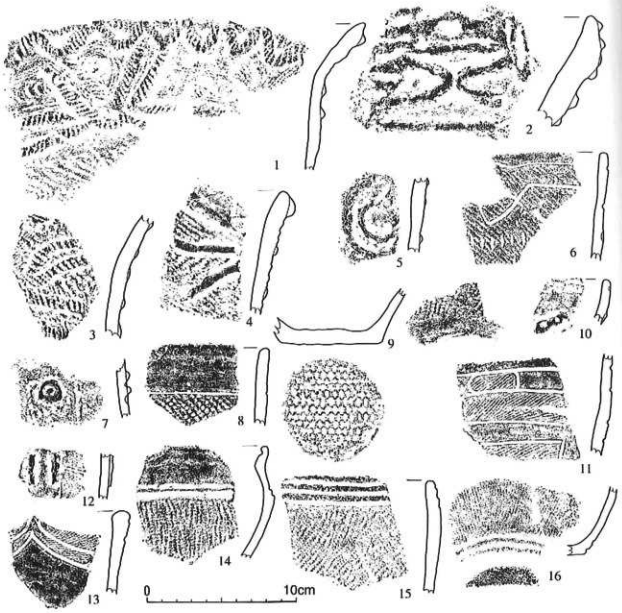
近世以降の出土遺物（写真23）

第Ⅰ層を中心に、近世以降の陶磁器30点、キセル 1 点、古銭 2 点が出土している。出土層位は、第Ⅱ層出上のものも一定数出上している。調査区内の第Ⅰ～Ⅲ層までの層厚が薄いこと、撹乱を受けている場所があったこと、層毎に掘り下げていく中で、部分的に層位の見誤りが生じてしまったことなどが原因として考えられる。これらのことから本項では、近世以降の出土遺物を一括して扱うこととした。

陶磁器及びキセルについては、実測図を掲載せず、写真のみの掲載とした。古銭は寛永通宝とみられるが、鉄サビが付着し残存状況が良くないため掲載しなかった。掲載遺物の詳細については、以下の観察表と写真23を参照されたい。

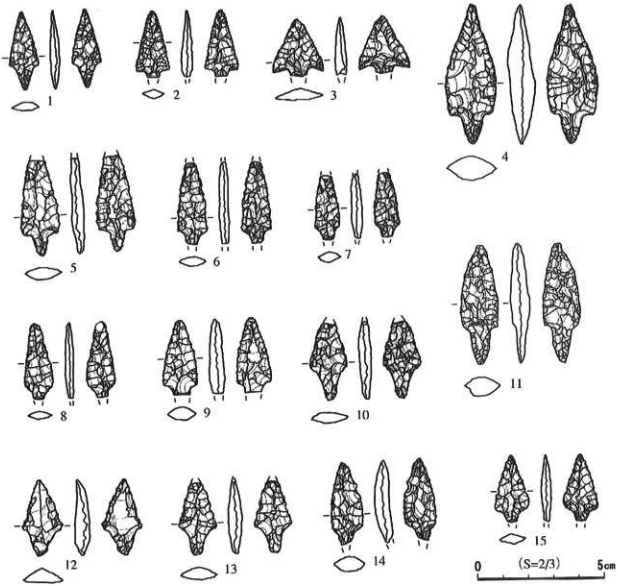
陶磁器・煙管観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	時期	備考	整理番号
23-1	ⅦN-159	Ⅰ表土	陶器	皿	肥前Ⅳ	24末、内野山窯産	004
23-2	ⅦA-155	Ⅱ	陶器	皿	肥前Ⅳ	21末、内野山窯産	005
23-3	ⅦA-151	Ⅰ	陶器	大皿	肥前Ⅳ	21末	006
23-4	ⅦG-145	ｶｸﾗﾝ	陶器	碗	19Cか？	24末、上半部灰釉、下半部鉄釉	001
23-5	ⅦA-151	Ⅱ	陶器	壺	18Cか？	21末、内面明ヨ日、肥前か？	002
23-6	ⅦE-147	Ⅰ	陶器	施釉	肥前Ⅳ	24末、二次的な被熱、上下不明	007
23-7	ⅦF-156	Ⅰ	陶器	端反	肥前Ⅳ	18末	003
23-8	ⅦF-156	Ⅱ	磁器	皿	肥前Ⅲ～Ⅳ	18末	012
23-9	ⅦG-145	Ⅰ	磁器	皿	肥前Ⅳ	24末、内面菊花文	010
23-10	ⅦN-157	Ⅰ	磁器	皿	肥前Ⅳ	24末、内底面コンニャク印判（5弁花文）	011
23-11	ⅦL-159	Ⅰ	磁器	皿	肥前Ⅳ	18末、内底面絵ノ目積痕ヨ、外底面蛇胎	013
23-12	ⅦN-157	Ⅰ	磁器	皿	肥前Ⅳ	24末、外面唐草文、内面七宝文	016
23-13	ⅦT-154	Ⅱ	磁器	瓶	肥前Ⅳ	21末	020
23-14	ⅦN-155	Ⅱ	磁器	皿	肥前Ⅳ	24末、内面唐草文	022
23-15	ⅦB-153	Ⅰ	磁器	碗	肥前Ⅲ～Ⅳ	21末、一重圏目文	021
23-16	ⅦN-159	Ⅰ	磁器	碗	肥前系	24末、雪花イラシ文、貫入あり、18C後葉～19C前葉	015
23-17	ⅦG-157	Ⅱ	磁器	碗	19C	18末、山水文	018
23-18	ⅦN-159	1表土	磁器	施釉	肥前Ⅳ	24末、外面コンニャク印判、上下不明	014
23-19	ⅦA-150	Ⅱ	煙管			21末、吸口部分、銅製、テラ（？）残存	



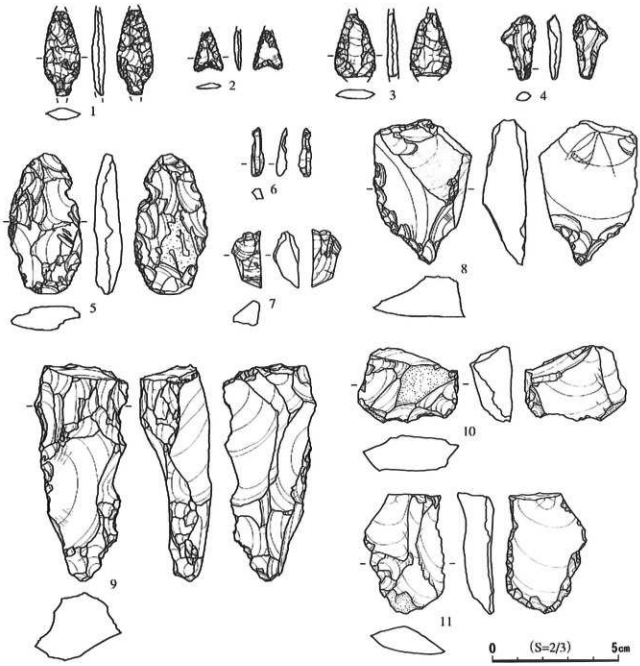
番号	出撃名	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	摘要	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
44-1	VIIF-145	I	貼（上押）、L押	結束I（LR、RL）		ミガキ		III-2	24次	24035
44-2	VIIF-143	I	貼付、突起（貼付）			ミガキ		III-4	24次	24036
44-3	VIIF-143	I		結束I（LR、RL）、貼（上押）		ミガキ		III-4	24次	24037
44-4	VIIH-159	I	貼付	結束I（LR,RL）、貼付		ミガキ		III-4	18次、波状口縁	18073
44-5	VIIP-163	I		貼付		ミガキ		III-8	18次	18074
44-6	VIIE-160	I	L、沈線			ミガキ		III-10	18次	18076
44-7	VIIH-155	I		L押、貼付、刺突		ミガキ		III-10	24次	24038
44-8	VIIJ-155	I		沈線、LR		ミガキ		III-10	18次	18075
44-9	VIIG-159	I			RL	ミガキ	網代痕	III-11	18次	18079
44-10	VIID-160	I	貼付（刺突）、刺突			ミガキ		IV-1	18次	18078
44-11	VIII-153	I		LR、沈線		ミガキ		IV-1	18次	18082
44-12	VIIO-161	I		除沈線		ミガキ		IV	24次	24039
44-13	VIII-153	I	LR、沈線			ミガキ		IV-1	18次、波状口縁	18080
44-14	VIID-160	I	無文	沈線、RL		ミガキ		V	18次、竪穴住居、方形土坑	18085
44-15	VIIG-160	I	沈線	LR		ミガキ		V	18次、炭（外周）	18084
44-16	VIIJ-150	I		LR	LR、沈線	ミガキ		V	21次	21054

44図　第Ⅰ層出土土器



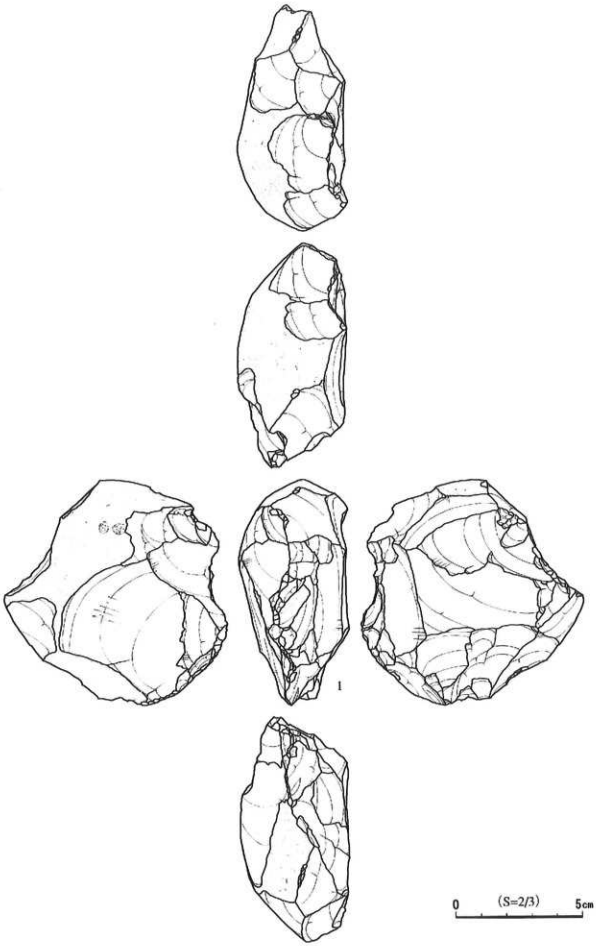
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
45-1	調I-146	I	31	11	4	0.9	珪質頁岩	A a		24-ハク-0039
45-2	調E-148	I	(26)	13	5	(1.1)	珪質頁岩	A a		24-ハク-0032
45-3	調E-147	I	(23)	21	5	(1.4)	珪質頁岩	A a		24-ハク-0029
45-4	調F-147	I	55	20	11	8.3	珪質頁岩	A a		24-ハク-0034
45-5	調H-143	I	(38)	16	5	(2.7)	珪質頁岩	A a		24-ハク-0038
45-6	調F-151	表面採集	(33)	12	4	(1.3)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0011
45-7	調D-150	I	(26)	10	5	(1.0)	珪質頁岩	A b		24-ハク-0026
45-8	調I-154	I	(30)	11	4	(1.0)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0018
45-9	調J-149	I	(30)	14	7	(2.0)	珪質頁岩	A b		21-ハク-0024
45-10	調D-149	I	(31)	15	5	(1.7)	珪質頁岩	A b		24-ハク-0028
45-11	調G-155	I	47	15	8	3.9	珪質頁岩	A b		18-ハク-0015
45-12	調S-161	I	30	16	6	1.9	珪質頁岩	A b	風倒木	18-ハク-0009
45-13	調F-159	I	(33)	15	5	(1.6)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0014
45-14	調E-147	I	(32)	13	7	(2.5)	珪質頁岩	A b		24-ハク-0031
45-15	調H-154	I	(26)	14	4	(1.0)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0016

45図　第Ⅰ層出土石器（1）



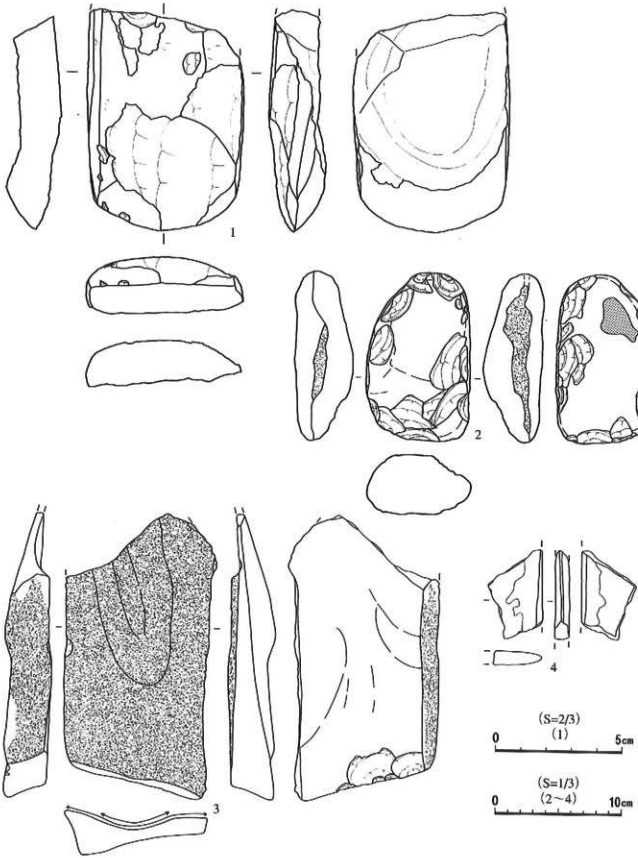
番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
46-1	Ⅶ I-154	I	(33)	14	5	(2.2)	珪質頁岩	A b		18-ハク-0017
46-2	Ⅶ C-149	I	(16)	12	3	(0.3)	珪質頁岩	A f		24-ハク-0027
46-3	Ⅶ E-147	I	(25)	16	5	(1.9)	珪質頁岩	A		24-ハク-0030
46-4	Ⅶ G-143	I	25	14	6	1.6	珪質頁岩	D b		24-ハク-0036
46-5	Ⅶ G-143	I	55	23	11	9.6	珪質頁岩	B a		24-ハク-0037
46-6	Ⅶ H-155	I	19	5	4	0.3	黒曜石	P c	原石番号SMA1-042（967）	18-ハク-0012
46-7	Ⅶ S-157	I	23	12	10	2.2	黒曜石	P c	原石番号SMA1-041（960）	18-ハク-0013
46-8	Ⅶ N-154	I	57	40	18	34.8	珪質頁岩	G a		24-ハク-0025
46-9	Ⅶ G-143	I	86	37	28	65.0	珪質頁岩	G a		24-ハク-0035
46-10	Ⅶ K-149	I	30	40	17	19.1	珪質頁岩	G b		21-ハク-0034
46-11	Ⅶ J-150	I	48	32	15	16.0	珪質頁岩	G b		21-ハク-0033

46図　第Ⅰ層出土石器（2）



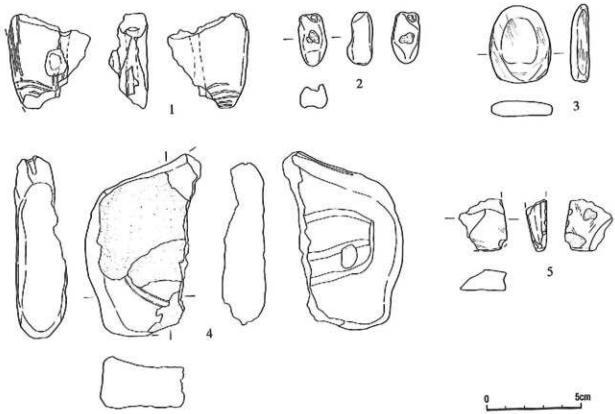
番号	出土地点	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石質	分類	備　考	整理番号
47-1	調D-148	I	44	90	89	319.5	珪質頁岩	P a		24-ハク-0044

47図　第Ⅰ層出土石器（3）



番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
48-1	ⅧF-145	Ⅰ	(88)	63	23	(175.8)	緑色片岩	Ⅱa	両刃	24-ハケ-0033
48-2	ⅧI-157	Ⅰ	83	134	47	691.0	安山岩	Ⅰ・Ⅰb		21-レキ-0435
48-3		表面採集	(226)	(120)	37	(849.4)	砂　岩	S		21-レキ-0420
48-4	ⅧH-143	Ⅰ	(70)	(44)	11	(44.6)	凝灰岩	V		24-レキ-0679

48図　第Ⅰ層出土石器（4）



番号	出土地点	層位	計測値（mm）			文様		種類	備考	整理番号
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面			
49-1	調G-143	1	(50)	(43)	(19)	沈線		土製	24次、取部、中心に貫通孔	10851
49-4	調G-157	1	(97)	(62)	(27)	沈線	沈線	土製	18次、鏡部	10732

番号	出土地点	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石質	分類	備考	整理番号
49-2	調H-146	1	28	16	14	6.8	シルト	石製品未製品	24次、穿孔途中	8148
49-3	調E-138	風倒木	41	32	11	17.0	百岩	不明石製品	18次	8145
49-5	調G-143	1	(28)	(25)	(11)	(5.9)	アイサイト	不明石製品	24次	8293

49図　第Ⅰ層出土土製品・石製品

第６節　平成６年度の試掘調査

平成６年度の試掘調査は、テニスコート建設予定地の調査として、平成６年９月１日から同年12月19日まで、旧野球場調査区南西側の段丘上と斜面で実施した。調査主体は青森県埋蔵文化財調査センターで、調査面積は722㎡である。

調査は幅４mのトレンチを、グリッドラインに沿って設定し、遺構面まで掘り下げる手法をとった。トレンチ内で、竪穴住居跡、土坑、埋設土器遺構、柱穴、溝跡を確認した。また、盛土遺構（西盛土）を確認した部分では、トレンチ幅を１mに狭め調査を行った。

遺物は縄文時代の土器や石器などで、平箱（トロール函）にして271（土器154・石器96・土製品等１）箱分出土した。大部分は盛土遺構の出土遺物である。土器と石器は多数出土しているが、試掘調査であることから、概要が把握できる程度に掲載する遺物を選択した。土製品・石製品は大部分を掲載した。

西盛土遺構はⅦQ～ⅦS・ⅦG－130、ⅦT－125～135・146～149、ⅦC～J－139、ⅦD－140～146、ⅦF－127～138のトレンチ内で確認した。ⅦA～J－139は最下層まで、他は上位層まで掘削行った。

ⅦE・F－139では最高１m78cmの堆積が認められ、28層に分層した。Ⅲ－１～４層までは基本層序第Ⅶ層のローム土主体の褐色～暗褐色土で、円筒上層ｄ式土器の破片が少量含まれる。以下Ⅲ－19層までの層では、多量の円筒上層ｂ式土器が認められた。Ⅲ－15～22層は層界が画然としており、炭化物と円筒上層ａ式土器・円筒下層ｄ2式土器を多く包含する。炭化物、土器片、ローム土が互層となる点など、旧野球場建設予定地内の南盛土に似た印象がある。盛土遺構の直下には、基本層序第Ⅳ層の堆積が認められた。また、東側のⅦT－146～149は第Ⅵ層土を中心とする包含層が主体で、他と堆積の様相が異なる。

遺構内では多くの土器埋設遺構の重複が認められ、特にⅦF－136・137で顕著である。縁辺に当たるⅦH～J－139、ⅦT－146、ⅦF－129では縄文時代中期の竪穴住居跡と重複していた。ⅦH～J－139の傾斜部では、盛土遺構の包含層縁辺と基本層序第Ⅵ・Ⅶ層が水平に面を揃えており、縄文時代中期に何らかの掘削が行われていたことが想定される。

堆積時期は確認地点で相違が認められる。ⅦC～E－139では円筒上層ａ式に堆積が始まり、円筒上層d式期が最上層となる。ⅦF－139以西は榎林期まで堆積が続いている。ⅦF－127～138、ⅦT－146～149でも、円筒上層ｄ式期の層が最上層である。

ⅦQ～ⅦS・ⅦG－130、ⅦT－125～135は円筒上層ｄ式期からの堆積が認められ、ⅦT－133・134では榎林期・最花式期、それ以北では最花式期・大木10式期の包含層が優勢となる。

出土遺物では、Ⅱ群５類１・２、Ⅲ群１～11類の土器が大量に出土した。特にⅢ群１類は、比較的まとまった個体で出土する傾向が強い。石器・土製品ともに出土量が多い。

(1) 第Ⅲ層の出土遺物

①土器

第Ⅱ群土器（50～56図）

50図1・5・10・12は5類1に分類される土器である。1・5・12は口縁部文様に撚糸圧痕が、10は横位の絡条体施文がなされている。

50図2～4・6～9・11・13～51図14・15～17、52図1～5は5類2に分類される土器である。口縁部文様帯には一段の縄（51図4・6・14）、2段の縄（50図3・6・9・11・15～51図3・5・7～11・16、52図1・2）、単軸絡条体1類（50図2・11・13・14、51図12・17、52図5）の押圧によって平行線文が施され、撚糸圧痕による連続短線文（50図15、51図7・13）、棒状工具（50図14、51図4・6・16・17）、半切竹管状工具（51図2・8・9、52図2）による連続刺突文が充填されるものがある。

50図3、51図5・89・11～14・17、52図2・5は貼付が施される口縁部破片である。逆T字（50図3、51図8）、H字（51図9）、ボタン状貼付で連結されるL字形（51図13・15、52図2）のモチーフがとられる。

胴部文様には結束第1種による羽状または非羽状縄文（50図7・13・15、51図10・12）が施される。50図9・14、52図2は胴部縄文に結束第2種が、50図6・8・11は縦位の単軸絡条体が、50図4は縦位の羽状縄文が施文された例である。50図6は台付鉢形、8は低めの器台が付く底部である。

本類の色調は明褐色が多いが、51図7・17、52図5は暗灰色で、焼成も堅緻であり異質である。52図3はくの字に屈曲する口縁部に、半裁竹管の割面側によって密に施文されており、北陸地方の影響が認められる。

第Ⅲ群土器（51図18、52図6～56図37）

51図18、52図6～9・11～53図5・9は1類に分類される土器である。多くは波状口縁で、波頂部はM字（52図9・12・14、53図1・5）、山形（52図11、53図9）、台形（51図18、52図6・8・13・16、53図2～4）の3種が存在する。貼付帯は口唇と口縁部区画のほか、波頂部から垂下して両者を連結する位置にも施される。波頂部から垂下する貼付はⅡ形（51図18、52図13、53図1・4）、X字状（52図9、53図5）、V字状（52図8、53図2）、C字状（53図9）、U字状（52図6）、波状（52図11・15）、Y字・逆Y字状（52図12・14）の各種がある。区画貼付帯の直下には、52図6、53図5では半円状の、52図14ではY字形の貼付が施されている。口縁部文様帯には平行線文のほか、鋸歯状（52図5・6・9・12・15、53図1～3）、連続短線または馬蹄形（51図18、52図7・8・11・13・14、53図4・5・9）の撚糸圧痕が施される。胴部文様には横位の結束第1種による羽状縄文が多数で、ほかに非羽状の結束第1種（52図8）、結束第2種（52図7）、端部に結節を伴う単節縄文（52図9・14、53図3）が認められる。結束第1・2種による回転施文には、端部の結縛が明瞭となるものがある（51図18、52図9、53図1・9）。53図9は、釣り糸結びで言うところの外掛け結びと同様の結縛痕が認められる。

52図10、53図6・7・10は2類に分類される土器である。口縁部文様帯内が貼付によって細かく区画され、内部に馬蹄形圧痕文が施される。胴部には横位の結束第1種が施される。52図10の胴部

の結束第1種端部には、内掛け結びと思われる結縛が認められる。

53図11・13～54図6・8は、口縁部文様に刺突列が用いられる3類土器である。口縁形状は平縁（54図2・3）以外に、M字（54図1・8）、台形（53図13、54図4・6）の突起が付く波状口縁が存在する。口唇部の貼付は1・2類同様で、他には波状（54図3・6）に施されるものがある。口縁部文様帯内は、直線状または連弧状の貼付によって上下二段以上に区画される例（53図14、54図1・3・6・8）が多い。区画内の刺突列には、角棒状の工具によるものが多く、他にヘラ状（53図11、54図3）が用いられる。54図6は、刺突に加えて沈線が施される例である。胴部地文は、確認できる例では全て結束第1種の横位によるものである。

54図7・9～11・13～55図2は4類に分類される土器である。口縁形状は平口縁（54図10・11）のほか、山形（54図13～55図1）、叉状（55図2）の突起が付く波状口縁が存在する。胴部上半の貼付文様は弧状以外に環状（54図11・13、55図1・2）形成することが多い。また、本類の貼付には素文のもの（54図10・11・13・15、55図2）が多く含まれる。地文には結束第1種以外に単節斜縄文が施される。54図10・11、55図1・2は地文施文後に、54図6・13は無文地に貼付が施されている。

55図3～7・9・10は5類に分類される土器である。

53図8・12、54図12、55図8・11～16・18～21は文様が主に地文のみ、または無文の一群で、6類に分類される土器である。器形は深鉢のほか、浅鉢（55図13）、台付（55図11・12・19）が含まれる。

56図1～10は8類に分類される破片である。口縁部は多くの例で膨隆・無文化し、太い沈線が巡る。単節・複節縄文上に沈線文様が施される。9は地文に単軸絡条体1類が用いられた例である。

56図11・12・14～25は9類に分類される破片である。11・12は口縁が折り返し状となる深鉢、18～21は、口縁が無文の広口壷器形となる破片である。胴部沈線文様の全体が把握できる例に乏しいが、逆U字または卵形文（12）、垂下する三本組沈線文（18）、ヒモチーフ（20・21・25）、蕨手状文（22）などが認められる。56図23は隆沈線文の口縁破片である。

56図13・26～33は10類に分類される破片である。26～29はいわゆる磨消縄文を主文様とするもの、30～33は地文縄文の沈線文が施されるものである。

56図34～36は11類に分類される土器である。56図34は単節斜縄文のみ、56図35は櫛歯状工具による平行細沈線の施文のみ認められる破片である。36は橋状把手を持つ破片で、壷形土器の頸部と思われる。

②石器

剥片石器（57・58図）

石鏃、石匙、石篦、石錐、異形石器、スクレイパー類、U.フレイク、磨製石斧を27点図示した。石鏃は10点図示した。内訳は有茎T基が1点（57図1）、有茎Y基が7点（57図2～8）、凹基は2点（57図9、10）である。茎部に矢柄と装着するために付けられたと考えられるアスファルト状の黒色物質が付着しているものは5点（57図2、3、5、9、10）ある。石匙は3点図示し、縦型（57図12、13）と斜型（57図11）に分類できる。いずれも主要剥離面の一側縁に、使用によって形成

されたと思われる光沢が確認された。石錐は２点（58図１、２）で、58図２は石鏃の再利用品である。基部にはアスファルト状の黒色物質が付着しており、尖端部には使用によって形成されたと思われる光沢が確認できた。石篦は１点（57図14）図示した。使用によって形成されたと思われる光沢が確認できた。不定形石器はスクレイパー類４点（58図３～６）、U.フレイク２点（58図７、９）を図示した。黒曜石のU.フレイク２点は原材産地分析（藁科2005）を行い、58図7が北海道赤井川産、58図９が青森県出来島・鶴ヶ坂産という結果を得た。異形石器は２点（58図８、10）図示した。58図８は三日月状に湾曲するが左右非対称であり、２箇所ある突起の片側は非常に小さい。磨製石斧は３点（58図11～13）図示した。いずれも小型の部類に入る。

礫石器（59図）

石器は、15点図示した。図示資料の抽出については、特徴的なものを中心とし、その他これまでに多く出土している一般的な礫石器は大幅に割愛した。

59図３、４は半円状扁平打製石器に分類される。３は表裏面を磨っており、薄手のつくりであることなどから、形態的には抉入扁平磨製石器に近い属性を含むものであるが、いずれにしてもこれら２点は礫を素材とした定形的な礫石器の中に属すものである。59図１などは、大きさや側縁に形成された磨痕などをみると、抉入扁平磨製石器や半円状扁平打製石器、石冠などに共通する属性を有しているものの、形態的には定形的な礫石器にはほど遠く、分類上はⅠ類ｂ・Ⅰ類ｃとした。59図５、６、８はQ類「その他」としたが、これらも属性単位でみると注意すべき内容を有している。５は、長楕円礫の側縁に、刃部状の抉りがみられるもので、６は、５と同様に長楕円礫を素材とし、その側縁には磨痕が形成されている。一方、８は、扁平な楕円形礫の長軸両端が打ち欠かれ、石錘のような形状を示しているが、側縁には、刃部の作出がみられる。

これら５、６、８は、59図１と同様、半円状扁平打製石器や石錘などの定形的な礫石器には含められないものの、定形的な礫石器がもつ属性を部分的に有しており、近縁関係がうかがわれる。

ところで、56図１は実に持ち味が良く、磨る作業に適した形態のものであり、５や６も手に良くフィットする。これら１、５、６をみると、完全に扁平であるよりも、持つ部分にある程度の膨らみがあった方が作業の面では持ち易く（手が疲れず）、使いやすかったのではないかと推察される。膨らみがあるということは、扁平なものよりも重量が増すことであるが、石器の一部を石皿などの「磨られるもの」の上に置き、水平方向に移動させる用途であれば、重量面での負荷が軽減され、作業には適したかも知れない。一方、手持ちのままで何にも置くことなく、長時間作業する道具である場合、重量の面から考えると膨らみをもつものはあまり好ましいとは言えない。しかし、対象物の硬さや形状によっては、この重量が効果を発する場合もある。59図５は517ｇという重量であり、手持ちの敲打用の礫としては決して軽くないものであるが、刃部状の抉り部には敲きに用いられたかのような痕跡がみられることから、硬いものの一部を敲打する際に用いられたと考えられる。このような見方からすると、517ｇという重量を有す５は、膨らみが手にフィットすること自体、とても重要な属性であった可能性がある。

このような礫石器の機能を推定する上で、重量と形状との相関関係について今後、考察を深めることにより、Ⅰ類についてはいろいろな見方・解釈が成立する可能性がある。ただし、有機物と組

み合わされて使用された可能性についても常に考えておく必要がある。

59図２、66図５、６は、最終的に敲く道具として利用されたもので、その素材は元来、磨製石斧である。分類表記はⅠ類ｂ・Ⅱ類ａとした。２は、上下端と片面のほぼ中央に敲打痕が残る。小型ながらも敲く道具としてそれなりの硬度を持つことから、大きく振りかざすような敲く動作に用いられたとみるより、割と小さなものを連続的に敲くような作業時に効果的であった可能性をうかがわせる。このような、磨製石斧を敲く道具として再利用しているものはこれまでにもいくつか出土していることから、遺跡全体の中における磨製石斧の破片類を見直すことで、磨製石斧の再利用の実態はより具体的に見えてくるものと思われる。

③土製品・石製品（60図～61図）

土製品では土偶、ミニチュア土器、円盤状土製品、石斧形土製品、土冠、石製品では垂飾品及び未製品とみられるもの、有孔石製品の未製品とみられるもの、大珠未製品とみられるもの、石製容器とみられるものが出土している。ⅦT－125～133とⅦC～ⅧI－133～143の２地点から集中的に出土している。

60図１～61図６は土偶である。60図１・２・４は短刻線と細沈線による文様が施文されるものである。表裏面・側面とも細かく密に文様が施される。５は頭部片で、平面的な顔部に粘土紐の貼付けで眉～鼻を、眉間や目を細い沈線で表現している。頭部と耳部にはそれぞれ貫通孔を有する。

３・６～15・17は原体の押圧による文様が施文されるものである。破片の部位・大きさ・厚さなどからみて、大型の土偶が多い。文様は２～３条の直線状の押圧を基本とし、これに馬蹄形状の押圧が付加されるもの（７）、渦巻き状の押圧が付加されるもの（３・９・13）がある。直線状の押圧にも、RとLを交互に組み合わせるもの（７・８・12・17）と、同一の原体を組み合わせるものとがみられる。背面の中央には、凹線があるもの（９・10）と原体の押圧のあるもの（６・12）がみられる。３・８は側面の表面側が肥厚し、横位に原体が押圧されている。６は頭部片である。逆三角形の顔部を貼り付け、更に貼付によって眉と鼻が表現されるが、その上面に原体の押圧はない。口は穿孔で表現されるが、貫通していない。頭頂部にも粘土紐が貼付けられ、短い沈線で刻みを入れて髪型を表現している。目や耳の表現がなく、５より後出の印象である。胎土には砂粒が多く、焼土粒も混入する。破断面からは、芯となる粘土の周りに粘土を巻き付けて成形した痕跡が観察される。11は腕部片で、胴部との接合面で剥落している。12は頭～胴部片で、口は浅い凹みで表現されている。胎土には砂粒が多量に混入する。15は胴部片で、中心に縦位の貫通孔を有する。砂粒が多く混入する胎土である。17はやや小型の土偶の脚部片である。背面は無文としたが、浅い途切れがちの沈線とそれを消す様なナデが見られる。破断面は部分的に平坦で、一部擦りが観察される。胎土には繊維が混入する。14・18は角棒状の刺突による文様が施文されるものである。14は脚部とみられるが、腕部片の可能性もある。外形を縁取るような刺突列と、内部に十字の刺突列が施される。破断面からは粘土板を２枚重ねた痕跡が観察され、裏面はこの重ね合わせた部分から剥落している。胎土には繊維が混入し、砂粒の混入も認められる。18は腕部片である。表裏面とも刺突が施され、胴部との接合面で剥落している。胎土に砂粒が多く混入する。16は脚部とみられる。表面に刺突がみられるが、文様の構成は不明である。中央に貫通孔を有する。

61図 1 ～ 5 は沈線による文様が施文されるもの、 6 は無文のものである。中・小型の土偶が主体的である。幅の太い工具で浅く雑に文様を描いているものが目立つ。 1 の脚部表面には下書きのような細い沈線と、それを消すようなナデが観察できる。 2 は頭部と左腕を欠損するもので、残存長は5.8cmという小型の土偶である。脚部から0.5cmの穿孔を有する。胸とヘソを表現する粘土粒は押しつけただけという印象で、ヘソは沈線施文後の貼付けである。

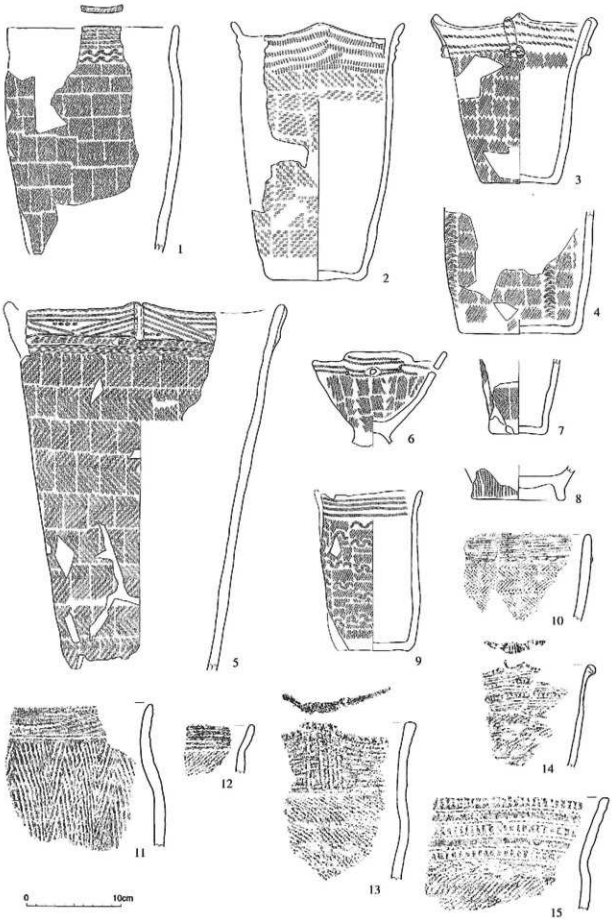
61図 7 ～15はミニチュア土器である。 9 は底径4.2cmの底部片で、器壁がほぼ直立する器形と推測される。底面はやや上げ底で、板目痕が見られる。胎土には赤褐色粒と砂粒の混入が認められる。11は底径 2 cmで、内湾しながら立ち上がる器形と考えられ、底部には低い台がつく。細かいLRの回転施文上に細く浅い沈線による方形状の文様が施文される。器壁は薄く、胎土には砂粒の混入が見られる。13は底部から口縁にかけて大きく開き、口縁がやや内湾する、台付の浅鉢と考えられる。

61図16～18は円盤状土製品である。16・17は土器片を利用し、縁辺を擦って成形している。胎土には繊維が混入する。18は粘土を円盤状に成形して焼成したもので、径約 3 cm、厚さ 1 cmを測る。土器の貼付け装飾が剥がれたものの可能性もある。19は石斧形土製品としたが、全体形が不明なため石斧を模したものかどうかは不明である。表裏面ともよく磨かれている。20は中実の土冠で、長さ7.2cm、幅9.6cm、厚さ4.4cmで、重さは約250 gである。正面形はほぼ楕円形を呈するが、一端は平坦であるのに対し、もう一端は尖る。底面も一方の先端が尖っている。底面中央が溝状に凹み、Lが側面から底面にかけて直線状に押圧されている。また、底面ほぼ中央に径1.5cmの浅い凹みがあり、内部には原体の渦巻き状の文様が施文される。表裏面には部分的に敲打によるものとみられる剥離、側面には部分的なミガキが観察される。胎土には砂粒・焼土粒が混入し、石英粒が多く見られる。

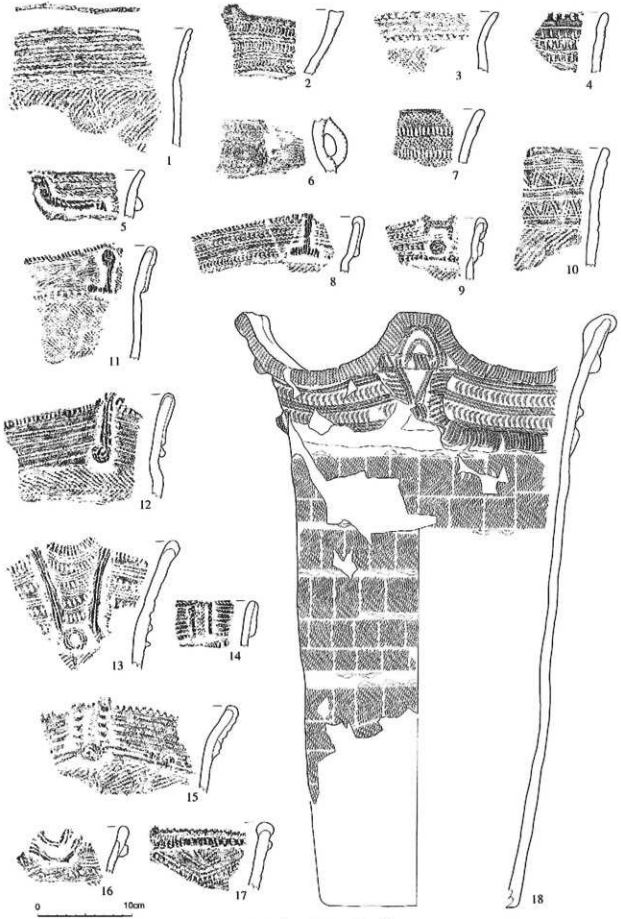
61図21～27は石製品である。21・23は垂飾品、24は垂飾未製品と考えられる。21は扁平な不整四角形の礫の頂部に穿孔し、横長の垂飾としている。縁辺部の一部には剥離が認められるが、成形を目的とした剥離なのかは判然としない。器面全体には弱い擦痕が観察される。23は明緑灰色で、石材は細粒凝灰岩である。22は全体形が不明で垂飾品かどうか判断できないため、円盤状石製品とした。丁寧に磨かれて滑らかである。二次的な被熱のため、表裏面とも剥落が認められる。

25は大珠未製品としたが、判然としない。表面の磨きは部分的で、孔も穿たれていない。径約7.5cm、厚さは5.7cmで、やや扁平な球状である。重さは約460 gである。図面上の表裏面は磨きによって平坦面が形成されているのに対し、側面には細かな敲打痕が見られる。ハンマーとして用いたものか、整形のためのものか不明である。26は下端を欠損し、細長い五角形状を呈する。残存する長さは1.8cm、幅は1.2cmである。表裏面および側面にはほぼ平坦に加工されており、擦痕が顕著である。石材は頁岩で、明緑灰色を呈する。装飾品の未製品の可能性もある。

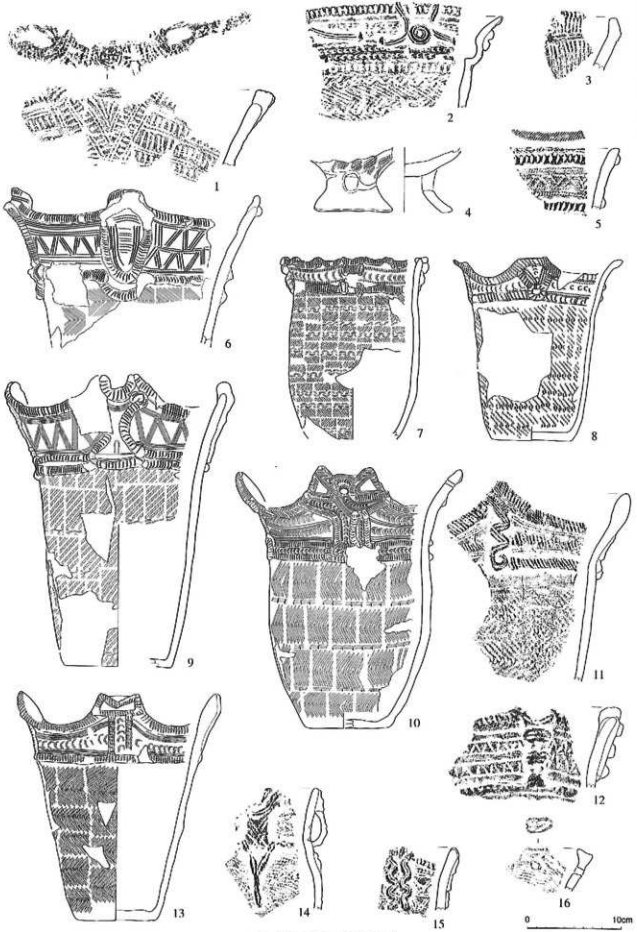
27は凝灰質軽石製の容器片と考えられる。長さ6.0cm、幅5.2cmの楕円形を呈し、凹みは浅く、皿状である。外面は擦痕が顕著で、整形のためとみられる敲打痕もみられる。



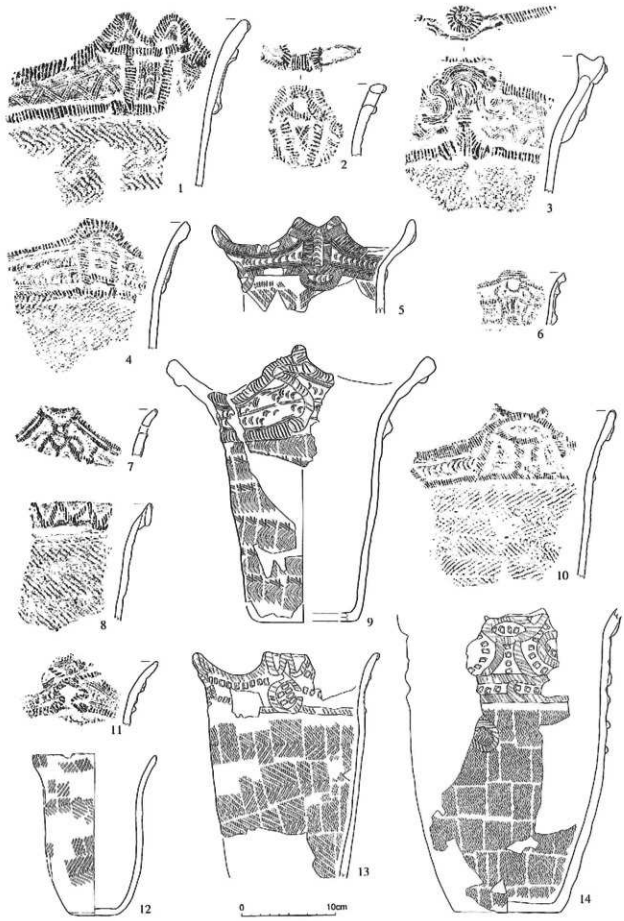
50図　第Ⅲ層出土土器（1）



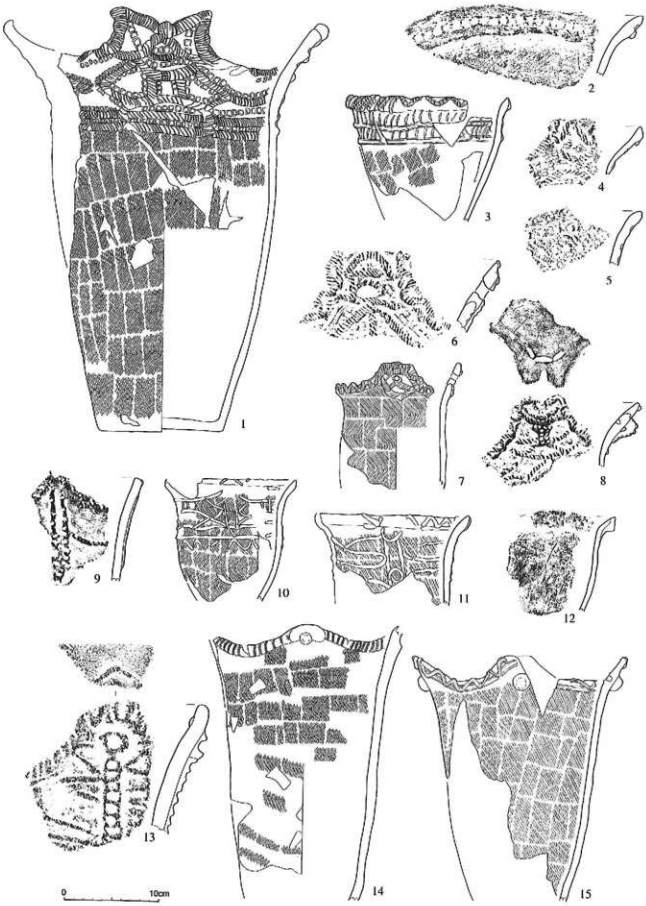
51図　第Ⅲ層出土土器（2）



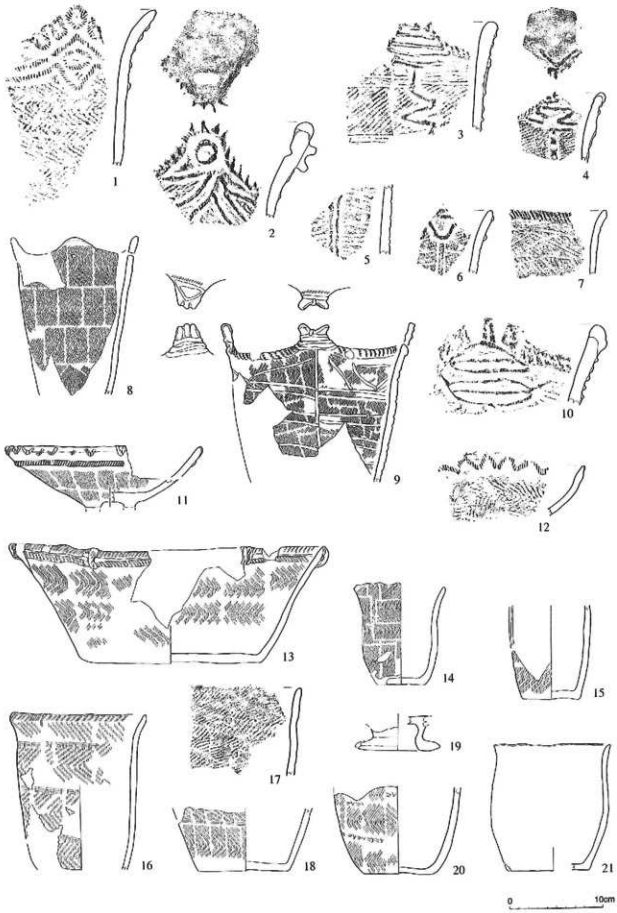
52図　第Ⅲ層出土土器（3）



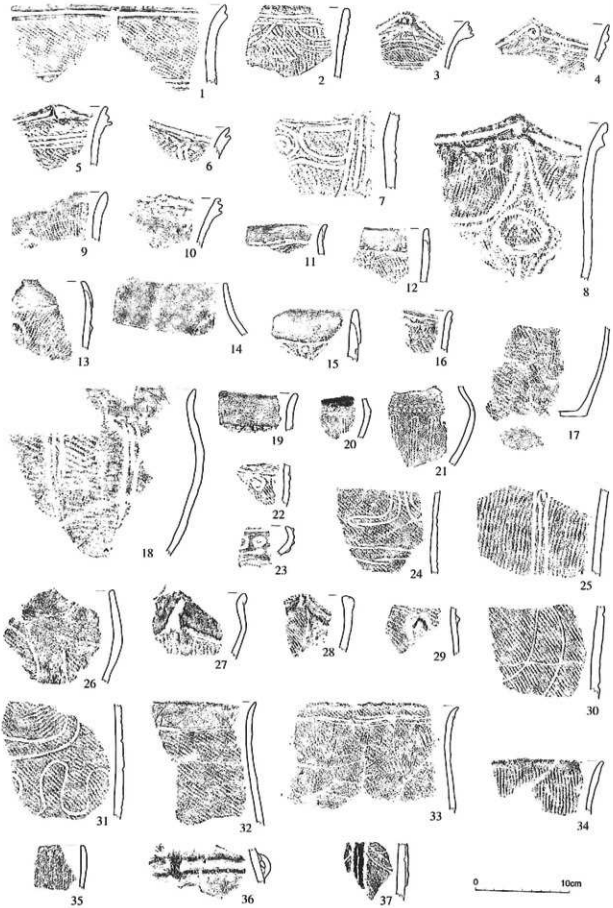
53図　第Ⅱ層出土土器（4）



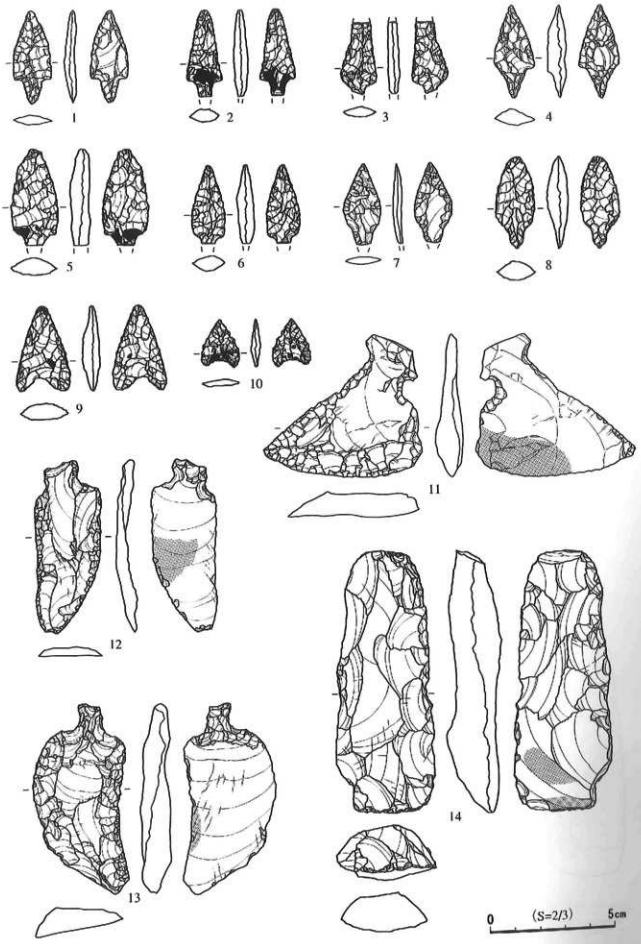
54図　第Ⅱ層出土土器（5）



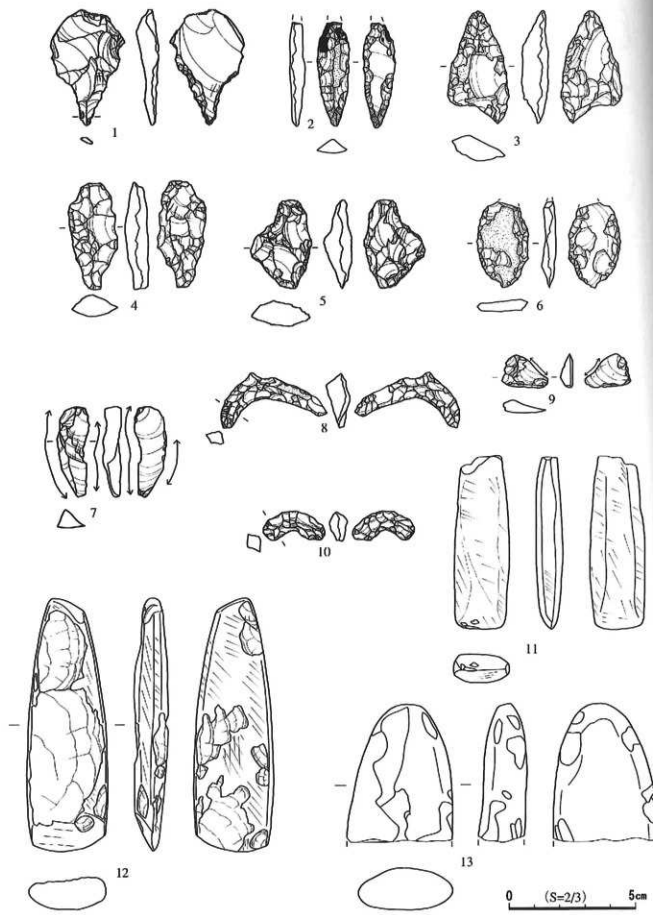
55図　第Ⅲ層出土土器（6）



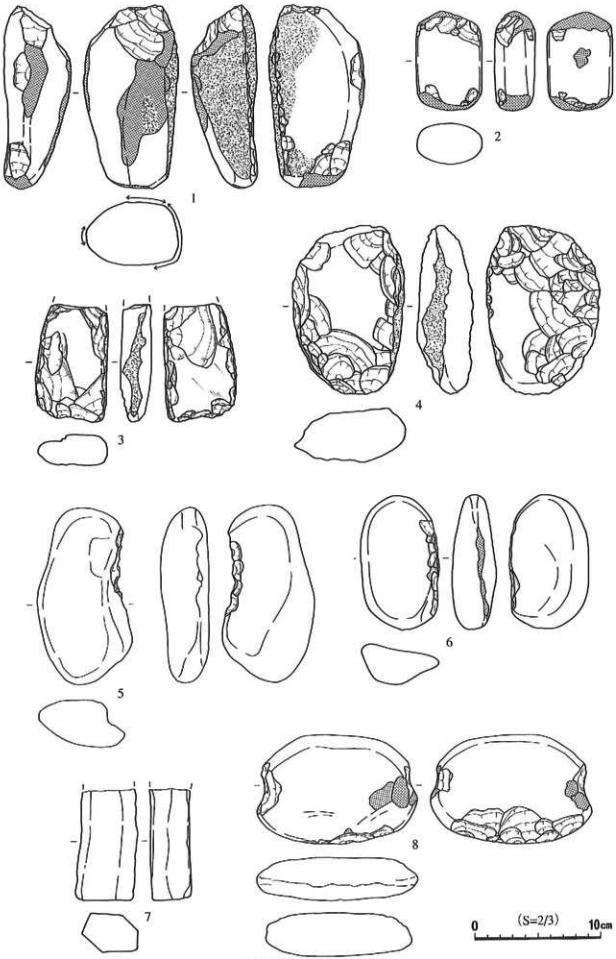
56図　第Ⅱ層出土土器（7）



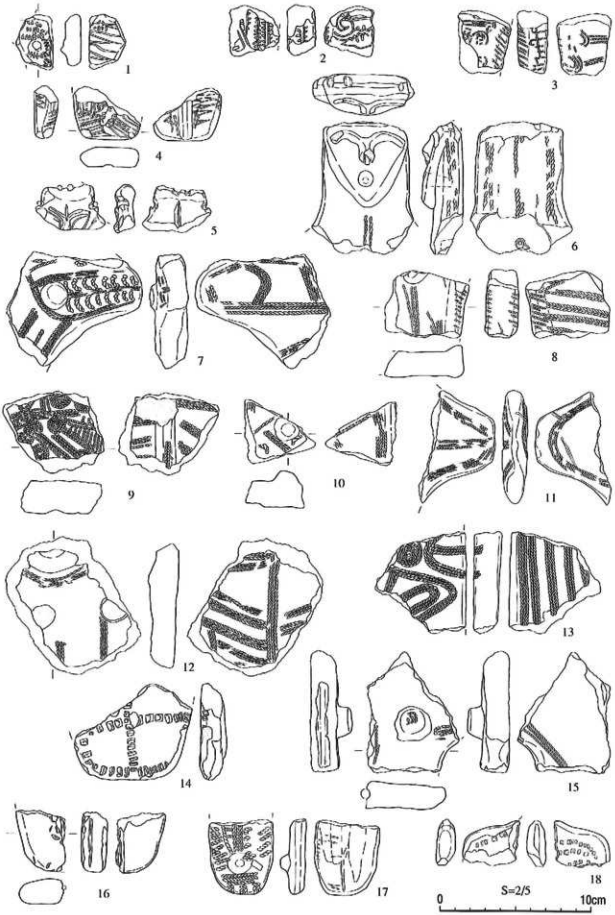
57図　第Ⅲ層出土石器（1）



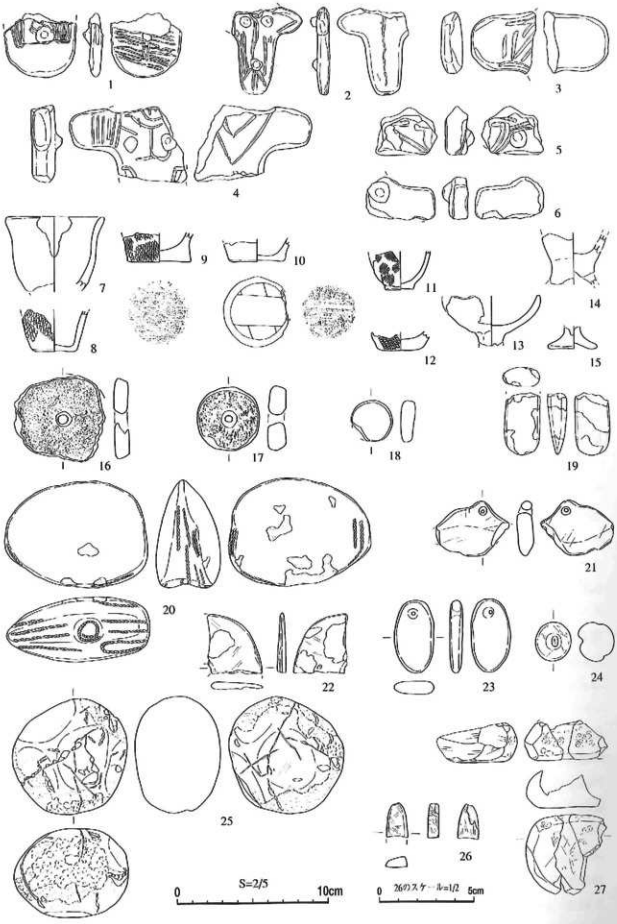
58図　第Ⅲ層出土石器（2）



59図　第Ⅲ層園土石器（3）



60図　第Ⅲ層出土土製品・石製品（1）



61図　第Ⅲ層出土土製品・石製品（2）

(2) 第Ⅱ層の出土遺物

①土器（63～64図）

第Ⅱ群土器（63図1～5）

62図1は3類、2～4は5類1に分類される破片である。5は地文上に撚糸圧痕による鋸歯文が施された口縁破片で、5類2とした。

第Ⅲ群土器（62図6～64図14・18・20～32）

62図6～9・11は1類に分類される土器である。口縁部文様の鋸歯文には単軸絡条体1類（6）1・2段の縄（7・8）が用いられる。9は、口縁部に単軸絡条体1類の押圧による平行線文、胴部には結束第1種が縦位に施文されている。62図10・12・14は馬蹄形の撚糸圧痕が施される2類、13・15～18は刺突列が施される3類である。62図19～63図1は4類に分類される個体である。63図1の胴下半部には、地文施文後のケズリ調整が認められる。2～9は8類に分類される。3・8の口縁片は無文、6・7は折り返し状となる。3・4・5は膨隆した口縁に、太い沈線が施されるものである。10～27は9類に分類される破片である。10～14は折り返し状口縁の深鉢、15～20・22は広口壺器形、23・25～27は地文が口縁に及ぶ深鉢である。広口壺の口縁は良く磨かれた無文（15～20）となるが、撚糸圧痕の施される例（22）が1点見られた。63図28～64図14は10類に分類される破片である。63図28、64図2～14はいわゆる磨消縄文となる破片である。64図3・4は口縁内面に、5～7・9は口縁部の八の字区画に、13・14は胴部にヒレ状の貼付がなされる。21～31は地文のみの一群で、11類に分類される土器である。地文は単節、無節の斜縄文が縦位または横位に施される。29はケズリ調整がのこる胴下半部で、8類に伴うものである可能性がある。30の底部には網代圧痕、31は削り痕跡、32はすだれ状痕が認められる。64図13は橋状把手をもつ破片で、細身の壺形になるものと思われる。

64図20は、ボタン状貼付に刺突がなされており、9類に伴う可能性がある。

第Ⅳ群土器（64図15～17・19）

64図15は縦位の縄文地文に短沈線を伴う貼付がなされたもので、64図16・17とともに1類に分類される破片である。

②石器（65～70図）

剥片石器は石鏃、石匙、不定形石器、石核類、磨製石斧を37点図示した。石鏃は7点図示した。内訳は有茎Y基が2点（65図1、2）、有茎Y基か尖基が1点（65図3）、平基が1点（65図4）、凹基は3点（65図5～7）である。65図3は基部の片側だけに抉りが入っており、茎が半分のみ仕上がっている状況である。また、基部に矢柄と装着するために付けられたと考えられるアスファルト状の黒色物質が付着しているものは3点（65図1～3）ある。黒曜石製の石鏃（65図7）は原材産地分析（蕪科2000）を行い、秋田県男鹿産という結果を得た。石匙は2点図示し、縦型（65図8）と横型（65図9）に分類できる。65図8には主要剥離面の一側縁に、使用によって形成されたと思われる光沢が確認できた。石篦は6点図示し、短冊形（65図10）と撥型（65図11、66図1～4）に

分類できる。不定形石器はスクレイパー類15点（66図５～14、67図１～５、７）、R.フレイク１点（67図６）を図示した。黒曜石のR.フレイク１点は原材産地分析（薬科2005）を行い、青森県出来島・鶴ヶ坂産という結果を得た。石核類は２点（68図４、69図１）図示した。磨製石斧は３点（68図１～３）図示した。いずれも石質が異なる。

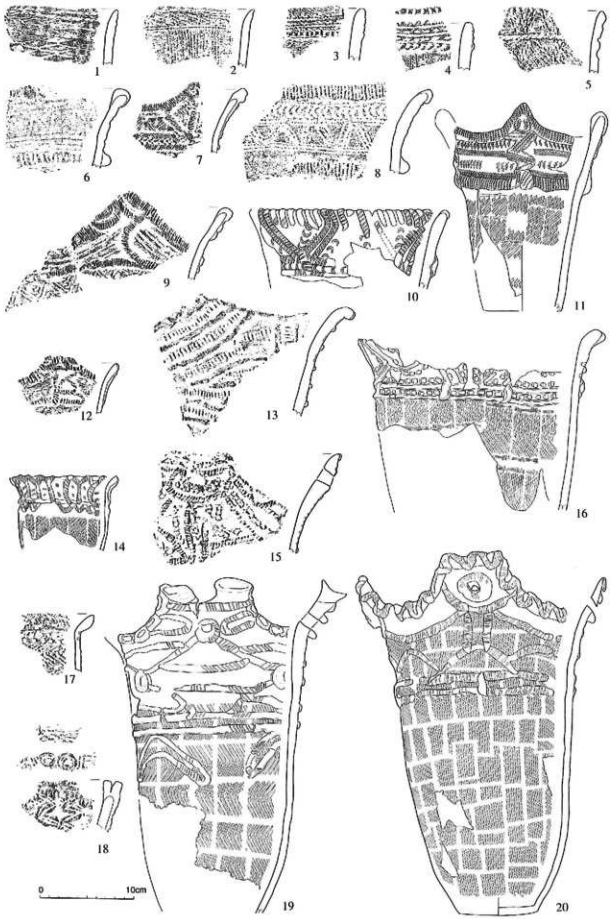
③土製品・石製品（71・72図）

土偶、ミニチュア土器、土製垂飾品、クルミ形土製品、円盤状土製品、三角形土製品、焼成粘土塊、石製大珠、石製垂飾品及び未製品、円盤状石製品、石斧形石製品、石製容器、不明石製品が出土している。土偶とミニチュア土器を除く土製品・石製品の出土が多く、ⅦT～ⅧE－128～146から集中して出土している。

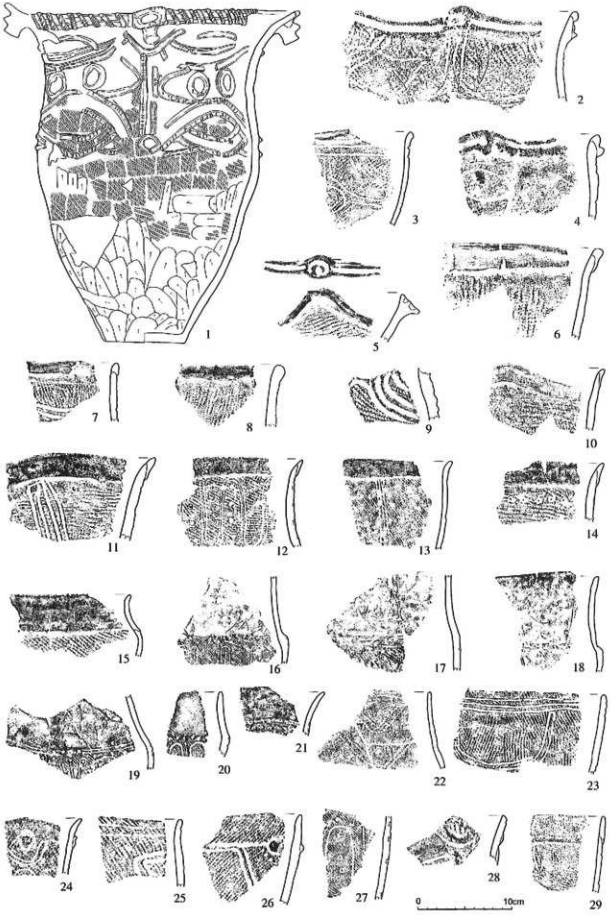
71図１～10は土偶である。１は小刻みに押し引いた押引沈線と短刻線による模様が施されたものである。縦位の沈線は上位から下位へ、背面の横位の沈線は凹線側から側縁へ向けて引かれており、一見剥突列のようにも見える。胎土には繊維を混入する。２～５・７・８・10は原体の押圧による文様が施文されるものである。２・３は胴部片で、背面中心には凹線が見られる。どちらの胎土にも繊維と砂粒の混入が認められる。２は直線状の押圧のほか、渦巻き状の押圧が見られる。８は腕部片である。丸みを帯びた外形で、表裏面とも、∩状の押圧が密に施文される。７は脚部片と考えられる。縦位の直線状、および横位の∩状の押圧の組み合わせによる文様が施文される。破断面は一部擦られて、なめらかになっている部分がある。胎土には砂粒と焼土粒の混入が認められる。10の外形は丸みを帯びており、表面には３条を１単位とする押圧縄文が施文される。一般的に土偶の裏面が平担であるのに対し、10の裏面は凹み、指痕が残る。胎土には砂粒が多く混入する。土偶片としたが、土偶以外の可能性も考えられる。６は脚部片で、幅広の沈線による直線的な文様がやや雑に施文される。中心には縦位の貫通孔を有する。９は無文の脚部片である。

71図11～18はミニチュア土器である。11は丸底で、底部から口縁にかけて強く内湾する器形である。内外面とも指痕が明瞭に残る。15は底径３㎝の口縁がやや開く浅鉢状の器形である。底部に粘土紐を積み上げて成形されており、内面には積み上げの痕跡が明瞭に残る。16は底径２㎝の底部片で、沈線による文様が施文される。底面はやや上げ底である。器壁が厚く、胎土には繊維が混入する。17は台付き土器の底部片で、底径は3.2㎝を測る。20は円盤状土製品である。十器片を利用し、打ち欠いて成形したあと部分的に擦っている。21・22は三角形土製品である。21・22ともに表面には丸みがあり、21の裏面の角２カ所が脚状にわずかに突出している。23はクルミ形土製品で、クルミの殻に粘土を押しつけて作ったものと考えられている。一部欠損し、残存部の長さ1.7㎝、幅1.9㎝のやや横長の楕円形を呈する。これまでに出土しているクルミ形土製品と比べると、やや小ぶりである。24は不明土製品である。表面が窪み、耳たぶ形である。粘土塊に指を押しつけて作られた焼成粘土塊の可能性もある。25・26は焼成粘土塊である。25は半円筒状を呈し、平坦な裏面には擦痕がみられる。26は径約4.5㎝の球状を呈する。表面には成形時の痕跡と考えられる平担面が見られる。胎土には径３～５㎜の小石が混入する。72図は石製品である。１は長さ5.1㎝、幅5.1㎝、厚さ4.1㎝を測る大珠である。隅丸三角柱状を呈する頁岩の自然礫を素材とし、穿孔は中央から偏在する。穿孔は２方向からされており、それぞれの穿孔はかみ合っておらず、辛うじてクランク状に貫通する。

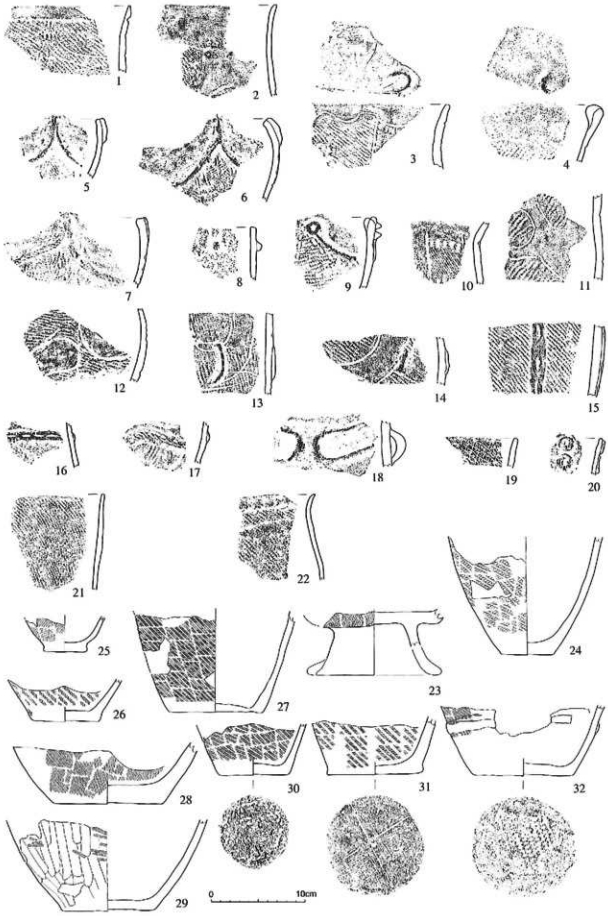
外面には擦りや磨きなどの加工は見られないが、部分的に鈍い光沢を有する面がある。2～5は垂飾品で、うち2は勾玉である。頁岩で素材礫のうち筋状に褐色を呈する部分を突らせるように磨いている。3・4は軽石製で、3は一辺が約3.5㎝、厚さ1.0㎝の三角形の板状を呈し、上辺の中央に穿孔を有する。4は長さ7.2㎝、幅5.4㎝、厚さ1.6㎝の楕円形の板状で、上部に穿孔を有する。5は横長の粘板岩製で、丁寧に磨かれて滑らかである。下端部が破損しているが、辛うじて残存する部分があり、側面同様磨かれて平坦面となっていたことが観察できる。6は穿孔途中のヒスイ製垂飾未製品である。長さ約4㎝、幅約3㎝の分割された三角柱状の小礫を素材とし、一面に径約4㎜、深さ約1㎜の浅い穿孔が見られる。全体的に磨かれている。7は孔部分で半分に破損した有孔石製品を転用したものと考えられる。軽石製である。裏面は平坦に、破損面も丸く成形されており、欠損後、再加工を加えたものと考えられるが用途は不明である。8・9は扁平な半円状を呈する。全体を知り得ないため、円盤状石製品とした。8は凝灰質軽石の円礫を素材とし、径約5.5㎝である。表面には擦痕が認められ、平坦である。裏面は欠失しており、不明である。9は軽石を素材とする。大半を欠失している。縁辺部は擦りによって成形され、平坦面が作り出されている。破損面にも、再加工が施されている。10・11は石斧形石製品とした。磨製石斧の形態であるが、実用的でないと判断したものである。10は石質は磨製石斧と同様であるが、長さ2.8㎝・幅1.2㎝、厚さ0.4㎝とミニサイズで、使用痕が認められなかったため石製品に含めたが、実用品の可能性もある。11は撥形で、刃部が作出されている。シルト岩製で、実用品とは考えられない。12は不明石製品とした。石斧の形に近いが刃部がつくられておらず、下端部にも平坦面がある。13は石製容器としたものである。15は扁平なシルト岩を皿状に窪めたもので、全面に擦痕が著しい。皿状を呈しているが、容器としての意味があったかどうかは不明であるため、不明石製品とした。14は扁平な三角形で、表面からのみ各辺に微少な剥離が加えられ、鮫歯状を呈している。表裏面は丁寧に磨かれて滑らかである。鮫の歯を模した石製品の可能性もある。16は加工痕のある厚さ約3㎝の板状の石製品で、凝灰質軽石を素材とする。破損しているが、本来三日月形を呈していた可能性もある。器面全体に擦痕が認められるが、特に側面で顕著である。用途は不明である。17は凝灰質軽石の石製品破片である。断面は半円状で、平坦面の縁辺には縁状の高まりが作り出されている。器面全体に擦痕が顕著であり、表裏面には敲打痕が見られる。本来楕円形の石皿状もしくは船状を呈し、表面を擦りで平滑に整え、何らかの敲く行為が行われた道具の可能性がある。



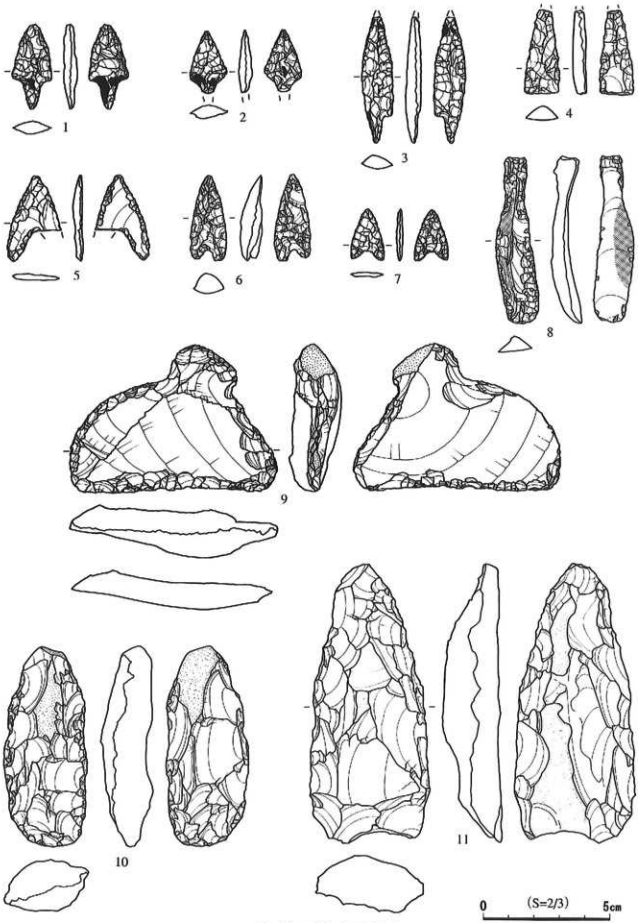
62図　第Ⅱ層出土土器（1）



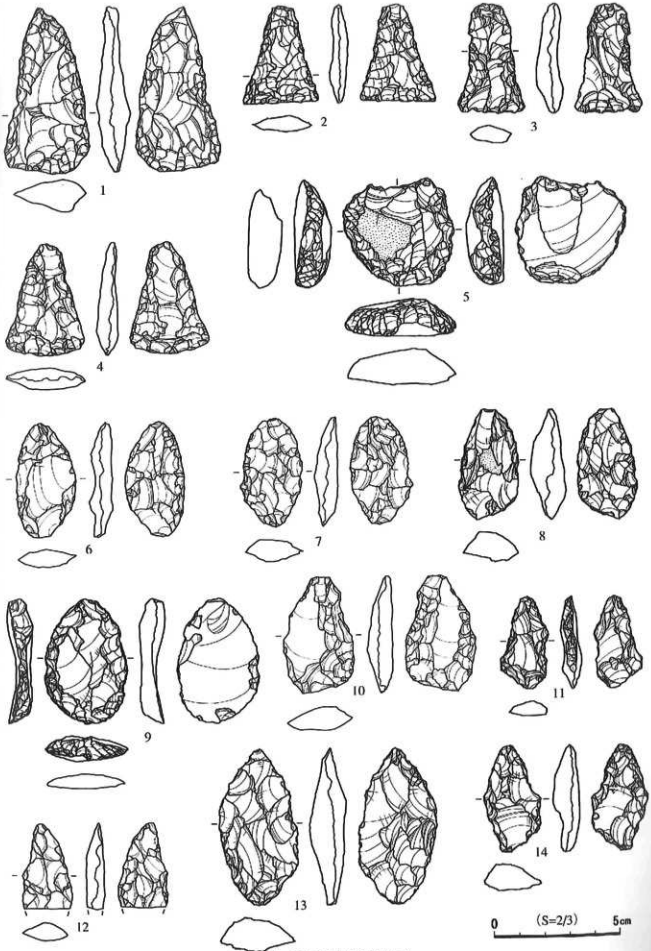
63図　第Ⅱ層出土土器（2）



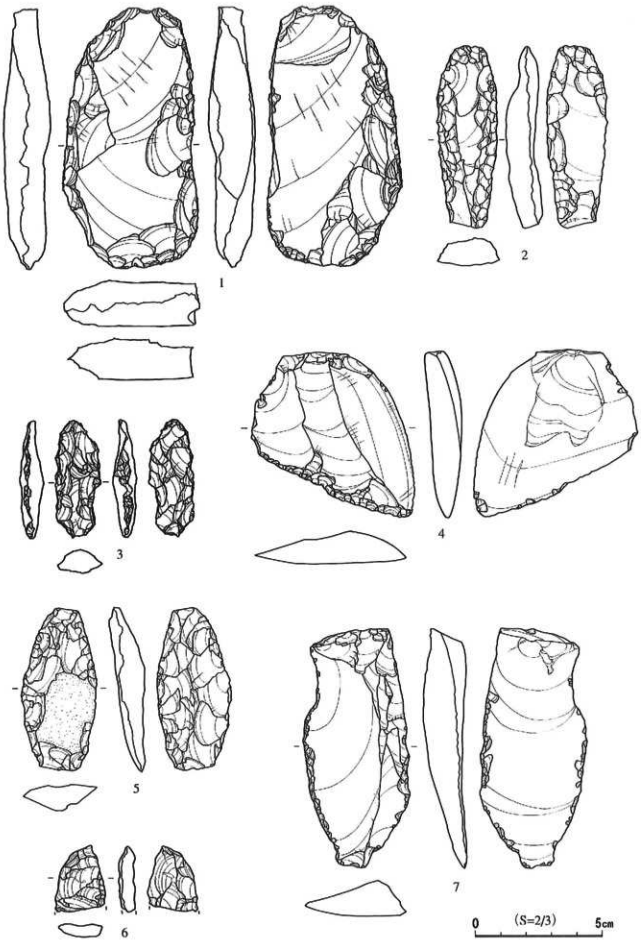
64図　第Ⅱ層出土土器（3）



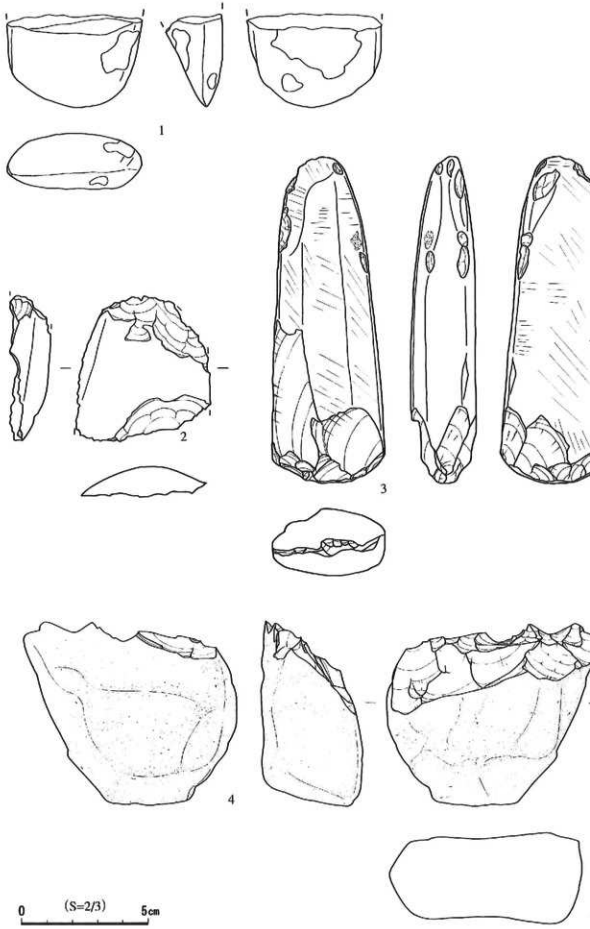
65図　第Ⅱ層出土石器（1）



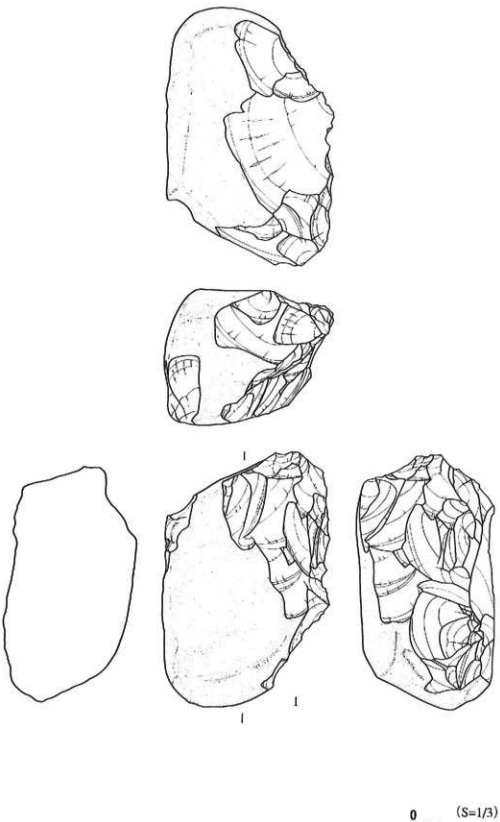
66図　第Ⅱ層出土石器（2）



67図　第Ⅱ層出土石器（3）

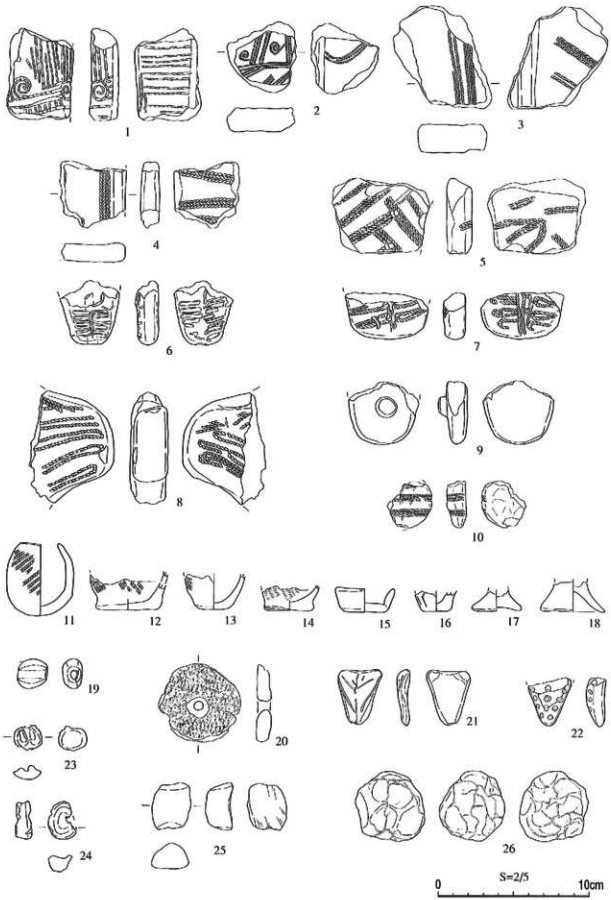


68図　第Ⅱ層出土石器（4）



69図　第Ⅱ層出土石器（5）

70図　第Ⅱ層出土石器（6）



71図　第Ⅱ層出土土製品・石製品（1）

72図　第Ⅱ層出土土製品・石製品（2）

(3) 第Ⅰ層の出土遺物

①土器（73図）

第Ⅲ群土器（73図1～8・11）

2は3類に分類される破片である。3は撚目状の平行沈線文が施された口縁部破片で6類に分類したが、1類に伴うものである可能性が高い。4は4類に分類される破片である。

5は8類に伴うと思われる、単軸絡条体1類が縦位に施文された口縁部破片である。

1・6・7・8は10類に分類される破片である。11は縄文地文のみの口縁部破片で、11類に分類される。

第Ⅳ群土器（73図9・10）

10は貼付帯によって口縁部が区画され、胴部に方画モチーフの磨消縄文が施されている。9とともに1類に分類される破片である。

②石器（74図）

剥片石器は石鏃、石錐、不定形石器、石核類、磨製石斧を16点図示した。石鏃は5点図示した。内訳は有茎T基が1点（74図1）、有茎Y基が1点（74図2）、尖基が3点（74図3～5）である。石錐は3点で、棒状のもの（74図6）と摘みがあるもの（74図7～8）である。不定形石器はスクレイパー類4点（74図9、10、12、13）、R.フレイク1点（74図11）を図示した。黒曜石製のR.フレイクは原材産地分析（蟹科2005）を行い、青森県出来島・鵜ヶ坂産という結果を得た。石核類は2点図示した。黒曜石製の剥片2点（74図14、15）の内、74図15は原材産地分析（蟹科2005）を行い、青森県出来島・鵜ヶ坂産という結果を得た。磨製石斧は1点（74図16）図示した。強い打撃による刃部の剥離が著しい。

③土製品・石製品（75図）

第Ⅰ層および表土出土のものを一括した。

土偶、ミニチュア土器、土製垂飾品、土製耳飾、三角形土製品、石製垂飾品、石斧形石製品、不明石製品が出土している。

1～9は土偶である。1は脚部を欠損する土偶である。頭部は王冠状を呈し、頭頂部には2つの貫通孔を有する。両腕の張り出しは小さく、全体形は五角形状を呈する。顔は胸の部分に作られ、刺突列の施文された貼付によって眉と鼻が表現され、浅い凹みによって口が表現されている。眉尻と鼻を結んで沈線が施文される。目の表現の名残りとみられる。胸の下位にも浅いV字状の沈線文が施文される。表裏面および側面は刺突による文様が施文される。裏面中心には幅の広い凹線が施される。

2・3は胴部片で、細沈線と短刻線による文様が施文される。2は裏面のみが残存し、表面は粘土の継ぎ目で剥落している。胎土には少量ではあるが、繊維と砂粒の混入が認められる。

5・6は主に原体の押圧により文様が施文されているものである。5は腕部片である。表裏面には馬蹄形状および弧状の原体の押圧による文様が施文され、側面には角棒状の刺突列が施文される。

6は胴～脚部片で、Lの押圧による直線状及び渦巻き状の文様の他、短刻線で文様が施文されている。5の腕部先端、6の側縁部でそれぞれ表面側が肥厚している。

7は脚部で、自立可能な立体的なつくりになっている。腰は張り出している。表裏面には地文としてLRが回転施文されている。文様は表面に浅い沈線で施文され、胴部と脚部との区別、女性器が表現されている。

8は胴部片である。文様は、表裏面共に丸棒状の刺突により施文されている。また、胸の頂部にも刺突が施されている。頭部は首の接合痕から剥離しており、やや前に突き出す小さな頭部であったとみられる。

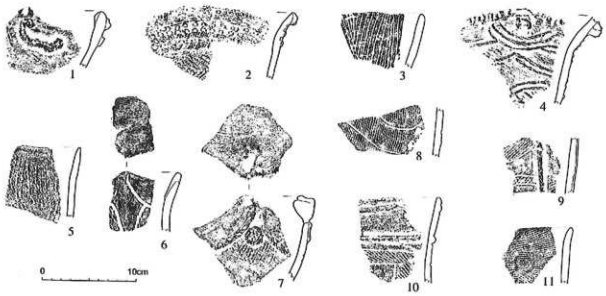
9は立体的な脚部片とみられる。指部分も欠損しており、判然としないが、足首部分に幅広で浅い雑な横走沈線が施されている。

10・11はミニチュア土器である。10は底径5㎝の台部である。外面はRLを回転方向を変えて施文している。内面はミガキが見られ、黒色化している。11は底径3㎝の底部片である。底部が張り出す器形と推測される。底面は丸みを帯びるが、上げ底となっている。

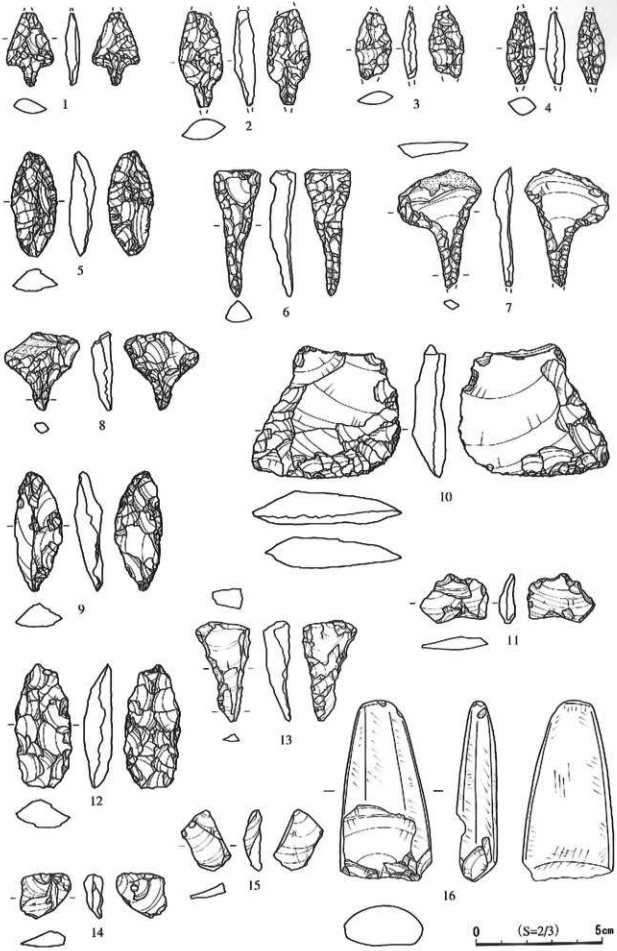
12は垂飾品である。径約2.5㎝で、球に近い算盤玉形を呈する。表裏面および側面には刺突列が巡る。13は耳飾りである。残存するのは約1/4であるが、径約3.5㎝の環状を呈すると推測され、厚さは2.7㎝を測る。表裏面とも竹管状の刺突が施される。

14・15は三角形土製品である。14は丸棒状の刺突で表面及び側面が施文される。15は表面は無文で、側面に浅く幅広の沈線文が施されている。

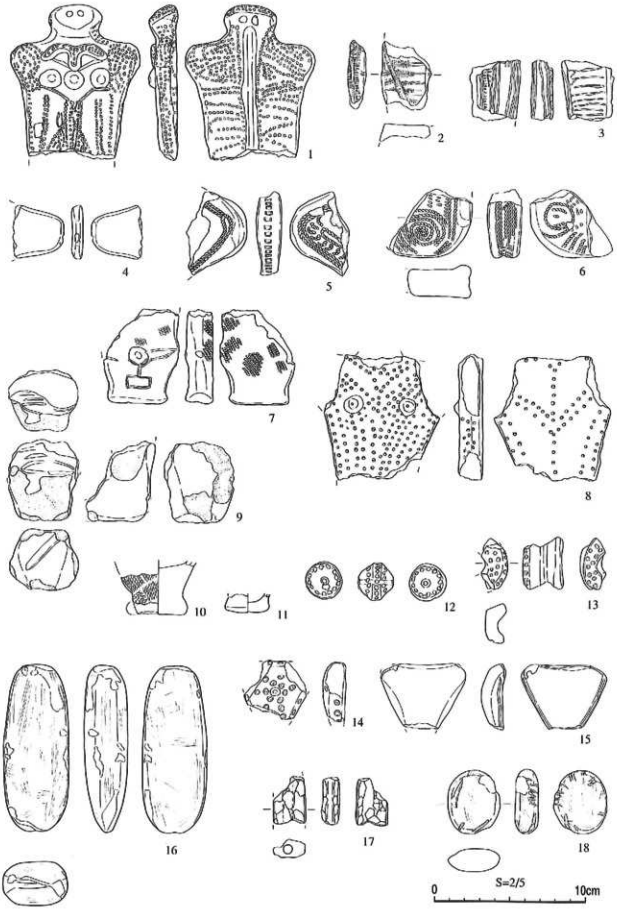
71図16～18は石製品である。17は頁岩製の垂飾品である。中央部に厚みをもつ長方形で、残存長は3.2㎝、幅は2.2㎝を測る。穿孔は一方向からである。表裏面はほぼ全体に剥離が施されており、側面は軽く擦られている。剥離は側面の擦りの後に加えられており、未製品なのか再加工なのか判然としない。16は石斧形石製品としたものである。凝灰岩製で、先端に0.4㎝程度の幅の丸みがあることから、実用品ではないと判断した。全面に幅の狭い工具による擦痕が著しい。18は不明石製品である。扁平な楕円形で、全面に擦痕がみられ、表裏面には光沢がある。



73図　第Ⅰ層出土土器



74図　第Ⅰ層出土石器



75図　第Ⅰ層出土土製品・石製品

平成６年度調査出土土器観察表

番号	出土地点	層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上半	外面文様 胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
50-1	VBF-132	Ⅲ	口唇LR押, LR押	LR縦, 重帯 RL LR	結束1（LR, LR）	ミガキ		Ⅱ-5-1		6797
50-2	VBE-139	Ⅲ	L単節Ⅰ押	RLR	RLR	ミガキ	ミガキ	Ⅱ-5-2		6801
50-3	VBD-137	Ⅲ	結付（LR押）, LR押	LR	LR	ミガキ	ミガキ	Ⅱ-5-2	両盛土	5942
50-4	VBF-132	Ⅲ			結束1（LR, RL）	ミガキ	ミガキ	Ⅱ-5-2		6806
50-5	VBE-139	Ⅲ-21	単節縄文RL押, LR押	結束1（RLR, LRL）	結束1（RLR, LRL）	ミガキ		Ⅱ-5-1	西盛土	6839
50-6	VBE-139	Ⅲ	L整縄文RL押, R押, 単L	L単節Ⅰa	L単節Ⅰa	ミガキ	台付（欠損）	Ⅱ-5-2		6789
50-7	VBF-135	Ⅲ		結束1（LR, RL）	R単節	ミガキ	ミガキ	Ⅱ-5-2		6805
50-8	VBF-132	Ⅲ			R単節	ミガキ	台付	Ⅱ-5-2		6811
50-9	VBF-134	Ⅲ	LR押	結束2	結束2	ミガキ	ミガキ	Ⅱ-5-2	西盛土	4487
50-10	VBF-132	Ⅲ	粘（斜突）, 単節Ⅰ	結束1（LR, RL）		ミガキ		Ⅱ-5-1		TJ3002
50-11	VBE-139	Ⅲ	単節Ⅰ押, LR押	R（2条）単節Ⅰa		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3004
50-12	VET-129	Ⅲ	LR押	LR		ミガキ		Ⅱ-5-1		TJ3003
50-13	VBF-133	Ⅲ	結縄縄文RL押, LR押	結束1（RL, RL）		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3008
50-14	VBF-135	Ⅲ	単節縄文押, 斜突	結束2（LR・LR）		ミガキ		Ⅱ-5-2	横縫混入	TJ3014
50-15	VBF-139	Ⅲ	LR押	結束1（LR, LR）		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3009
51-1	VBF-134	Ⅲ	LR押	LR、R結節		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3011
51-2	VBG-139	Ⅲ	粘, 半截竹管, LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3015
51-3	VBF-132	Ⅲ	粘（斜突）, LR押	LR		ミガキ		Ⅱ-5-2	横縫混入	TJ3016
51-4	VBE-139	Ⅲ	口唇結節, RL押, 結節			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3017
51-5	VBF-133	Ⅲ	粘（LR押）, LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3024
51-6	VBF-128	Ⅲ	粘結手, 半截, LR, 結節			ミガキ		Ⅱ-5-2	横縫混入	TJ3018
51-7	VET-129	Ⅲ	RLR、LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3019
51-8	VBF-132	Ⅲ	半截RL, LR, 結節			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3026
51-9	VBF-132	Ⅲ	半截, 結節RL, RL, 結節	LR		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3027
51-10	VBD-139	Ⅲ	口唇LR、LR押	結束1（LR・LR）		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3021
51-11	VBF-132	Ⅲ	粘（LR押）, LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2	波状口縁	TJ3025
51-12	VBF-133	Ⅲ	粘, 半截結節RL, 結節RL	結束1（LR・RL）		ミガキ		Ⅱ-5-2	横縫混入	TJ3022
51-13	VBF-139	Ⅲ	粘, LR押, LR押, 結節RL	RL		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3032
51-14	VBF-132	Ⅲ	粘（LR押）, LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3028
51-15	VBE-139	Ⅲ	単節縄文RL押, 結節RL	LR、R結節		ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3031
51-16	VBE-139	Ⅲ	結節RL, RL, 結節RL			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3039
51-17	VBF-133	Ⅲ	粘, 半截RL, LR押, 結節			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3036
51-18	VBC-139	Ⅲ	粘（LR押）, LR押	結節RL, RL, 結節	結節RL, RL, 結節	ミガキ		Ⅲ-1		6841
52-1	VBF-133	Ⅲ	口唇半截, 結節RL, LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3020
52-2	VBF-132	Ⅲ	粘, LR押, LR押, 結節RL	結節RL, RL, RL		ミガキ		Ⅱ-5-2	TJ040・TJ047と同一個体, 結節RL	TJ3029
52-3	VBF-130	Ⅲ	突起、沈線			ミガキ	底部木葉痕	Ⅱ-5-2	横縫混入	TJ3112
52-4	VBF-132	Ⅲ			LR	ミガキ	底部木葉痕	Ⅱ-5-2		6829
52-5	VBF-133	Ⅲ	口唇RL, 半截RL, 結節RL			ミガキ		Ⅱ-5-2		TJ3038
52-6	VBC-139	Ⅲ	粘結, LR押, LR押	結束1（LR, RL）		ミガキ		Ⅲ-1	西盛土	1586
52-7	VBE-139	Ⅲ	単節縄文RL押, LR押, 結節	結束2（LR, RL）	結束2（LR, RL）	ミガキ		Ⅲ-1		6794
52-8	VBE-139	Ⅲ	粘結, LR押, LR押	結束1（LRL, LRL）	結束1（LRL, LRL）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-1	西盛土	4496
52-9	VBE-139	Ⅲ-13	粘（LR）, L・R押	LR（R結節）	LR（R結節）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-1	西盛土	6309
52-10	VBE-139	Ⅲ-4・9層2	粘結（LR押）, LR押	結束1（LR, RL）	結束1（LR, RL）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-2	西盛土, 単L押と接合	6310
52-11	VBD-143	Ⅲ	粘（R押）, R押	結束1（LR・RL）		ミガキ		Ⅲ-1	波状口縁	TJ3043
52-12	VBC-139	Ⅲ	粘, LR, R押, LR押			ミガキ		Ⅲ-1	波（状）, TJ047と同一個体	TJ3045
52-13	VBC-139	Ⅲ	結節, 結付, L・R押	結束1（LR, RL）	結束1（LR, RL）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-1	西盛土	4765
52-14	VBE-139	Ⅲ	結節RL, LR, RL, LR, 結節	RLR, LRL, 結節		ミガキ		Ⅲ-1		TJ3041
52-15	VBD-139	Ⅲ	粘, 結節RL, RL, 結節			ミガキ		Ⅲ-1		TJ3051
52-16	VBE-130	Ⅲ	口唇結節, 貫通孔, RL			ミガキ		Ⅲ-1	浅鉢	TJ3042
53-1	VBD-139	Ⅲ	粘, LR, LR, LR押, 結節	結束1（LR・RL・結節）		ミガキ		Ⅲ-1	波状口縁	TJ3049
53-2	VET-129	Ⅲ	粘, LR押, 貫通孔, R押			ミガキ		Ⅲ-1	波状口縁	TJ3052
53-3	VES-130	Ⅲ	口唇結節, 半截RL, LR押	RL（結節）		ミガキ		Ⅲ-1		TJ3050
53-4	VBE-139	Ⅲ	口唇結節, 半截, LR押			ミガキ		Ⅲ-1		TJ3053
53-5	VET-146	Ⅲ	粘, LR, LR, LR結節	結束1（LR, RL）		ミガキ		Ⅲ-1		6807
53-6	VBD-139	Ⅲ	口唇結節, R押, 結節			ミガキ		Ⅲ-2		TJ3059
53-7	VBE-139	Ⅲ	粘, LR押, LR結節, 貫通孔			ミガキ		Ⅲ-2	波状口縁	TJ3061
53-8	VBE-139	Ⅲ-10	粘（LR押）	RL（結節）		ミガキ		Ⅲ-6	西盛土	TM007
53-9	VBE-139	Ⅲ-11	粘結, R押, L・R押	結束1（LR, RL）	結束1（LR, RL）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-1	西盛土	6307
53-10	VBD-139	Ⅲ	粘, LR押, LR, 結節押	結束1（LR・RL）		ミガキ		Ⅲ-2	波状口縁	TJ3055
53-11	VBE-139	Ⅲ	粘, LR押, LR, 半截結節			ミガキ		Ⅲ-3	波状口縁	TJ3064
53-12	VBF-139	Ⅲ	結束1（LR, RL）	結束1（LR, RL）	結束1（LR, RL）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-6	西盛土	5945
53-13	VBD-139	Ⅲ	粘, LR押, LR押, 結節	結束1（LR・RL）	結束1（LR・RL）	ミガキ		Ⅲ-3		6816
53-14	VBC-139	Ⅲ	粘結（LR押）, 斜突	結束1（LR, RL）	結束1（LR, RL）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-3	両盛土	3286
54-1	VBC-139	Ⅲ	粘, LR押, LR押, 結節	結束1（LR, RL）	結束1（LR, LR）	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-3		6798
54-2	VBF-136	Ⅲ	粘結, 刺突			ミガキ		Ⅲ-3		TJ3086
54-3	VBH-139	Ⅲ	粘（ヘラ刻み）	粘結, ヘラ刻突, LR		ミガキ？		Ⅲ-3		6822

番号	出土地点	層位	外面文様 口縁部	外面文様 胴部上半	外面文様 胴部下半	内面調整	底面	分類	備考	整理番号
54-4	VD-142	Ⅲ	条 (L押), LR, 刺突			ミガキ		Ⅲ-3	波状口縁	TJ3084
54-5	VF-137	Ⅲ	貼突 (LR・RL), 刺突			ミガキ		Ⅲ-3		TJ3085
54-6	VS-130	Ⅲ	刺突, 8 LR, 沈線, 貼突			ミガキ		Ⅲ-3	波状口縁	TJ3082
54-7	VH-139	Ⅲ	条 (L押), L押, 縦走	結束 (LR, RL)		ミガキ		Ⅲ-4		6818
54-8	VF-136	Ⅲ	刺突多 縦走, 条 縦走			ミガキ		Ⅲ-3	波状口縁, 内面刺突	TJ3088
54-9	VT-129	Ⅲ	貼 (刺突)	貼 (刺突)		ミガキ		Ⅲ-4	波状口縁	TJ3092
54-10	VH-143	Ⅲ	貼付	結束 (LR, RL), 貼付	結束 (LR, RL)	ミガキ		Ⅲ-4		6776
54-11	VG-139	Ⅲ	貼付	RL, 貼付		ミガキ		Ⅲ-4		6810
54-12	VE-139	Ⅲ-4・9層	半竹刺突			ミガキ		Ⅲ-6	炭 (外)	TM003
54-13	VT-133	Ⅲ	貼付, L押			ミガキ		Ⅲ-4	波状口縁, 内面貼付	TJ3087
54-14	VH-139	Ⅲ	RL押,	結束 (LR, RL)	結束 (LR, RL)	LR		Ⅲ-4	内盛土	4763
54-15	VE-139	Ⅲ	貼付	RL	RL	ミガキ		Ⅲ-4		6827
54-16	VC-139	Ⅲ	貼 (R押)	結束 LR・RL・縦走		ミガキ		Ⅲ-4	波状口縁, TJ3091と同一個体	TJ3091
55-2	VE-139	Ⅲ	口唇突起, 貼付	RL, 貼 (ヘラ状突)		ミガキ		Ⅲ-4	内面刺突	TJ3093
55-3	VT-133	Ⅲ	隆線 刺突, 縦走, 8 LR押	RL, 貼付, 沈線		ミガキ		Ⅲ-5		TJ3095
55-4	VD-143	Ⅲ	口唇突起 刺突, LR	LR, 貼付 (隆線状)		ミガキ		Ⅲ-5		TJ3101
55-5	VT-133	Ⅲ		結束, RL下, 沈線		ミガキ		Ⅲ-5		TJ3098
55-6	VD-143	Ⅲ	口唇貼 LR・条縦, LR	RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-5		TJ3096
55-7	VH-139	Ⅲ	ヘラ刺み	RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-5		TJ3097
55-8	VD-139	Ⅲ	刺突 縦走, 貼付 縦走	結束 (LR, RL)	結束 (LR, RL)	ミガキ		Ⅲ-6		6785
55-9	VT-133	Ⅲ	隆線状, 縦走, 8 LR押	結束 (LR, RL)		ミガキ		Ⅲ-5		6835
55-10	VT-130	Ⅲ	口唇貼 LR押, LR押	貼付, 沈線		ミガキ		Ⅲ-5		TJ3094
55-11	VF-135	Ⅲ	貼 (L押)	結束 (LR, RL)		ミガキ	台付 (欠損)	Ⅲ-6		6809
55-12	VC-139	Ⅲ b	貼 (L押)	結束 (LR・RL・縦押)		ミガキ		Ⅲ-6	(台付) 浅鉢	TJ3106
55-13	VD-139	Ⅲ	貼付 (L押)	結束 (LR, RL)	結束 (LR, RL)	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-6	西盛土	5982
55-14	VG-139	Ⅲ	結束 (LR, RL)	結束 (LR, RL)	結束 (LR, RL)	ミガキ		Ⅲ-6		6773
55-15	VT-128	Ⅲ			結束 (LR, RL)	ミガキ	ミガキ?	Ⅲ-6		6796
55-16	VH-139	Ⅲ	L押	結束 (LRL, RLR)	結束 (LRL, RLR)	ミガキ		Ⅲ-6	内盛土	1102
55-17	VF-134	Ⅲ	RL			ミガキ	ミガキ	Ⅲ-6	縄文混入	TJ3156
55-18	VG-139	Ⅲ			結束 LR, RL, 縦押	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-6		6792
55-19	VD-142	Ⅲ				ミガキ	台付	Ⅲ-6		6830
55-20	VH-139	Ⅲ			結束 LR, RL, 縦押	ミガキ	ミガキ	Ⅲ-6		6784
55-21	VH-139	Ⅲ-9	無文 (ミガキ)	無文 (ミガキ)	無文 (ミガキ)	ミガキ	砂底?	Ⅲ-6		6783
56-1	VT-133	Ⅲ	四状沈線	RL		ミガキ		Ⅲ-8		TJ3120
56-2	VT-133	Ⅲ	沈線	LR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-8	炭 (外)	TJ3125
56-3	VS-130	Ⅲ	四状沈線	LR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-8	波状口縁	TJ3118
56-4	VH-139	Ⅲ	四状沈線	沈線		ミガキ		Ⅲ-8	波状口縁	TJ3113
56-5	VT-133	Ⅲ	四状沈線	RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-8		TJ3117
56-6	VT-134	Ⅲ	四状沈線	RL, 沈線, 刺突		ミガキ		Ⅲ-8		TJ3119
56-7	VT-134	Ⅲ		RLR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-8		TJ3127
56-8	VT-133	Ⅲ	四状沈線	RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-8	波状口縁	TJ3114
56-9	VT-133	Ⅲ	L単結1、沈線			ミガキ		Ⅲ-8	波状口縁	TJ3126
56-10	VT-134	Ⅲ	四状沈線			ミガキ		Ⅲ-8	炭 (外)	TJ3115
56-11	VT-135	Ⅲ	斜返口縁			ミガキ		Ⅲ-9		TJ3137
56-12	VT-125	Ⅲ	折返口縁 (刺突)	RL, 沈線, 貼着刺突		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3135
56-13	VT-128	Ⅲ	折返口縁 (刺突)	RL, 沈線, ヒト状貼付		ミガキ		Ⅲ-10	炭 (内)	TJ3144
56-14	VT-134	Ⅲ	無文			ミガキ		Ⅲ-9		TJ3134
56-15	VT-125	Ⅲ	折返口縁	沈線, 刺突		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3136
56-16	VT-132	Ⅲ	沈線	LR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3122
56-17	VT-133	Ⅲ		LR, 沈線	LR	ミガキ		Ⅲ-9		TJ5139
56-18	VT-134	Ⅲ	無文	刺突, LR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-9		TJ2043
56-19	VT-134	Ⅲ	無文	刺突		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3133
56-20	VT-134	Ⅲ	無文	RL, 沈線, 刺突		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3132
56-21	VT-134	Ⅲ	無文	RL, 沈線, 貼着隆線		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3131
56-22	VT-133	Ⅲ		RL, 沈線, 刺突		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3124
56-23	VT-126	Ⅲ	隆沈線			ミガキ		Ⅲ-9		TJ3123
56-24	VT-135	Ⅲ		RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3138
56-25	VT-139	Ⅲ		RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-9		TJ3129
56-26	VT-126	Ⅲ	磨消 (沈線, LR)	磨消 (沈線, LR)		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3141
56-27	VT-129	Ⅲ	口唇隆状肥手	磨消 (RL, 沈線)		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3145
56-28	VT-127	Ⅲ	貼 (刺突)	磨消 (LR, 沈線)		ミガキ		Ⅲ-10	波状口縁	TJ3142
56-29	VT-127	Ⅲ		RL, 沈線, ヒト状貼付		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3143
56-30	VT-129	Ⅲ		LR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3147
56-31	VT-128	Ⅲ		LR, 沈線		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3148
56-32	VT-129	Ⅲ	無文	RL		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3146
56-33	VT-135	Ⅲ	RL, 沈線	RL, 沈線		ミガキ		Ⅲ-10		TJ3151

番号	出土地点	形位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
56-34	VBT-125	III	RL			ミガキ		III-11		T23155
56-35	VBT-134	III	条痕			ミガキ		III-11		T23158
56-36	VBT-129	III		隆帯、横状把手		ミガキ		III-11		T23152
56-37	VBT-125	III		隆帯、RL縦、横、斜		ミガキ		III-10・IV-1		T23150
62-1	VBT-117	II	R単節5、RLR押			ミガキ		II-3	横縄混入	T21001
62-2	VBT-127	II	LR押	RLR		ミガキ		II-5-1	横縄混入	T21003
62-3	VBT-136	II	隆帯（LR押、LR、縄側縁	L決損		ミガキ		II-5-1		T22001
62-4	VBB-139	II	隆帯、RL押、RL、縄側縁	R単節1a？		ミガキ		II-5-1		T23007
62-5	VBT-145	II	RL押			ミガキ		II-5-2		T22002a
62-6	VBT-132	II	隆帯、縄側縁、縄側縁			ミガキ		III-1	波状口縁	T22002b
62-7	VBT-141	II	隆帯、RL、LR縄、LR側縁			ミガキ		III-1	波状口縁	T22006
62-8	VBT-132	II	隆帯（LR押）、LR・RL押			ミガキ		III-1	波状口縁	T22007
62-9	VBB-139	II	隆帯（LR押）、LR縄側縁	結束1（LR）	結束1（LR）	ミガキ		III-1	波状口縁	T22004
62-10	VBB-139	II	隆帯（LR押）、LR縄押			ミガキ		III-2		6834
62-11	VBT-145	II	貼付（LR押）、LR押	結束1（LR）	結束1（LR）	ミガキ		III-1		6045
62-12	VBB-139	II	隆帯、LR、LR側縁帯			ミガキ		III-2	波状口縁	T23060
62-13	VBT-131	II	貼付	貼付、ヘラ刺突		ミガキ		III-3	波状口縁	T22012
62-14	VBB-139	II	折返（RL）	結束1		ミガキ		III-2		6817
62-15	VBC-139	II	隆帯、ヘラ刺突、貼付			ミガキ		III-3	波状口縁	T23081
62-16	VBT-146	II	貼付・刺突	結束1（LR、RL）	結束1（LR、RL）	ミガキ		III-3		6828
62-17	VBC-139	II	LR押、刺突	結束1（LR・RL）		ミガキ		III-3		T22011
62-18	VBC-139	II	隆帯、縄側縁、円孔			ミガキ		III-3	波状口縁	T23009
62-19	VBT-146	II	突起、隆帯、LR押、貼付	結束1（LR、RL）、突起	結束1（LR、RL）	ミガキ		III-4	波状口縁	6790
62-20	VBT-146	II	貼付（ヘラ状工具）突起	RL、格（ヘラ状工具）	RL	ミガキ	ミガキ	III-4	注口部、孔（貫通、未貫通）	6770
63-1	VBT-146	II	貼付（ヘラ状工具）	RL、格（ヘラ状工具）	ケズリ、RL	ミガキ	ミガキ	III-4		6769
63-2	VBT-132	II	無文	RL、沈線		ミガキ		III-8	波状口縁	T22021
63-3	VBT-132	II	凹状沈線	LR、沈線		ミガキ		III-8	波状口縁	T22023
63-4	VBT-132	II	凹状沈線	LR？、沈線				III-8	波状口縁	T22022
63-5	VBT-133	II	凹状沈線	LR		ミガキ		III-8	波状口縁	T22020
63-6	VBT-133	II	折返口縁	RL		ミガキ		III-8		T22024
63-7	VBT-132	II	折返口縁	R単節1、沈線		ミガキ		III-8	波状口縁	T22025
63-8	VBT-131	II 下	無文	RL		ミガキ		III-8		T22026
63-9	VBT-133	II		RL、沈線		ミガキ		III-8		T22029
63-10	VBT-133	II	折返口縁	LR		ミガキ		III-9		T22073
63-11	VBT-133	II	折返口縁	LR、沈線		ミガキ		III-9	炭（外）	T22030
63-12	VBT-134	II	折返口縁	RL、沈線、竹管刺突		ミガキ		III-9	炭（外）	T22031
63-13	VBT-133	II	折返口縁	RL、沈線		ミガキ		III-9	炭（外）	T22032
63-14	VBT-132	II	折返口縁	RL、竹管刺突		ミガキ		III-9		T22034
63-15	VBT-135	II	無文（ミガキ？）	低隆帯、RL		ミガキ		III-9		T22041
63-16	VBT-134	II	無文	RL、刺突、沈線		ミガキ		III-9	炭（内）	T22036
63-17	VBT-135	II	無文	RL、沈線		ミガキ		III-9	炭（外）	T22038
63-18	VBT-134	II	無文	刺突、R単節1		ミガキ		III-9		T22035
63-19	VBT-135	II	無文	RL、沈線、竹管押圧		ミガキ		III-9		T22039
63-20	VBC-134	II	無文	RL、沈線、刺突		ミガキ		III-9		T23130
63-21	VBT-133	II	無文	竹管刺突		ミガキ		III-9		T22042
63-22	VBT-131	II	LR押			ミガキ		III-9		T22072
63-23	VBT-136	II	RL、沈線	RL、沈線		ミガキ		III-9	炭（内外）	T22027
63-24	VBT-133	II	無文	突起、RL、沈線		ミガキ		III-9	炭（内外）	T22044
63-25	VBT-133	II	RL、沈線	RL、沈線		ミガキ		III-9		T22046
63-26	VBT-136	II	LR	突起、RL、沈線、竹状		ミガキ		III-9	炭（内）	T22045
63-27	VBT-134	II		RL、沈線、竹管押状		ミガキ		III-9	炭（外）	T22047
63-28	VBT-131	II	突起（RL）、隆帯、RL	隆帯、縄側（沈線、LR）		ミガキ		III-10		T22060
63-29	VBT-126	II	折返口縁、刺突	LR、沈線、刺突		ミガキ		III-10		T22055
64-1	VBT-127	II	無文	LR、LRR、沈線、竹状		ミガキ		III-10		T22054
64-2	VBT-133	II	無文	沈線、LR、竹管刺突		ミガキ		III-10	炭（内）	T22062
64-3	VBT-128	II	無文	沈線、LR、刺突		ミガキ		III-10	ヒレ状突起（内面）	T22058
64-4	VBT-133	II	無文	沈線、RL		ミガキ		III-10	ヒレ状突起（内面）	T22057
64-5	VBT-127	II	ヒレ状隆帯、刺突	沈線		ミガキ		III-10	波状口縁	T23050
64-6	VBT-128	II	ヒレ状突起、刺突	突起、縄側、LR、刺突		ミガキ		III-10	波状口縁	T22049
64-7	VBT-127	II	ヒレ状突起（RL）、刺突	突起、縄側、RL、刺突		ミガキ		III-10	波状口縁	T22048
64-8	VBT-132	II	ヒレ状隆帯			ミガキ		III-10		T22053
64-9	VBT-128	II	ヒレ状隆帯（刺突）	LR、刺突		ミガキ		III-10	波状口縁、炭（内）	T22051
64-10	VBC-139	II		隆帯（沈線、RL）、羽状		ミガキ		III-10		T22067
64-11	VBT-127	II		突起（沈線、RL）		ミガキ		III-10		T22065
64-12	VBT-125	II			突起（LR、沈線）	ミガキ		III-10		T22063
64-13	VBT-126	II		隆帯（沈線、LR）、ヒラ状刺突				III-10		T22066

番号	出土地点	時位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
64-14	VIT-133	II		撚糸(LR, 沈線), 結節		ミガキ		III-10		TJ2064
64-15	VIT-126	II		0段多条LR, 貝(刺突)		ミガキ		IV-1		TJ2071
64-16	VIT-126	II		結(刺突), 沈線		ミガキ		IV-1		TJ2069
64-17	VIT-128	II		結(3a), 撚糸(RL, 沈線)		ミガキ		IV-1	炭(内)	TJ2070
64-18	VIT-135	II		隆帯, 橋状把手		ミガキ		III-11		TJ2080
64-19	VIT-125	II	R単節5			ミガキ		IV-2		TJ2078
64-20	VIT-126	II		結節(刺突), 斜線				III-11		TJ2082
64-21	VIT-133	II	LR	LR		ミガキ		III-11		TJ2076
64-22	VIT-130	II	折返口縁	RL		ミガキ		III-11	炭(外)	TJ2074
64-23	VIC-139	II				指ナデ(RL, RL)	台付	III-11		6832
64-24	VIT-133	II				LR	ミガキ	ミガキ	III-11	6813
64-25	VIT-126	II				LR	ミガキ	ミガキ	III-11	6777
64-26	VIT-133	II				RL	ミガキ	ナデ	III-11	6862
64-27	VIT-126	II				0段多条LR	ミガキ	ミガキ	III-11	6774
64-28	VIT-131	II 層上断				RL	ミガキ	ミガキ	III-11	6779
64-29	VIT-132	III				LR, ミガキ	ミガキ	ミガキ	III-11	6771
64-30	VIT-133	II				LR	ミガキ	指圧+ナデ	III-11	6861
64-31	VIT-126	II				LR	ミガキ	ナデ(一部ミガキ)	III-11	6782
64-32	VIT-128	II				LR, 結節, 沈線			III-11	6791
73-1	VIF-128	I	結(LR押)	RL			ミガキ		III-10	波状口縁	TJ1005
73-2	VID-139	I	結(LR押), 刺突	結束1(LR, RL)			ミガキ		III-3		TJ1009
73-3	VIR-130	I	橋曲状沈線				ミガキ		III-6	去様	TJ1011
73-4	VID-139	I	口唇RL原, 突起(結節)	RL貼付			ミガキ		III-4		TJ1010
73-5	VIQ-130	I	無文	RL単節1			ミガキ		III-8		TJ1015
73-6	VIT-127	カクラン2	R単節1、沈線				ミガキ		III-10	波状口縁, ヒレ状突起(円盤)	TJ1012
73-7	VIT-127	I	折返口縁(刺突)	結(RL, RL, RL, RL+RL)			ミガキ		III-10	波状口縁	TJ1013
73-8	VIT-127	カクラン2		R単節1、沈線			ミガキ		III-10		TJ1014
73-9	VIT-126	I		結節, 撚糸(RL, 沈線)			ミガキ		IV-1		TJ1017
73-10	VIF-129	I	隆沈線	磨消(沈線, LR)			ミガキ		IV-1	波状口縁	TJ1016
73-11	VIT-134	I	LR				ミガキ		III-11		TJ1018

平成 6 年度調査出土石器観察表

番号	出土地点	時位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
57-1	VIC-139	III	37	15	5	2.2	珪質頁岩	A a		TENN-ハ7-4806
57-2	VIT-127	III	(34)	14	5	(2.0)	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	TENN-ハ7-4796
57-3	VIT-134	III	(29)	15	5	(1.6)	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	TENN-ハ7-4801
57-4	VIF-135	III	37	16	8	3.5	珪質頁岩	A b		TENN-ハ7-4809
57-5	VIF-135	III	(38)	18	8	(4.3)	珪質頁岩	A b	アスファルト付着	TENN-ハ7-4808
57-6	VID-141	III	(30)	13	6	(2.4)	珪質頁岩	A b		TENN-ハ7-4802
57-7	VID-139	III	(31)	15	3	(1.3)	珪質頁岩	A b		TENN-ハ7-4810
57-8	VIF-135	III	36	15	8	3.8	珪質頁岩	A b		TENN-ハ7-4805
57-9	VID-139	III	34	22	7	3.4	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	TENN-ハ7-4804
57-10	VIK-146	III	19	15	4	0.6	珪質頁岩	A f	アスファルト付着	TENN-ハ7-4817
57-11	VIG-139	III	56	63	10	24.8	珪質頁岩	C c	光沢有	TENN-ハ7-4895
57-12	VID-139	III	68	26	8	10.7	珪質頁岩	C a	光沢有	TENN-ハ7-4885
57-13	VIT-132	III	75	37	13	25.2	珪質頁岩	C a	光沢有	TENN-ハ7-4878
57-14	VIT-130	III	104	40	23	87.3	珪質頁岩	E a	光沢有	TENN-ハ7-4799
58-1	VIF-135	III	46	30	9	6.7	珪質頁岩	D b		TENN-ハ7-4807
58-2	VIT-132	III	(41)	13	6	(3.0)	珪質頁岩	D d	アスファルト付着	TENN-ハ7-4815
58-3	VIF-136	III	45	25	10	9.5	珪質頁岩	G a		TENN-ハ7-4820
58-4	VIT-132	III	43	20	9	6.5	珪質頁岩	G a		TENN-ハ7-4879
58-5	VIF-137	III	35	25	11	6.7	珪質頁岩	G a		TENN-ハ7-4811
58-6	VID-139	III	(34)	21	6	(4.0)	珪質頁岩	G a		TENN-ハ7-4805
58-7	VIT-129	III	35	12	7	2.3	黒曜石	G c	分析番号81007 (621)	TENN-ハ7-4797
58-8	VID-142	III	23	43	10	3.1	珪質頁岩	R		TENN-ハ7-4881
58-9	VIT-130	III	13	18	5	0.8	黒曜石	G c	分析番号81008 (622)	TENN-ハ7-4800
58-10	VIT-128	III	12	25	8	5.0	珪質頁岩	R		TENN-ハ7-4882
58-11	VIT-129	III	68	22	11	30.1	緑色片岩	H a	両刃	TENN-ハ7-4798
58-12	VID-139	III	100	32	14	68.6	緑色片岩	H a	両刃	TENN-ハ7-4806
58-13	VIC-139	III	(54)	(42)	(19)	(60.2)	閃緑岩	H a		TENN-ハ7-4803
59-1	VIF-136	III	145	76	53	757.9	安山岩	I b・I c	蛸十蛸脚	TENN-レキ-3732

番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
59-2	YBH-132	Ⅲ	78	51	32	232.4	安山岩	Ⅰb・Ⅰc・Ha		TENN-ハタ-3328
59-3	YBH-136	Ⅲ	(58)	93	24	(198.6)	流紋岩	L	盛土遺構	TENN-レキ-3733
59-4	YBF-136	Ⅲ	90	133	44	638.4	安山岩	L	盛土遺構	TENN-レキ-3734
59-5	YBG-130	Ⅱ	139	74	39	517.1	安山岩	Q		TENN-レキ-3268
59-6	YBE-139	Ⅲ	62	106	35	180.8	凝灰岩	Q		TENN-レキ-3727
59-7	YBH-133	Ⅲ	(88)	49	(32)	(216.8)	流紋岩	Ua		TENN-レキ-3729
59-8	YBT-141	Ⅱ	86	128	34	493.0	安山岩	Q		TENN-レキ-3256
65-1	YBT-135	Ⅱ	34	16	5	2.1	緑質頁岩	Ab	アスファルト付着	TENN-ハタ-4739
65-2	YBT-134	Ⅱ	(25)	15	6	(1.3)	珪質頁岩	Ab	アスファルト付着	TENN-ハタ-4737
65-3	YBC-139	Ⅱ	(50)	13	6	(3.3)	珪質頁岩	Ab・Ac	アスファルト付着	TENN-ハタ-4788
65-4	YBS-139	Ⅱ	(33)	14	5	(2.5)	珪質頁岩	Ad		TENN-ハタ-4719
65-5	YBT-135	Ⅱ	34	(22)	4	(1.5)	珪質頁岩	Af		TENN-ハタ-4738
65-6	YBT-131	Ⅱ	33	14	9	3.0	黒曜石	Af	分析番号8800 (168)	TENN-ハタ-4884
65-7	YBT-136	Ⅱ	20	14	3	0.6	玉髄質頁岩	Af		TENN-ハタ-4746
65-8	YBS-139	Ⅱ	66	17	12	7.4	珪質頁岩	Ca		TENN-ハタ-4791
65-9	YBD-139	Ⅱ	59	83	22	67.7	珪質頁岩	Cb	光沢有	TENN-ハタ-4790
65-10	YBB-139	Ⅱ	79	33	20	50.6	緑質頁岩	Ea		TENN-ハタ-4774
65-11	YBT-132	Ⅱ	110	48	23	114.2	珪質頁岩	Eb		TENN-ハタ-4730
66-1	YBT-136	Ⅱ	66	34	13	21.2	珪質頁岩	Eb		TENN-ハタ-4880
66-2	YBT-136	Ⅱ	39	30	7	6.2	玉髄質頁岩	Eb		TENN-ハタ-4745
66-3	YBT-137	Ⅱ	44	27	11	8.2	緑質頁岩	Eb		TENN-ハタ-4749
66-4	YBC-139	Ⅱ	44	32	9	9.0	珪質頁岩	Eb		TENN-ハタ-4785
66-5	YBT-131	Ⅱ	42	45	15	31.1	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4726
66-6	YBD-139	Ⅱ	46	24	10	7.6	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4792
66-7	YBD-139	Ⅱ	43	24	10	8.9	緑質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4791
66-8	YBT-142	Ⅱ	44	24	14	11.8	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4762
66-9	YBT-128	Ⅱ	49	33	11	14.3	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4723
66-10	YBT-134	Ⅱ	46	28	10	12.1	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4735
66-11	YBT-136	Ⅱ	37	19	8	4.5	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4742
66-12	YBT-126	Ⅱ	(34)	20	8	(4.3)	緑質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4881
66-13	YBT-129	Ⅱ	62	32	15	21.6	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4725
66-14	YBT-132	Ⅱ	42	23	11	8.0	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4732
67-1	YBH-139	Ⅱ	103	55	19	122.8	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4773
67-2	YBD-139	Ⅱ	73	24	13	23.4	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4887
67-3	YBT-132	Ⅱ	47	19	9	6.6	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4731
67-4	YBT-127	Ⅱ	66	65	14	51.4	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4721
67-5	YBT-134	Ⅱ	65	30	14	19.6	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4736
67-6	YBT-132	Ⅱ	(26)	20	7	(3.4)	黒曜石	Gb	玉髄質頁岩8806 8870	TENN-ハタ-4733
67-7	YBB-139	Ⅱ	94	43	17	57.4	緑質頁岩	Ga	両刃	TENN-ハタ-4775
68-1	YBT-136	Ⅱ	(57)	(53)	(22)	(54.1)	凝緑岩	Ha		TENN-ハタ-4741
68-2	YBT-141	Ⅱ	(57)	(53)	(16)	(57.1)	黒色片岩	Ha		TENN-ハタ-4761
68-3	YBG-130	Ⅱ	130	45	26	254.6	緑色片岩	Ha	刃部再加工	TENN-ハタ-4793
68-4	YBF-139	Ⅱ	73	84	40	258.0	頁　岩	Pa		TENN-レキ-3767
69-1	YBT-131	Ⅱ	66	101	54	443.6	頁　岩	Pa		TENN-レキ-3742
70-1	YBT-128	Ⅱ	110	88	42	541.5	安山岩	Ia・Ib		TENN-レキ-3340
70-2	YBT-126	Ⅱ	142	76	47	662.2	安山岩	Ia		TENN-レキ-3338
70-3	YBT-127	Ⅱ	112	78	32	428.9	流紋岩	Ia・Ib・Ic		TENN-レキ-3739
70-4	YBT-141	Ⅱ	72	(69)	38	(268.2)	凝灰岩	Ib・Ic		TENN-レキ-3755
70-5	YBT-138	Ⅱ	(75)	(53)	(36)	(196.0)	凝灰岩	Ib・Ha		TENN-レキ-3252
70-6	YBD-140	Ⅱ	104	46	28	182.4	安山岩	Ib・Ha		TENN-レキ-3264
70-7	YBK-146	Ⅱ	62	112	36	399.6	安山岩	O		TENN-レキ-3770
74-1	YBT-137	Ⅰ	(29)	19	5	(2.0)	玉髄質頁岩	Aa		TENN-ハタ-4695
74-2	YBT-136	Ⅰ	(38)	17	8	(4.9)	珪質頁岩	Ab		TENN-ハタ-4691
74-3	YBT-134	Ⅰ	(27)	14	5	(1.7)	緑質頁岩	Ac		TENN-ハタ-4687
74-4	YBT-137	Ⅰ	(30)	16	7	(2.1)	珪質頁岩	Ac		TENN-ハタ-4696
74-5	YBD-139	Ⅰ	42	28	11	6.3	珪質頁岩	Ac		TENN-ハタ-4716
74-6	YBK-146	Ⅰ	51	19	10	7.8	珪質頁岩	Da		TENN-ハタ-4891
74-7	YBN-139	Ⅰ	47	33	8	6.8	珪質頁岩	Db		TENN-ハタ-4718
74-8	YBT-137	Ⅰ	31	30	9	4.7	珪質頁岩	Db		TENN-ハタ-4693
74-9	YBT-137	Ⅰ	47	19	12	7.0	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4694
74-10	YBD-139	Ⅰ	52	60	14	34.9	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4713
74-11	YBA-139	Ⅰ	20	27	6	2.5	黒曜石	Gb	分析番号81010 (624)	TENN-ハタ-4707
74-12	YBT-126	Ⅰ	49	22	12	11.4	珪質頁岩	Ga		TENN-ハタ-4683
74-13	YBT-134	Ⅰ	40	22	11	11.8	鉄石英	Ga		TENN-ハタ-4686
74-14	YBT-135	Ⅰ	18	20	7	1.8	黒曜石	Pc	(8334)	TENN-ハタ-4689
74-15	YBE-139	Ⅰ	24	20	7	1.4	黒曜石	Pc	分析番号81011 (625)	TENN-ハタ-4708
74-16	YBT-139	Ⅰ	71	36	16	59.1	緑色片岩	Ha		TENN-ハタ-4698

平成６年度調査出土土製品・石製品観察表

番号	出土地点	層位	計測値（cm）			文様		焼成	備考	整理番号
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面			
60-1	第Ⅱ-133	Ⅲ	(37)	(25)	(14)	短縄線、繊沈線	短縄線、繊沈線	土師	胴部	10226
60-2	第S-139	Ⅲ	(34)	(34)	(19)	細沈線、短縄線	繊沈線、短縄線	土師	胴部（下半）	10215
60-3	第D-148	Ⅲ	(42)	(36)	(21)	L押、L押（馬陸形？）	L押	十師	胴部、胎土に繊維混入	10294
60-4	第F-139	Ⅲ	(35)	(44)	(16)	繊沈線、短縄線	繊沈線、短縄線、円線	土師	胴部、粘土を折りたたんだ痕跡	10617
60-5	第D-139	Ⅲ	(29)	(40)	(15)	沈線	沈線	土師	底部、周囲に各２つの貫通孔、輪土に繊維混入	980
60-6	第F-139	Ⅲ	(88)	(68)	(28)	L押	L押	土師	胴部最大径内側に段を有し内側全体指押さえ、底部欠損	10222
60-7	第E-139	Ⅲ	(76)	(80)	(26)	L・R押、LR押（馬陸形）	L・R押	十師	胴部、胎土に繊維混入	10219
60-8	第C-139	Ⅲ	(45)	(56)	(23)	L・R押（側面R押）	L・R押（側面R押）	土師	胴部、胎土に繊維混入	10619
60-9	第D-148	Ⅲ	(55)	(67)	(22)	L押、L押（馬陸形）	L押、円縄	土師	胴部、胎土に繊維混入	10288
60-10	第E-139	Ⅲ	(43)	(47)	(25)	L・R押、R押（馬陸形）	L・R押、円縄	土師	胴部	10224
60-11	第H-139	Ⅲ	(75)	(51)	(17)	L押	L押	十師	胴部、接合面からの剥落	10223
60-12	第D-143	Ⅲ	(91)	(89)	(20)	R押	L・R押	土師	胴部	10230
60-13	第D-143	Ⅲ	(68)	(61)	(19)	R押	R押	土師	胴部、胎土に繊維混入	10218
60-14	第R-130	Ⅲ	(64)	(78)	(18)	剥落	刺突	土師	脚部	10341
60-15	第R-130	Ⅲ	(81)	(61)	(27)	L押	L押	土師	胴部、中心に貫通孔	10181
60-16	第S-130	Ⅲ	(40)	(33)	(18)	刺突	無文	十師	胴部（隆帯の可能性有）、中心に貫通孔	10146
60-17	第T-132	Ⅲ	(50)	(43)	(17)	L・R押	底文（刷毛？指ナデ）	土師	脚部	10091
60-18	第S-130	Ⅲ	(30)	(38)	(13)	刺突	上師	脚部、粘土に繊維混入	10199	
61-1	第C-139	Ⅲ	(43)	(47)	(13)	沈線	沈線	土師	脚部	10227
61-2	第R-130	Ⅲ	(58)	(47)	(13)	沈線	沈線	十師	胴部、胎土に石英粒・小石混入	656
61-3	第I-139	Ⅲ	(41)	(43)	(15)	沈線	底文	土師	脚部	10620
61-4	第F-137	Ⅲ	(41)	(78)	(21)	沈線	沈線	上師	胴～脚部	144
61-5	第T-129	Ⅲ	(41)	(32)	(18)	沈線	沈線	土師	脚部？	366
61-6	第G-139	Ⅲ	(28)	(46)	(17)	無文	無文	土師	脚部、裏面に炭素吸着	10221
71-1	第T-125	Ⅱ	(61)	(45)	(20)	押引縄沈線、短縄線	押引縄沈線、短縄線、円線	十師	胴部、胎土に繊維混入	10616
71-2	第T-140	Ⅱ	(47)	(47)	(16)	R押	R押、円縄	上師	胴部	10122
71-3	第T-137	Ⅱ	(67)	(69)	(19)	L・R押	L・R押、円縄	上師	胴部、ヘソ下に下書き痕跡	675
71-4	第H-139	Ⅱ	(44)	(43)	(13)	L・R押	L・R押	土師	胴部	10618
71-5	第T-136	Ⅱ	(50)	(65)	(18)	結束第2種（L）押	L押	十師	胴部	10621
71-6	第A-139	Ⅱ	(43)	(39)	(16)	沈線	沈線	土師	胴部、中心に貫通孔	10220
71-7	第T-131	Ⅱ	(31)	(55)	(15)	L押	L押	上師	脚部	10217
71-8	第T-131	Ⅱ	(74)	(53)	(25)	L押	L押	土師	脚部	10334
71-9	第T-145	Ⅱ	(41)	(48)	(20)	無文	無文	土師	脚部	316
71-10	第T-130	Ⅱ	(31)	(30)	(13)	L押	無文	十師？	天面指痕	10229
75-1	第T-126	表土	(103)	(85)	20	刺突、沈線	刺突、円線	土師	頂～脚部、頂部部に貫通孔２	10548
75-2	第T-143	表土	(45)	(34)	(12)	剥落	縄沈線、短縄線、円線	上師	胴部	758
75-3	第F-132	表土	(40)	(35)	(15)	短縄線、沈線	沈線、円線	土師	胴部	10339
75-4	第T-127	表土	(36)	(34)	(8)	無文	無文	土師	脚部	10614
75-5	第T-148	表土	(56)	(41)	(18)	L押	L押、L押（馬陸形）	十師	脚部、側面に刺突	330
75-6	第L-139	表土	(45)	(55)	(23)	L押、短縄線	L押、短縄線、円線	上師	脚部、側面L押、短縄線	10615
75-7	第T-135	表土	(63)	(50)	(19)	沈線、LR	LR	上師	胴部、壁画	10231
75-8	第T-127	表土	(81)	(76)	(18)	刺突（円形）	刺突（円形）	土師	胴部	142
75-9	第T-127	表土	(54)	(46)	(40)	沈線	底文	十師？	脚部？底部に沈線	7278

番号	出土地点	出土層位	外面文様		内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
61-7	第D-141	Ⅲ	無文	無文			ミニチュア		5358
61-8	第F-139	Ⅲ			LR	ミガキ	ミガキ	ミニチュア	胎土に繊維混入	5360
61-9	第T-125	Ⅲ			RL		板目痕	ミニチュア		2252
61-10	第T-129	Ⅲ			無文		ナデ？	ミニチュア		5359
61-11	第T-130	Ⅲ			LR、沈線		無文	ミニチュア		1767
61-12	第Q-120	Ⅲ			RL		無文	ミニチュア		2200
61-13	第T-133	Ⅲ	無文	無文	無文			ミニチュア	台付	1171
61-14	第F-136	Ⅲ			無文			ミニチュア	台付	1856
61-15	第T-133	Ⅲ			無文		底文	ミニチュア	台付、底部格円形気味	2254
71-11	第T-131	Ⅱ	LR	LR	底文	指頭	底文	ミニチュア		2253
71-12	第B-139	Ⅱ			RL		無文	ミニチュア		2256
71-13	第T-126	Ⅱ			RL		無文	ミニチュア		5361
71-14	第T-133	Ⅱ			L			ミニチュア		5357
71-15	第T-136	Ⅱ	無文	無文	無文		無文	ミニチュア	内面格十目接合痕明瞭	2259
71-16	第T-144	Ⅱ			沈線？		ミガキ	ミニチュア	胎土に繊維混入	2257
71-17	第T-132	Ⅱ					ミガキ	ミニチュア	台付、胎土に繊維混入	2258
71-18	第T-132	Ⅱ						ミニチュア	台付（台部無文）	5362
75-10	第T-134	表土			RL、ミガキ	ミガキ	無文	ミニチュア	台付、内面接合痕（指ナ）	1994
75-11	第T-129	表土			無文		無文	ミニチュア	底部にやや丸み	1847

番号	出土地点	層位	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	表面	裏面	種類	備　考	整理番号
61-16	VIT-127	III	(57)	(60)	(10)	(34.2)	擦滅	摩滅	円盤状土製品	土器片利用、穿孔、胎土に微細遺人	1299
61-17	VIID-142	III	43	42	13	21.9	摩滅	無文	円盤状土製品	土器片利用、穿孔、胎土に微細遺人	3940
61-18	VIIL-139	III	27	28	10	7.7	無文	無文	円盤状土製品	土器の漆付決器の可能性あり	3901
61-19	VIIF-135	III	(40)	(24)	(14)	(11.9)	ミガキ	ミガキ	石斧形土製品	破断面擦滅	10225
61-20	VIII-139	III	72	96	44	249.8	ミガキ	ミガキ	土笛	側面に上押、融打痕？あり	7101
71-19	VIB・D-139	II	(20)	(20)	(13)	(3.7)	ミガキ	無文	土製垂飾		7275
71-20	VIT-140	II	(51)	(54)	(9)	(24.5)	多結晶粘土	ミガキ	円盤状土製品	擦滅、胎土に微細混入	7276
71-21	VIT-125	II	37	30	9	7.3	沈線	無文	三角形土製品		7274
71-22	VIC-140	II	(36)	(29)	(13)	(8.4)	刺突	無文	三角形土製品		3826
71-23	VIT-131	II	(17)	(19)	(9)	(1.6)	無文	無文	クルミ形土製品		4033
71-24	VIT-136	II	25	(19)	(11)	(3.2)	無文	無文	不明土製品	耳たお形	5355
71-25	VIC-139	II	31	27	17	11.9	無文	無文	不明土製品	半円筒状、擦痕	7292
71-26	VIC-139	II	47	46	43	78.8	無文	無文	焼成粘土塊	胎土に小石混入	7266
75-12	VIT-135	表土	25	25	24	8.9	刺突	刺突	土製垂飾		1653
75-13	VIT-128	表土	(34)	(18)	27	(11.3)	刺突	刺突	土製耳飾り		1657
75-14	VIT-146	表土	(36)	(41)	(15)	(17.4)	刺突	無文	三角形土製品	側面に刺突	7277
75-15	VIT-142	表土	(42)	(57)	(17)	(30.0)	ミガキ	無文	三角形土製品	側面に沈線	7273

番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分項	備　考	整理番号
61-21	VIT-132	III	(37)	(49)	(11)	(10.1)	頁岩	石製垂飾		3711
61-22	VIQ-130	III	(40)	(36)	(6)	(9.1)	頁岩	円盤状石製品	擦痕、貫通孔	4327
61-23	VIT-130	III	49	28	9	9.4	細粒凝灰岩	石製垂飾	明緑灰色	7036
61-24	VIF-135	III	27	24	24	14.7	凝灰質頁岩	有孔石製品未製品？		3763
61-25	VIR-130	III	78	78	58	459.2	チャート	大珠未製品？	結晶・ほぼ、ガラス質	7020
61-26	VIR-130	III	(18)	(12)	(6)	(1.2)	頁岩	石製垂飾未製品？	明緑灰色	4316
61-27	VIT-131	II	(54)	(55)	(25)	(22.1)	凝灰質砂岩	石製容器？	擦痕・融打痕	4325
72-1	VIT-134	II	51	55	41	98.9	頁岩	大珠（石製未製）		4226
72-2	VIT-136	II	22	24	14	5.1	頁岩	勾玉（石製未製）		7027
72-3	VIT-132	II	(35)	35	10	(3.0)	輝石	石製垂飾		2866
72-4	VIT-132	II	72	54	16	10.3	輝石	石製垂飾		2870
72-5	VIC-139	II	(27)	(51)	(4)	(8.8)	粘板岩	石製垂飾	擦痕、表面に布目痕跡	4326
72-6	VIT-146	II	39	28	18	26.9	ビスイ	石製垂飾未製品		7034
72-7	VIT-136	II	(48)	(66)	(27)	(15.0)	輝石	不明石製品	磨石状、自然面を残す	2885
72-8	VIT-125	II	(56)	(32)	(21)	(38.0)	凝灰質輝石	円盤状石製品	表面に擦痕	7030
72-9	VIT-139	II	(77)	(43)	(19)	(28.6)	輝石	円盤状石製品	側面・敲打面擦痕	4034
72-10	VIT-136	II	28	12	4	2.1	緑泥片岩	石斧形石製品		4362
72-11	VIT-135	II	51	28	10	14.1	シルト岩	石斧形石製品		4344
72-12	VIT-134	II	(55)	(34)	(11)	(27.8)	シルト岩	不明石製品	擦痕	4328
72-13	VIC-139	II	(39)	(44)	(14)	(11.4)	凝灰質砂岩	石製容器？		4329
72-14	VIT-133	II	(37)	(34)	(6)	(4.6)	凝灰岩	不明石製品	二次的、表面に布目痕跡残存	4359
72-15	VIB-139	III	52	60	22	58.1	シルト岩	不明石製品	敲石	7029
72-16	VIT-143	II	(70)	(94)	(27)	(139.6)	凝灰質砂岩	不明石製品	敲痕、敲打・磨痕跡著しい	7024
72-17	VIT-132	II	(56)	(78)	(24)	(65.0)	凝灰質砂岩	不明石製品	敲痕跡著しい、磨痕跡	4317
75-16	VIT-144	表土	111	43	29	164.6	凝灰岩	石斧形石製品	擦痕	4361
75-17	VIT-137	表土	(32)	(22)	(13)	(6.7)	頁岩	石製垂飾未製品？	赤褐色斑点状混入、粗面大り	3695
75-18	VIT-145	表土	42	35	15	(14.5)	凝灰岩	不明石製品	面に擦痕	4360

第Ⅲ章　調査の成果と課題

第18・21次・24次調査区は遺跡南西側の丘陵平坦部とその西側の斜面に位置し、三内丸山遺跡で最も標高の高い場所にあたる。平成６年度の試掘調査によって西盛土や埋設土器群が確認された場所の南側にあたる。

主な成果と課題は以下のとおりである。

① 確認した遺構は、竪穴住居跡26棟、土坑78基、土器埋設遺構53基、掘立柱建物跡１棟、ピット13基である。また、西盛土の南側への広がりを確認した。これにより、集落南西側での遺構配置が明らかになった。

② 西側斜面上で土坑墓列を確認した。土坑墓の数は15基である。平面形は長楕円形で長軸が北東を向き、丘陵平坦部の西側縁辺に沿って南東から北西へ約40m伸びている。時期は中期中葉かそれ以前と考えられる。

③ 土坑墓列の西側斜面では、平面形が円形又は不整円形の土坑が密集しているのを確認した。大型の１基を精査したところ、袋状土坑であることが判明した。

④ 土坑群の北側、土坑墓列の西側で１間×２間の掘立柱建物跡を確認した。長軸は北西を向き、柱間は桁方向、梁方向とも約２m40cmである。

⑤ 丘陵平坦部（土坑墓列の東側）で東西約22m、南北約15mにわたり、道路跡を確認した。道路跡の特徴として、人為的に土地を削平した上にローム・ブロックが分布していることがあげられるが、この地点でも第Ⅴ・Ⅵ層が欠如し、第Ⅶ層直上に第Ⅱ・Ⅲ層が堆積し、ローム・ブロックが分布していることを確認した。

⑥ 道路跡の東側でも埋設土器遺構を中心とする墓域が確認された。調査区北側に集中している。平成６年の試掘調査の際に西盛土の中に埋設土器遺構が集中する場所が検出されていることから、これらと連続する可能性がある。

西盛土と道路跡・住居跡・埋設土器遺構等との関係については、詳細な時期や内容について明確にできなかった。平成17年度に策定した第二期発掘調査計画では、西盛土の調査を予定しているため、これらの課題について今後の調査によって明らかになることを期待したい。

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧（県教委発行分）

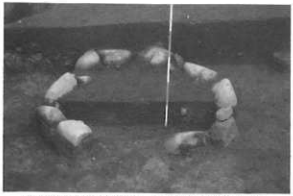
年　度	書　名	県埋蔵文化財調査	内　容
昭和51	近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ） 三内丸山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書 ―青森県総合運動公園建設関係発掘調査―	第33集	昭和51年度に調査した県総合運動公園西駐車場地区の調査報告
昭和53	近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ） ―青森県総合運動公園建設関係発掘調査―	第47集	昭和52年度に調査した近野地区の調査報告
平成５	三内丸山（2）遺跡Ⅱ ―県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ―	第157集	平成４年度に調査した旧野球場建設予定地３基側スタント地区検出遺構
平成５	三内丸山（2）遺跡Ⅲ ―県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ―	第166集	平成４～５年度の調査概要報告
平成６	三内丸山（2）遺跡Ⅳ	第185集	平成６年度に調査した旧サッカー場建設予定地の試掘調査報告
平成７	三内丸山遺跡Ⅴ ―第１次～４次調査報告書―	第204集	平成７年度に実施した第１次～４次調査の報告
平成７	三内丸山遺跡Ⅵ	第205集	平成４～７年度の調査概要報告
平成８	近野遺跡Ⅴ ―県営運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試掘調査報告Ⅰ―	第216集	平成６～７年度に調査した近野地区の試掘調査報告
平成８	三内丸山遺跡Ⅶ ―第５次～７次調査概要報告書―	第229集	平成８年度に実施した第５次～７次調査の概要報告
平成８	三内丸山遺跡Ⅷ ―第６鉄塔地区調査報告書Ⅰ―	第230集	平成４～５年度に調査した第６鉄塔地区の検出遺構及び第Ⅲ～Ⅴc層の調査報告
平成９	三内丸山遺跡Ⅸ ―第６鉄塔地区調査報告書２―	第249集	平成４～５年度に調査した第６鉄塔地区の第Ⅵa・Ⅵb層及びⅠa層火山灰分析の調査報告
平成９	三内丸山遺跡Ⅹ ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書２―	第250集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成９	三内丸山遺跡ⅩⅠ ―第５次～７次調査報告書―	第251集	平成８年度に実施した第５次～７次調査の報告
平成９	三内丸山遺跡ⅩⅡ ―第８次～10次調査概要報告書―	第252集	平成９年度に実施した第８次～10次調査の概要報告
平成10	三内丸山遺跡ⅩⅢ ―第11次～13次調査概要報告書―	第265集	平成10年度に実施した第11次～13次調査の概要報告
平成11	三内丸山遺跡ⅩⅣ ―第14次～16次調査概要報告書―	第282集	平成11年度に実施した第14次～16次調査の概要報告
平成11	三内丸山遺跡ⅩⅤ ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書３―	第283集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡ⅩⅥ ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書４― 第６鉄塔地区調査報告書３	第288集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告 平成４～５年度に調査した第６鉄塔地区の遺構外遺物に関する調査報告
平成12	三内丸山遺跡ⅩⅦ ―第17次～19次調査概要報告書―	第289集	平成12年度に実施した第17次～19次調査の概要報告
平成12	三内丸山遺跡ⅩⅧ ―第20次～22次調査概要報告書―	第309集	平成13年度に実施した第20次～22次調査の概要報告
平成13	三内丸山遺跡ⅩⅨ ―第８次・９次調査報告書―	第337集	平成９年度に実施した第８次・９次調査の報告
平成13	三内丸山遺跡ⅩⅩ ―第23次～25次調査概要報告書―	第338集	平成14年度に実施した第23次～25次調査の概要報告
平成14	三内丸山遺跡21 ―第13次・14次・17次・20次調査報告書―	第361集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の報告
平成14	三内丸山遺跡22 ―第13次・14次・17次・20次調査報告書―	第362集	平成14・15年度に実施した第23次・26次調査の報告
平成15	三内丸山遺跡23 ―第23・26次調査報告書―	第381集	平成11・13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の遺構外遺物に関する報告
平成15	三内丸山遺跡24 ―第13・14・17・20次調査報告書―	第382集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器・土坑に関する調査報告
平成15	三内丸山遺跡25 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書５ 埋設土器編―	第383集	平成12・13・14年度に実施した第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査の報告
平成16	三内丸山遺跡26 ―第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査報告書―	第404集	平成９・10・11・13年度に実施した第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査の報告
平成16	三内丸山遺跡27 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書６ 土坑編―	第405集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器・土坑に関する調査報告
平成16	三内丸山遺跡28 ―第27・28次調査報告書―	第406集	平成16年度に実施した第27次調査の概要報告・第28次調査の報告
平成17	三内丸山遺跡29 ―第19・25・27・29次調査報告書―	第422集	平成12・14・16・17年度に実施した第19・25・27・29次調査の報告
平成17	三内丸山遺跡30 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書７―	第423集	平成12・14・16・17年度に実施した第19・25・27・29次調査の報告
平成18	三内丸山遺跡31 ―第18・21・24次調査報告書―	第443集	平成12・13・14年度に実施した第18・21・24次調査の報告

18次調査区空撮（北から）

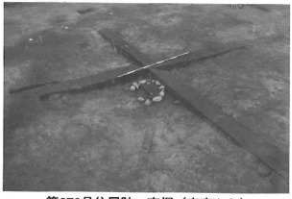
24次調査区遠景（東から）

第679号住居跡　土層断面（東から）

第679号住居跡　土層断面（南から）



第679号住居跡炉内　土層断面（南から）



第679号住居跡　完掘（南東から）

第680号住居跡炉内　土層断面（南から）

第680号住居跡　完掘（東から）

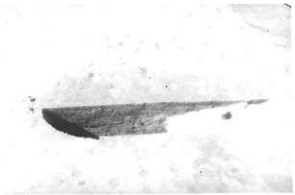
写真1　第18・21・24次調査

第689号住居跡　確認（南から）

第690号住居跡　確認（北西から）

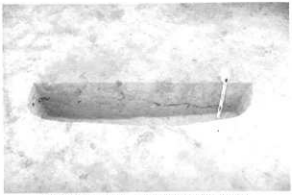
第1226号土坑　土層断面（南から）

第1228号土坑　半截（南東から）



第1231号土坑　半截（南から）

第1235号土坑　半截（南東から）



第1285号土坑　土層断面（南から）

第1288号土坑　確認（西から）

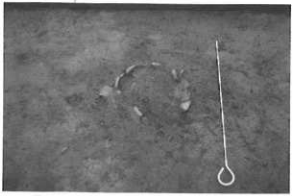
写真２　第18・21・24次調査

第1356号土坑　確認（南西から）

第1357号土坑　確認（南から）

第1356号土坑　土層断面（北東から）

土坑群確認状況（西から）



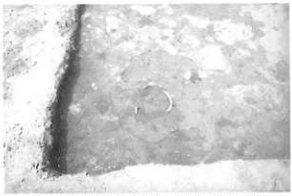
第828号土器埋設遺構　確認（南から）

第827号土器埋設遺構（西から）

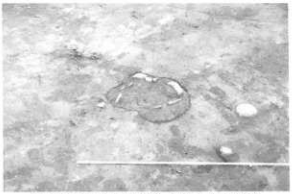
第831号土器埋設遺構　確認（東から）

第832号土器埋設遺構　確認（西から）

写真３　第18・21・24次調査



第833号土器埋設遺構　確認（東から）

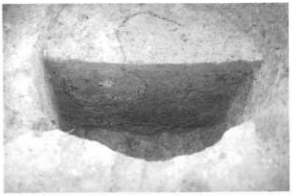


第836号土器埋設遺構　確認（西から）

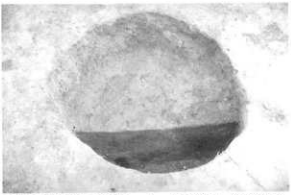
第838号土器埋設遺構　確認（南東から）

第840号土器埋設遺構　確認（北から）

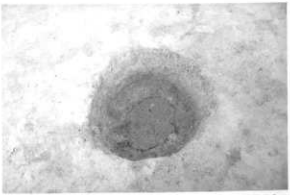
第60号掘立　完掘（北西から）



第60号掘立13699ピット　土層断面（南から）



第60号掘立13700ピット　土層断面（北から）



第60号掘立13701ピット　柱痕確認（南から）

写真４　第18・21・24次調査

第60号掘立13704ピット　土層断面（南から）

第270号溝　完掘（南から）

道路跡（Ⅷ B－154他：北から）

道路跡　第Ⅵ層土確認状況（西から）

道路跡のロームブロック（Ⅷ A－154他：北から）

道路跡による段差（Ⅷ D・E－154：北西から）

道路跡による第Ⅶ層の露出（Ⅷ J－153：北から）

包含層断面（Ⅶ F－161：西から）

写真５　第18・21・24次調査

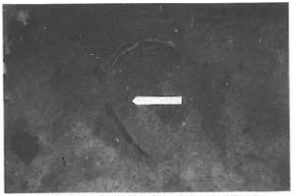
調査区南西側包含層　土層断面（北から）

包含層断面（ⅧG－161：北から）

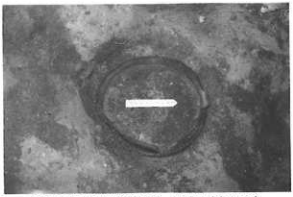
21次調査作業風景

24次調査　作業風景

第522号住居跡　床面・炉（西から）



第780号土器埋設遺構　確認（西から）



第786号土器埋設遺構　確認（東から）

第787号土器埋設遺構　確認（東から）

写真６　第18・21・24次調査

ⅧF－136付近埋設土器確認状況（南から）

ⅧF－125付近遺構確認状況（北から）

盛土遺構（ⅧC～J－139：東から）

盛土遺構（～ⅧJ－139：西から）

写真７　平成６年度試掘調査

盛土遺構　断面（Ⅷ B・C－139：北から）

盛土遺構　断面（Ⅷ F －139：北から）

盛土遺構　断面（Ⅷ F ・G－139：北から）

盛土遺構　断面（Ⅷ G －139：北から）

盛土遺構　土器出土状況（Ⅷ C －139：南から）

包含層断面（Ⅷ A －146・147：西から）

写真８　平成６年度試掘調査

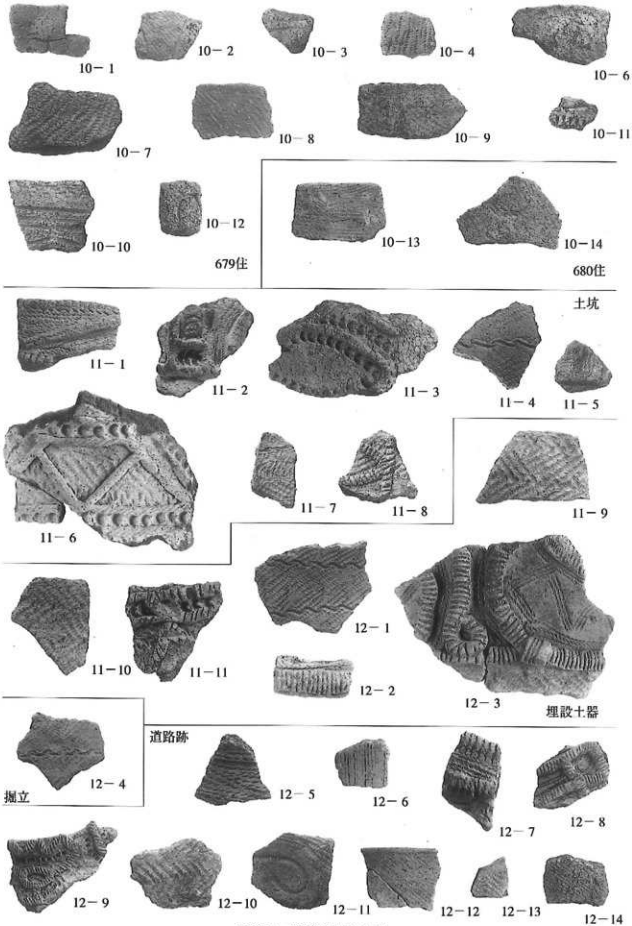

10－1
10－2
10－3
10－4
10－6
10－7
10－8
10－9
10－11
10－10
10－12
679住
10－13
10－14
680住
土坑
11－1
11－2
11－3
11－4
11－5
11－6
11－7
11－8
11－9
11－10
11－11
12－1
12－2
12－3
埋設土器
遺路跡
掘立
12－4
12－5
12－6
12－7
12－8
12－9
12－10
12－11
12－12
12－13
12－14

写真９　遺構内出土土器

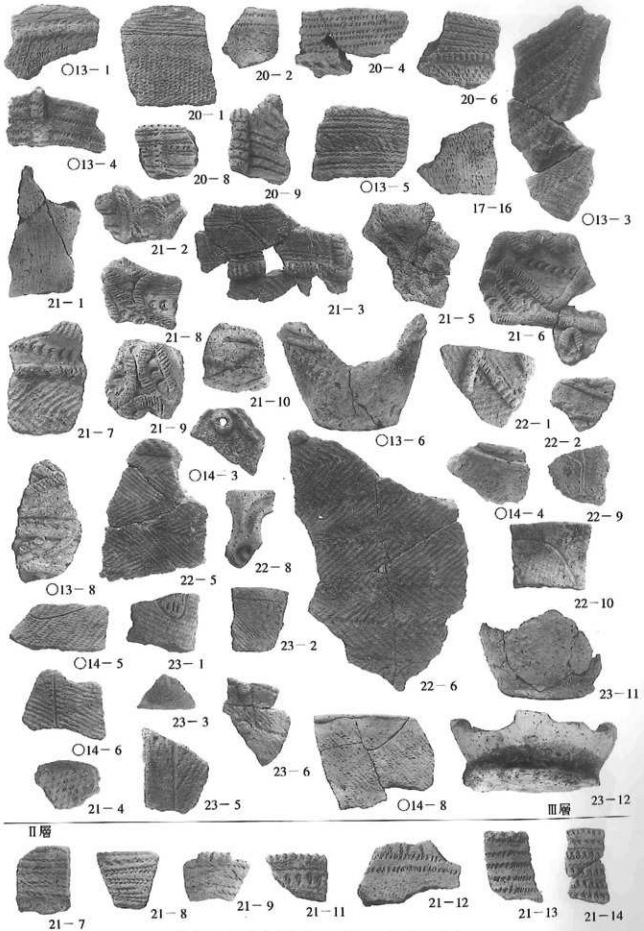
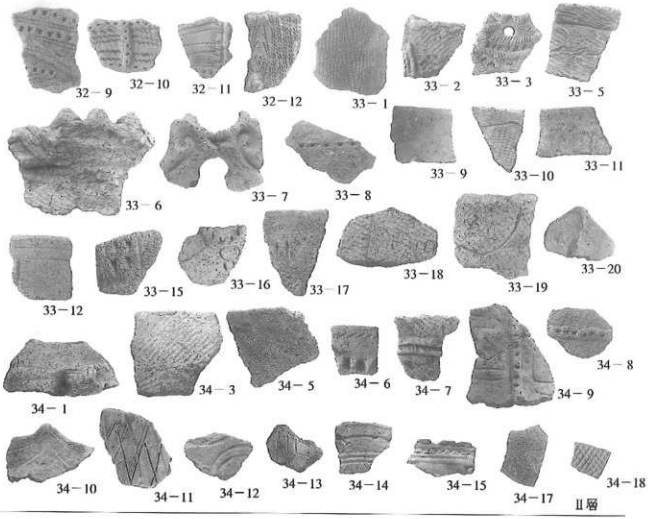


写真10　盛土遺構（○）・遺構外出土土器（1）



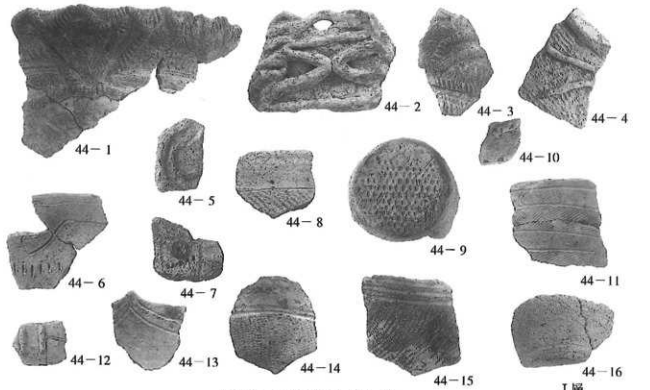


写真11　遺構外出土土器（2）

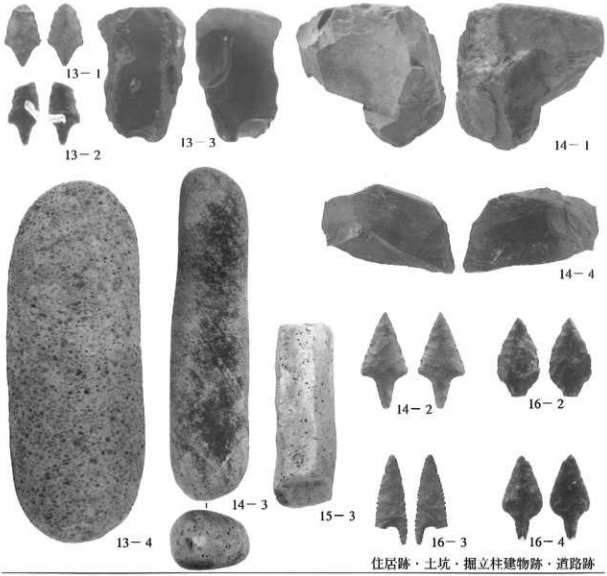


写真12　遺構内（○は盛土遺構）・遺構外出土石器（1）

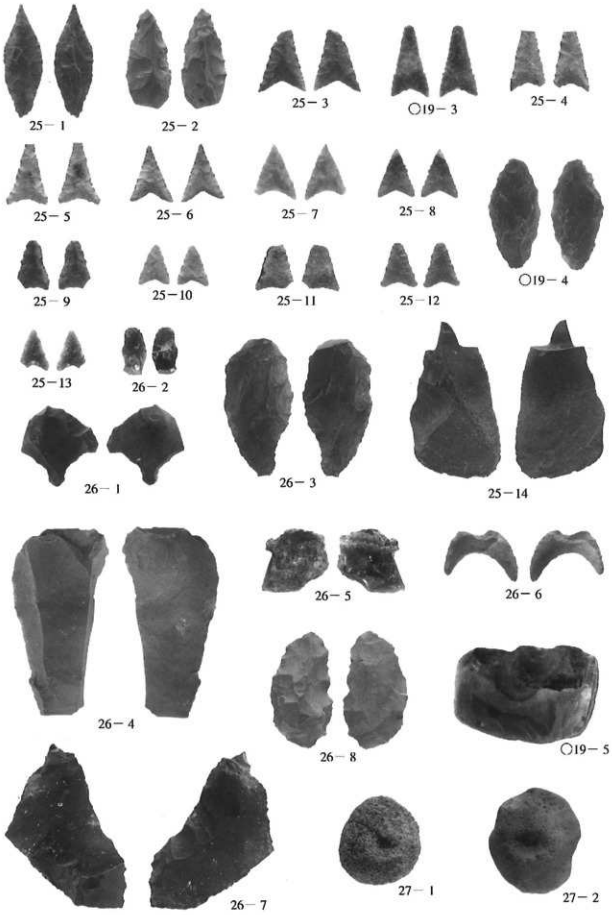


写真13　遺構内（○は盛土遺構）・遺構外出土石器（2）

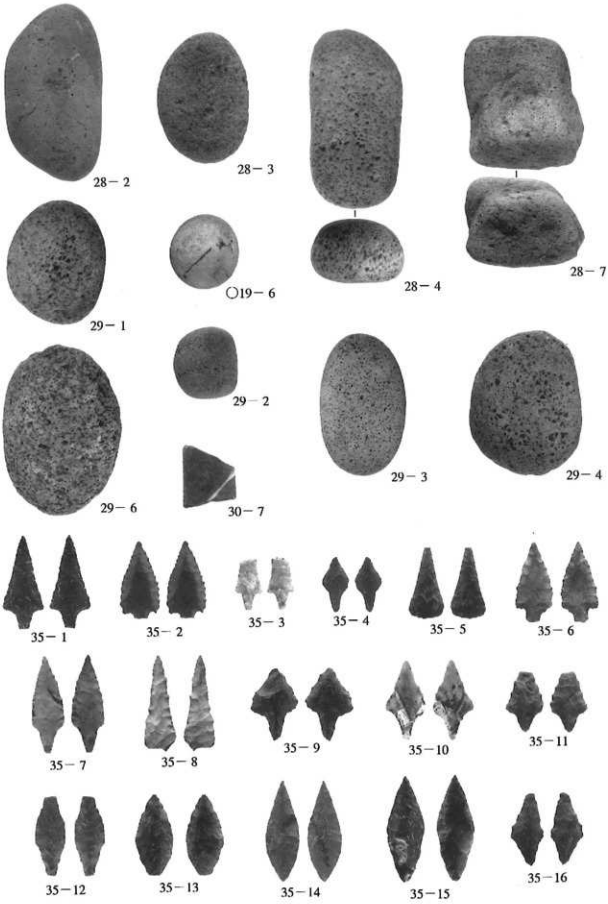


写真14　遺構内（○は盛土遺構）・遺構外出土石器（3）

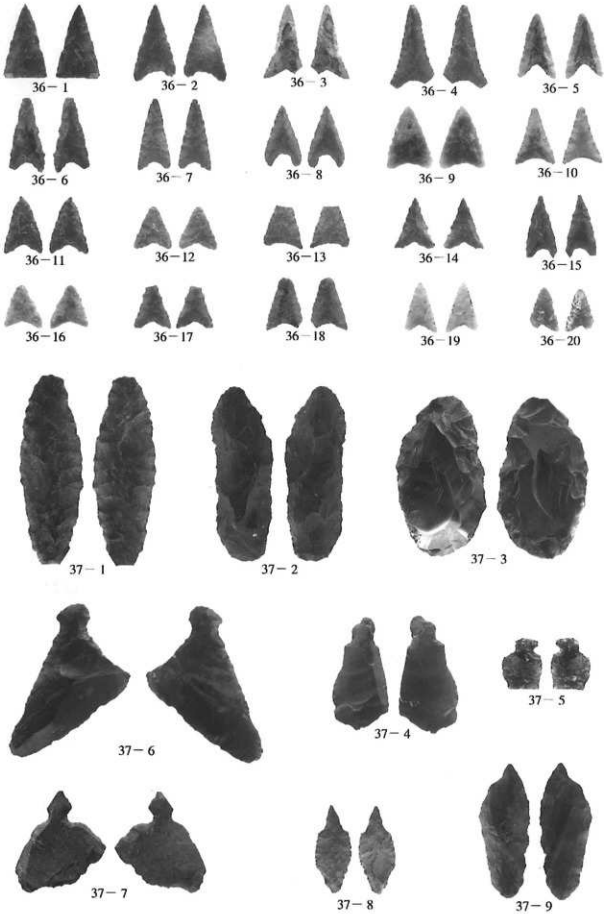
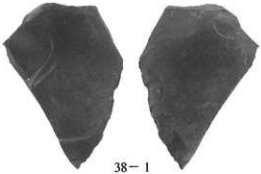
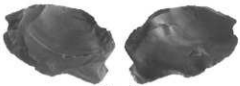


写真15　遺構外出土石器（4）


38－1

38－2

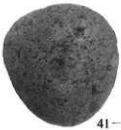
38－3


39－2

38－4

39－1

39－3


41－1

38－5

38－6

40－3

40－5

40－3

40－6

41－4

写真16　遺構外出土石器（5）

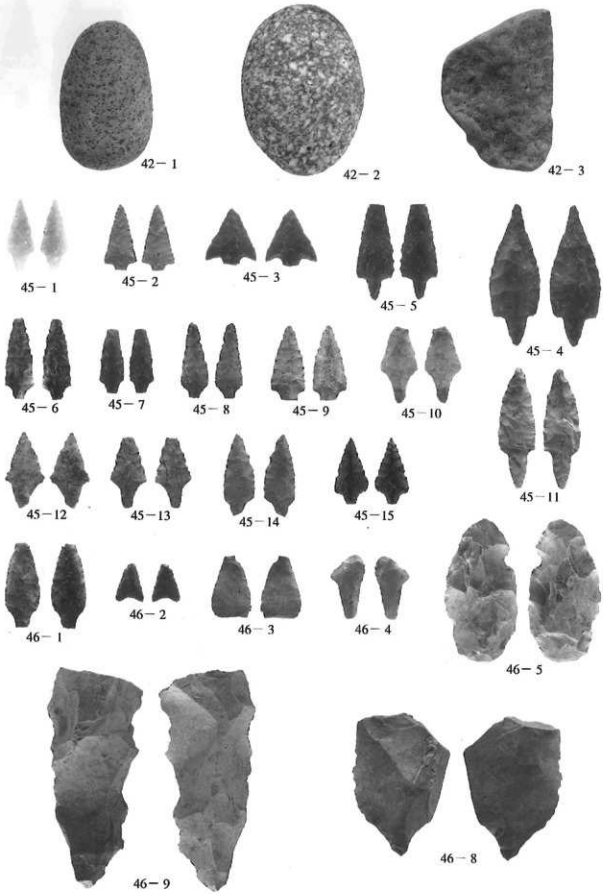
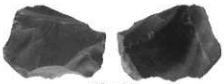
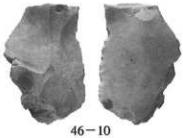


写真17　遺構外出土石器（6）

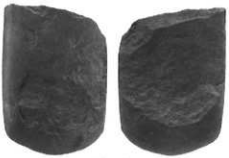


46－9



46－10

47－1



48－1

48－3

48－2

48－4

写真18　遺構外出土石器（7）

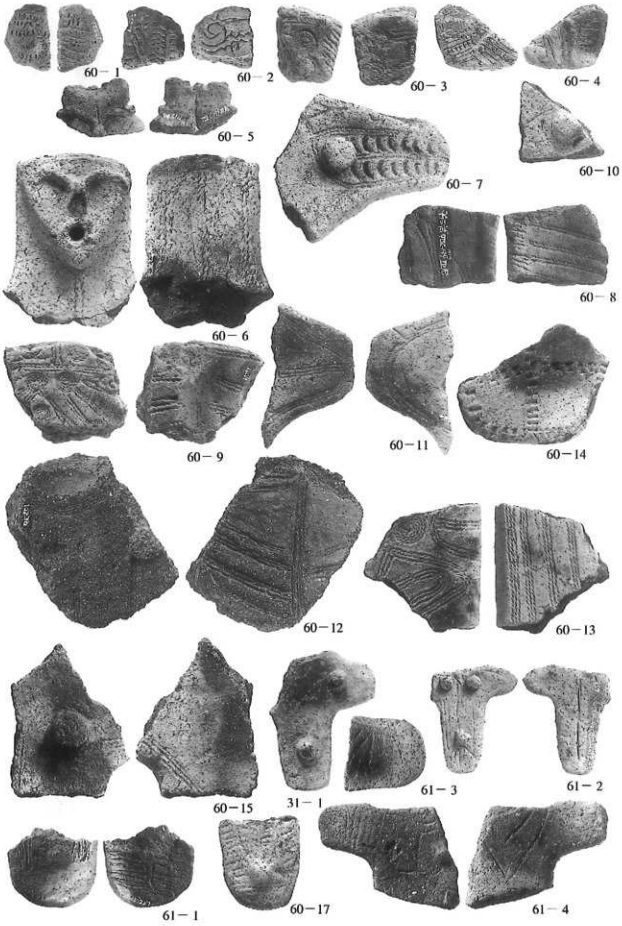


写真19　遺構外出土土製品・石製品（1）

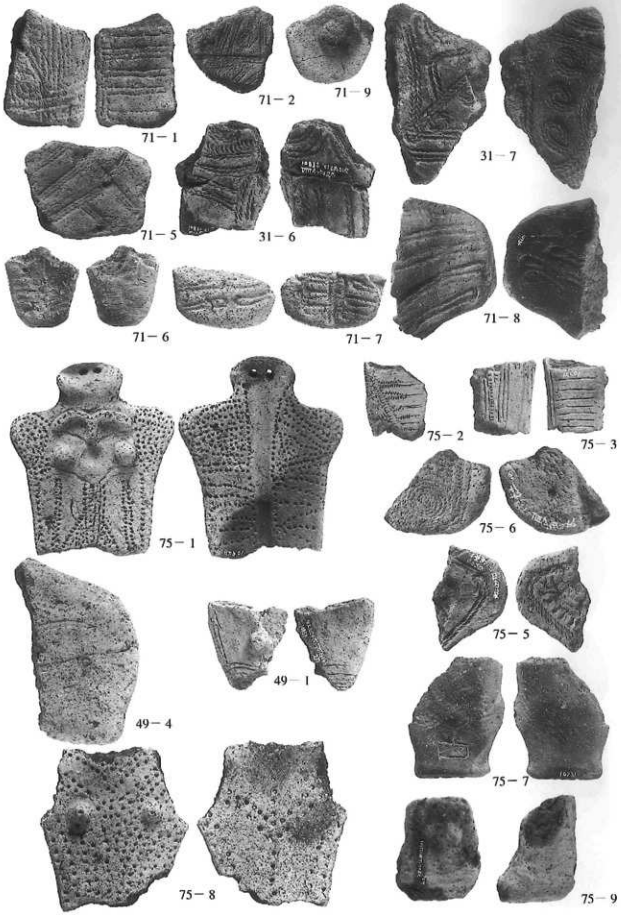


写真20　遺構外出土土製品・石製品（2）

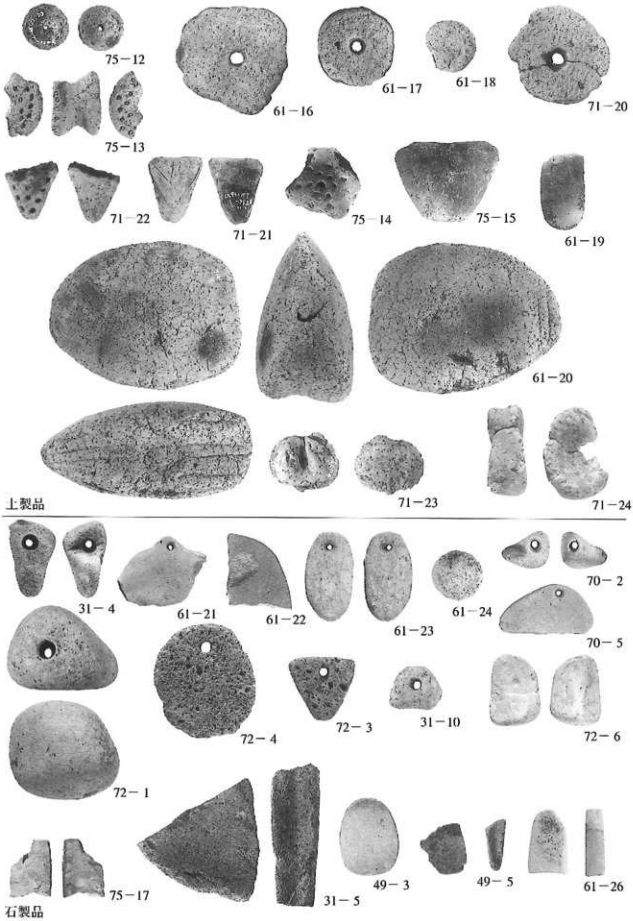


写真21　遺構外出土土製品・石製品（3）

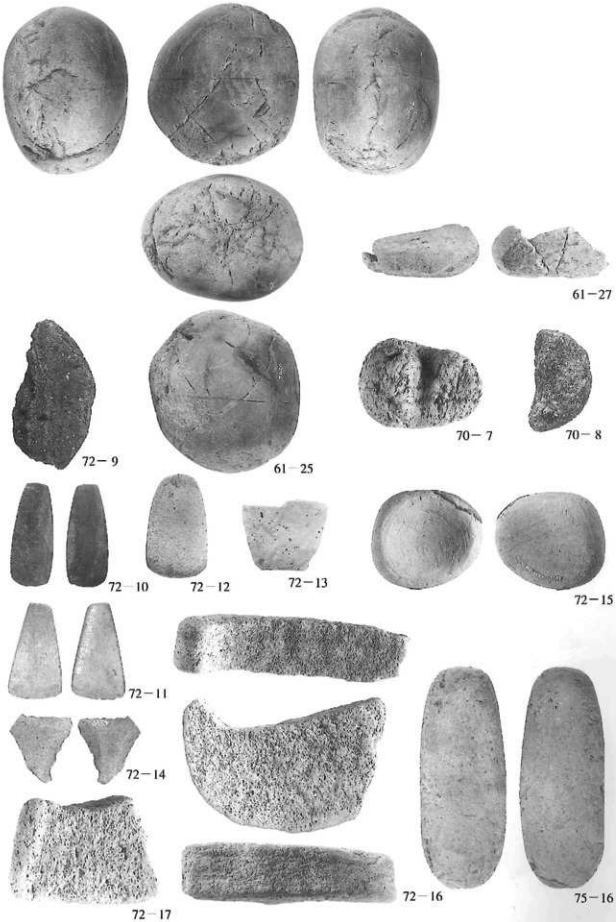


写真22　遺構外出土土製品・石製品（4）

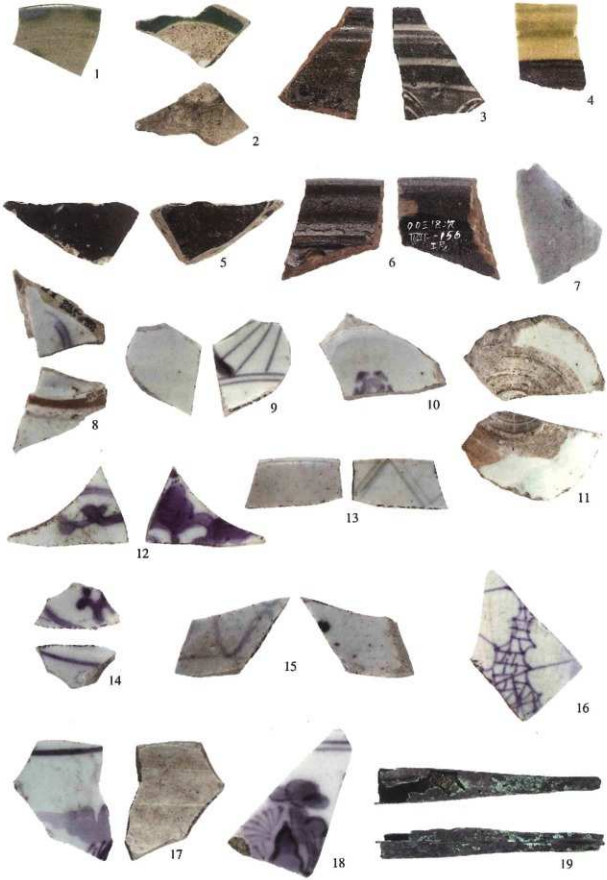


写真23　遺構外出土陶磁器他

報 告 書 抄 録

ふ り が な	さんないまるやまいせき
書　　名	三内丸山遺跡31
副 書 名	第18・21・24次調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第443集
編 著 者 名	岡田康博・中村美杉・木村高・秦光次郎・水谷真由美・浅田智晴
編 集 機 関	青森県教育庁文化財保護課
所　在　地	青森市新町二丁目3番1号　TEL 017-734-9924
発 行 年 月 日	西暦2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふ り が な 所　在　地	コード 市町村	 遺跡番号	日本測地系(Tokyo Datum) 北緯	 東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
さんないまるやまいせき 三内丸山遺跡	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 おおあざさんないあざまるやま 大字三内字丸山	02201	01021	40° 48′ 40″	140° 42′ 20″	(18次調査) 2000.7.17～ 2000.10.19	1,253㎡	集落規模・変遷解明のための学術調査
				世界測地系(JGD2000) 北緯	 東経	(21次調査) 2001.8.20～ 2001.11.20	1,181㎡	
				40° 48′ 50″	140° 42′ 07″	(24次調査) 2002.5.13～ 2002.10.30	2,091㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
三内丸山遺跡	集落跡				縄文時代前・中期の拠点的集落跡の調査
第18・21・24次調査区		縄文時代 時期不明	住居跡　26棟 土坑　78基 土器埋設遺構　53基 掘立柱建物跡　1基 ピット　13基 溝跡　7条	縄文土器（前～中期） 石器 土製品・石製品	遺跡南西側丘陵部で縄文時代中期の土坑墓列を確認。 縄文時代中期の掘立柱建物跡及び貯蔵穴群を確認。 縄文時代中期の道路跡と墓域の広がりを確認。 縄文時代中期の盛土遺構（西盛土）の広がりを確認。

青森県埋蔵文化財調査報告書第443集

三内丸山遺跡31

－第18・21・24次調査報告書－

発行日　平成19年３月31日

発　行　青森県教育委員会

編　集　青森県教育庁文化財保護課
〒030-8540 青森市新町２丁目３－１
TEL　017-734-9924　　FAX　017-734-8280

印　刷　東北印刷工業株式会社
〒030-0902 青森市合浦１丁目２－12

この印刷物は400部作成し、印刷経費は１部当たり4,200円です。